第９章　社会教育

第１節　概要

１　社会教育一般

県社会教育委員の会議では、本県における社会教育推進や地域の教育力向上を目指した施策の成果及び課題を整理するとともに、本県における家庭と地域社会の現状より、社会全体として子育て家庭を支援する必要等について審議することにより、提言「地域全体で子どもたちを育てる協働体制の実現に向けて～地域総ぐるみによる家庭教育・学校教育の充実を通じて～」をまとめ、進捗状況を検証してきた。（第２章 第７節に記載）

２　地域コミュニティの再生

震災からの復興のために、地域コミュニティを再生していくことが重要である。そのために、地域の実情に即して、学校・家庭・地域住民の連携を進めるとともに、それぞれが主体的かつ確実にその役割を果たしながら、地域の教育力向上を図ることができるよう、地域には地域コーディネーターを、学校には地域との連携の窓口となる地域連携担当教職員を置き、双方向性の協働体制のもと、地域が学校を支援していく活動だけでなく、学校も地域に貢献する活動を展開する「地域学校協働活動事業」をはじめ、子どもたちの健全育成と安心安全な活動拠点づくりを推進するための「放課後子ども教室事業」や、地域人材や社会教育団体などの参画を得て、学校と地域の連携の構築を図り、地域全体で学校教育を支援する体制づくりを推進する「学校支援活動事業」を実施するとともに、「学校・家庭・地域連携サポート事業」において、コーディネーターやボランティアを対象とした研修等を実施した。

また、災害記録の保存と県民への情報提供に活用する資料の収集を行い、移動図書館や協力車の巡回を実施して読書普及を通じた支援を行った。

３　家庭教育

家庭教育は、子どもが基本的な生活習慣、生活能力、豊かな情操、他人に対する思いやりや善悪の判断などの基本的倫理観、自立心や自制心、社会的なマナーを身につける上で重要な役割を担っている。しかしながら、少子高齢化、高度情報化等、社会環境が激しく変化する現在、子育てに関する課題等も多様化している。そこで、ＰＴＡや企業との連携する等、地域ぐるみで子どもたちを育む仕組みの構築に努め、「地域でつながる家庭教育応援事業」等を実施した。

４　青少年教育

青少年の豊かな人間性や社会性を育むためには、異年齢の子ども同士や地域の大人等の関わりのもと、自然体験、ボランティア活動、職業体験、交流体験、スポーツ・文化活動等の様々な体験の機会の充実や社会環境づくりが促進されることが必要である。そのために、「体験活動・ボランティア推進センター事業」を実施するとともに、学校・家庭・地域が連携を進めながら、地域ぐるみで青少年を育成する環境づくりが推進されるよう、子どもと大人が、共通の体験をとおして、感動したことや共感したことを話し合い、また、震災からさらなる復興を願った「ふくしま」への思いを、日本古来の五・七・五の十七音で表現した作品を募集、表彰、広報する「ふくしまを十七字で奏でよう絆ふれあい支援事業」を実施した。

５　成人教育

地域における大人の持つ知識や技能、公民館等において学習した成果などを、地域社会に還元する活動の重要性が高まっていることから、地域の教育力の向上への取組と関連させながら、成人の学習活動や社会参加活動を促進するよう努めた。

６　子どもの読書活動推進

第三次「福島県子ども読書活動推進計画」に基づき、関係機関と連携して、地域で子どもの読書活動を推進するボランティアの資質向上を図り、学校図書館への支援等もできる人材の養成に努めるとともに、福島県子ども読書活動推進会議を開催し、読書活動推進に向けた協議を行った。また、読書の楽しさや自ら進んで読書に親しむきっかけとして、中高校生によるビブリオバトルを開催した。

７　ユネスコ活動

ユネスコ憲章の精神に基づく教育・科学・文化活動についての理解を県民一般に広めるよう努めた。

８　ふくしまっ子自然体験・交流活動支援事業

子どもたちの豊かな人間性や生きる力を育むために「ふくしまっ子自然体験・交流活動支援事業」を実施し、東日本大震災の経験を踏まえ、再発見した郷土の良さを伝え合い発信していく様な交流活動を行う団体や充実した自然体験活動等を行う団体に対し、補助金を交付した。

９　子どもがふみだす ふくしま復興体験応援事業

子どもたちが福島の今を伝える活動を行う中で主体的に復興に寄与する社会体験活動に取り組むことなど、その想いを具現化できる機会を提供するため、「子どもがふみだす　ふくしま復興体験応援事業」を実施し、市町村や青少年育成団体等が実施する事業に対し、補助金を交付した。

第２節　社会教育一般

１　社会教育推進体制の充実

⑴　社会教育行政の推進

社会教育担当者会議

第１回　日　時　平成 30 年４月６日(金)
　　　　場　所　公立学校共済組合飯坂保養所

第２回　日　時　平成 31 年２月１日(金)
　　　　場　所　公立学校共済組合飯坂保養所

⑵　社会教育主事の設置

社会教育活動の充実を図るため、県立自然の家へ社会教育主事を配置するなど設置促進に努めた。

⑶　社会教育関係職員の研修

ア　市町村の社会教育主事や公民館職員、図書館職員、社会教育指導員などの社会教育関係職員を対象とした研修機会の充実を図り、その資質向上に努めた。

イ　国立教育政策研究所等で実施する専門的な研修講座への計画的な派遣に努めた。

⑷　各種社会教育関係団体等との連携

地域の教育力向上を図る観点から、各種社会教育関係団体等の果たす役割や学校・家庭・地域住民の連携を促進するための活動が重要であるため、各種社会教育関係団体等との連携に努めた。

２　社会教育施設の整備充実

⑴　県立社会教育施設の整備充実

ア　県立図書館の整備充実

県民への図書館サービスの向上を図るため、図書館資料や設備・備品等の整備充実に努めるとともに、「県立図書館情報ネットワークシステム」を活用して公立図書館や公民館図書室、学校図書館等との連携の強化に努めた。

イ　福島県自然の家の整備充実

自然の中での集団宿泊体験を通して青少年の健全育成を図る場や機会を拡充するため、自然の家の整備充実に努めた。

⑵　市町村立社会教育施設の整備促進

ア　公民館の整備促進

地域住民のための学習の拠点となる社会教育施設として、多様化した学習ニーズに的確に対応し、充実した公民館活動が行われるよう、市町村に対し、長期的な展望に立った施設・設備の在り方について助言した。

イ　市町村立図書館の整備促進

市町村立図書館を 26 自治体巡回し、図書館の運営相談や相互賃借資料等の搬送等を行った。

また、高等教育機関にも巡回しその連携体制の強化に努めた。

⑶　災害復旧国庫補助事業

東日本大震災で被災した公立社会教育施設の災害復旧事業を補助するため、災害査定（現地調査）等の事務を行った。また、未だ申請できない双葉地区等の市町村について情報収集を行い、復旧に向けての準備ができるよう働きかけた。

３　社会教育関係職員の研修

⑴　公民館職員研修会

ア　期日　平成 30 年５月 16 日㈬～17 日㈭

イ　会場　福島県男女共生センター

ウ　参加対象　市町村公民館職員でおおむね３年未満の者及び社会教育関係者

エ　参加者数　67 名

オ　講師

教育庁社会教育課長　菊池　篤志
郡山市立中田公民館長　宗像　善夫
福島大学地域創造支援センター
副センター長・教授　木暮　照正
喜多方市松山公民館長　飯野　信也
会津教育事務所主任社会教育主事　髙原　昇
教育庁社会教育課主幹　渋川　卓也

⑵　福島県市町村社会教育担当者研修会

ア　期日　平成 30 年８月 28 日㈫～29 日㈬

イ　会場　福島県男女共生センター

ウ　参加対象　社会教育関係行政職員（公民館職員、社会教育主事等の社会教育関係事業担当２年目以上の職員）、社会教育指導員等

エ　参加者数　１日目 44 名、２日目 24 名

オ　講師

尚絅学院大学エクステンションセンター特任教授
松田　道雄
福島市吉井田学習センター館長　矢吹　稔
山形県高畠町二井宿地区公民館長　神保　一雄
同公民館館長代理　土田　裕一
文部科学省国立教育政策研究所社会教育実践研究センター
社会教育調査官（併）専門調査員　山田　智章
棚倉町教育員会生涯学習課主事兼社会教育主事
古市　裕幸

４　社会教育研究集会

⑴　主催　福島県市町村社会教育委員連絡協議会
一般社団法人全国社会教育委員連合

⑵　主管　いわき地区社会教育委員連絡協議会

⑶　共催　いわき市教育委員会

⑷　後援　福島県教育委員会

⑸　日程・内容

ア　期日　平成 30 年 10 月４日㈭～５日㈮

イ　会場　いわき市文化センター　他

ウ　参加対象　市町村社会教育委員、市町村社会教育行政担当者、社会教育関係施設職員、社会教育関係団体会員　他

エ　参加者数　２日間のべ 439 名

オ　基調講演

講師　アクアマリンふくしま館長　安部　義孝
演題　「第 10 回世界水族館会議を前にして」

カ　分科会

第１分科会「子育て・家庭教育支援について」
第２分科会「地域と学校との連携・協働について」
第３分科会「地域を担う人材発掘・人材育成について」
第４分科会「社会教育委員の役割について」

5　社会教育指導員の設置

⑴　設置数　　（単位：人）

	県北	県中	県南	会津	南会津	相双	いわき	計
社会教育指導員数	48	18	11	58	16	11	6	168

⑵　福島県市町村社会教育指導員研修会（年２回）

ア　第１回

(ｱ) 期日　平成 30 年５月９日(水)

(ｲ) 場所　郡山市労働福祉会館

(ｳ) 対象　福島県市町村社会教育指導員

(ｴ) 参加者数　130 名

(ｵ) 講師　社会教育課社会教育主事　戸井田　修

イ　第２回

(ｱ) 期日　平成 30 年９月 28 日(金)

(ｲ) 場所　いわき海浜自然の家

(ｳ) 対象　福島県市町村社会教育指導員、青少年教育指導員、社会教育主事、公民館職員等社会教育関係者

(ｴ) 参加人数　113 名

(ｵ) 講師　いわき総合図書館長　夏井　芳徳
　　演題　「戊辰戦争から 150 年」

6　社会教育主事の市町村派遣

※　平成 22 年度より派遣していない。

7　社会教育研修会

⑴　内容

社会教育推進上の諸問題についての協議等を通してその方策を明らかにし、市町村における社会教育の振興・充実に資する。

市町村職員及び社会教育委員等を対象として希望市町村の計画に基づき実施する。

⑵　対象

公民館職員、公民館運営審議会委員、社会教育委員、社会教育関係者

⑶　期日・会場

域　内	期　日	実施市町村等	参加者
県　北	９月15日	国見町	39 名
	９月28日	大玉村	28 名
県　中	７月20日	天栄村	8 名
	８月９日	石川地社連	25 名
	10月４日	田村市	37 名
県　南	６月29日	矢祭町	10 名
会　津	７月５日	金山町	8 名
	７月22日	猪苗代町	12 名
	11月９日	柳津町	8 名
南会津	８月３日	下郷町	26 名
	11月21日	檜枝岐村	4 名
相　双	６月23日	広野町	8 名
	８月９日	相馬市	10 名
	９月28日	飯舘村	12 名

合計　14 か所　　参加者　235 名

8　福島県公民館研究集会

⑴　期　　日　平成 30 年 10 月 18 日(木)

⑵　会　　場　白河市表郷公民館

⑶　参加対象　公民館職員等

⑷　講　　師　株式会社アポロガス社長　篠木　雄司

9　社会教育職員研修派遣

⑴　東北大学社会教育主事講習

ア　主催　東北大学教育学部

イ　期日・会場

平成 30 年６月 21 日(木)～22 日(金)
　二本松市男女共生センター
平成 30 年７月２日(月)～８月８日(水)
　国立磐梯青少年交流の家
　東北大学教育学部

ウ　受講者数 18 名

エ　修了者名

域　内	氏　名	勤　務　先
県北(5)	氏家　博行	福島市立土湯小学校
	安西　裕紀	福島市吉井田学習センター
	菅野　貴裕	福島市信陵学習センター
	鈴木　真英	桑折町教育委員会生涯学習課
	武藤　彰裕	本宮市立本宮第一中学校
県中(1)	高宮　裕	郡山市立永盛小学校
県南(3)	岸浪　明美	白河市立信夫第一小学校
	笹山美紀子	白河市立白河第二小学校
	渡辺　康嗣	西郷村立小田倉小学校
会津(2)	大関　美華	会津若松市立一箕小学校
	伊藤　大	喜多方市立第一小学校
南会津(2)	仲丸　和宏	只見町朝日立小学校
	赤井　勉	南会津町伊南小学校
いわき(2)	戸田　裕樹	いわき市立湯本第三小学校
	橋本　雄一	いわき市立小名浜第三小学校
相双(2)	烏中　雪野	飯舘村立草野小学校
	渡部　友彦	大熊町教育委員会教育総務課
県立(1)	野地　宏	福島県立大笹生支援学校

⑵ 国立教育政策研究所主催講習

ア　社会教育主事講習

(ｱ) 会場　国立教育政策研究所社会教育実践研究センター

(ｲ) 期日

a　A講習　平成30年7月23日(月)～8月24日(金)

b　B講習　平成31年1月21日(月)～2月27日(水)

(ｳ) 受講者数

a　A講習　　0名

b　B講習　　1名

(ｴ) 修了者名

講習名	氏　名	勤　務　先
B講習(1)	齋藤　慶太	須賀川市文化スポーツ部

イ　専門講座等

講　座　名	期　間	受講者数
社会教育主事専門講座	11月6日(火)～9日(金)	0

10　出版資料

資　料　名	部　門	規格	頁数	広報手段
社会教育　№339	社会教育	A4	12	Web掲載

第3節　地域コミュニティの再生

1　地域学校協働活動事業

⑴ 目的

県内8本部を先進的な取組のモデル学区に指定し、地域の総合窓口として「地域コーディネーター」を配置し、学校の窓口として「地域連携担当教職員」を置き、地域と学校が連携・協働のもと幅広い地域住民等が参画し、郷土学習や地域行事への参加等をとおして、地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支え、地域づくりを推進する事業を展開する。

⑵ 県事業

ア　評価・検証委員会の設置

第1回

期日：平成30年7月17日(火)

会場：杉妻会館

第2回

期日：平成30年10月22日(月)

会場：西会津町立西会津中学校

第3回

期日：平成31年2月19日(火)

会場：杉妻会館

イ　地域連携担当教職員等連絡協議会の実施

第1回

期日：平成30年5月28日(月)34名参加

講義：尚絅学院大学　　松田　道雄

第2回

期日：平成30年11月2日(金)39名参加

講義：栃木県教育委員会　井上　昌幸

尚絅学院大学　　松田　道雄

第3回

期日：平成31年2月26日(火)34名参加

講話：「地域学校協働活動事業の最終年度の取組に向けて」　尚絅学院大学　松田　道雄

ウ　地域学校協働活動事業推進フォーラムの実施

期日：平成31年1月30日(水)278名参加

会場：郡山市ビッグパレットふくしま

実践発表：「地域学校協働活動事業の実践について」

モデル8市町村（国見町、大玉村、天栄村、西郷村、西会津町、川内村、双葉町、楢葉町）

シンポジウム：

コーディネーター

尚絅学院大学　　松田　道雄

パネリスト

栃木県教育委員会　　井上　昌幸

栃木県都賀中学校　　森田　聡

国見町教育長　　岡崎　忠昭

楢葉町立楢葉南小学校　横田　一夫

総評：福島県復興教育アドバイザー

貝ノ瀬　滋

⑶ 市町村事業

ア　評価・検証委員会の実施

イ　地域学校協働活動事業の実施　　8町村

2　放課後子ども教室事業

⑴ 目的

すべての児童を対象とし、地域の方々の参画を得て、様々な体験活動や交流活動を行う「放課後子ども教室」を設置し、放課後等の子どもたちの安全で健やかな居場所をつくる。

⑵ 県事業

○放課後子ども教室の実施

県立特別支援学校（3教室）

・福島県立聴覚支援学校福島校

・福島県立聴覚支援学校平校

・福島県立平支援学校

⑶ 市町村事業

ア　運営委員会の実施

イ　子ども教室の実施

38市町村　126教室実施

3　学校支援活動事業

⑴ 目的

地域人材や団体などの参画を得て、学校と地域が連携し、地域全体で学校教育を支援する体制づくりを推進する。

⑵　市町村委託

19の市町村（桑折町、国見町、大玉村、本宮市、鏡石町、天栄村、石川町、玉川村、田村市、三春町、西郷村、会津若松市、北塩原村、柳津町、三島町、西会津町、浪江町、富岡町、楢葉町）に32の地域学校協働本部が設置され実施した。

⑶　市町村補助

なし

4　学校・家庭・地域連携サポート事業

⑴　目的

未来を担う子どもたちを健やかに育むために、学校、家庭、地域住民等がそれぞれの役割と自覚し、地域全体で教育活動を支援する体制づくりを目指す。特に、震災後の子どもたちを取り巻く環境の変化に対応した要望に応えることのできる支援を行うことにより、教育環境の復興を加速させる。

⑵　県事業

ア　放課後子ども教室地区別研修会　７か所

【県北地区】

第１回
期　日　平成30年８月７日(火)
会　場　吾妻学習センター
参加者　76名
内　容　講話・演習・情報交換

第２回
期　日　平成30年10月12日(金)
会　場　二本松文化センター
参加者　46名
内　容　演習・情報交換

【県中地区】
期　日　平成30年８月23日(木)
会　場　たまかわ文化体育館
参加者　36名
内　容　講演・演習・情報交換

【県南地区】
期　日　平成30年８月29日(水)
会　場　白河市　新白信ビル
参加者　41名
内　容　実践紹介・講演・グループ協議

【会津地区】
期　日　平成30年７月18日(水)
会　場　会津若松市立河東学園小学校
参加者　110名
内　容　講演・実践発表・協議・子ども教室見学

【南会津地区】
期　日　平成30年８月24日(金)
会　場　南会津町御蔵入交流館
参加者　39名
内　容　実技研修

【相双地区】
期　日　平成31年１月16日(水)
会　場　道の駅南相馬ホール
参加者　41名
内　容　講話・演習・情報交換

イ　学校支援実践研修会（本庁）
期　日　平成30年６月４日(月)
場　所　ユラックス熱海
内　容

講　演
「ふれあい学習の推進ととちぎ未来アシストネット～栃木県教育委員会と栃木市の取組」
栃木県教育委員会事務局下都賀教育事務所
ふれあい学習課　所長補佐兼課長　星　育夫
栃木県栃木市とちぎ未来アシストネット
大平中地域コーディネーター　　柳田　和子

事例発表Ⅰ
「国見町地域学校協働本部の取組について」
国見町教育委員会生涯学習課
課長補佐兼係長　半澤　一隆

事例発表Ⅱ
「金山町の放課後子ども教室」
金山町教育委員会　教育係長　五ノ井　智徳

グループ協議
「効果的な教育プログラムの実践に向けて」
参加者　169名

ウ　学校支援実践研修会各地区研修会（事務所）

【県北地区】
期　日　平成30年11月27日(火)
場　所　大玉村農村環境改善センター
参加者　47名

【県中地区】
期　日　平成30年12月４日(火)
場　所　たまかわ文化体育館
参加者　39名

【県南地区】
期　日　平成30年７月25日(水)
場　所　白河市合同庁舎大会議室
参加者　40名

【会津地区】
期　日　平成30年10月３日(水)
場　所　道の駅あいづ　湯川・会津坂下
参加者　87名

【南会津地区】
期　日　平成30年11月７日(水)
場　所　南会津町南郷総合センター
参加者　41名

【相双地区】
期　日　平成31年１月16日(水)
場　所　道の駅南相馬ホール
参加者　41名

５　東日本大震災福島県復興ライブラリー整備事業

⑴　目的

災害記録の保存と県民への情報提供のため、関連資料の収集を行う。資料は館内での提供と貸出に加え、出張展示にも活用する。また、避難自治体の教育委員会と連携し学校等への移動図書館（あづま号）の巡回を実施し、資料の貸出による支援を行う。

⑵　内容

ア　震災及び原発事故関連資料収集

資料収集件数　12,316 件

イ　避難自治体支援

移動図書館（あづま号）による資料貸出

稼働 18 回　　貸出 3,632 冊

（開催場所　飯舘村、楢葉町他　計 20 か所）

第４節　家庭教育

１　地域でつながる家庭教育応援事業

⑴　目的

本県の家庭教育推進上の大きな課題である「親の学び」を支援するために、ＰＴＡと連携し、家庭教育について親自身が学ぶ機会が充実するよう支援する。また、各地域で主体的に家庭教育の支援が行えるよう学習プログラムを作成するとともに、家庭教育支援者をリードする人材を育成する。さらに、企業と連携し地域の家庭教育を推進する。

⑵　家庭教育応援プロジェクト

ア　福島県地域家庭教育推進協議会

第１回　平成 30 年５月 23 日(水)　杉妻会館

第２回　平成 31 年２月４日(月)　ふくしま中町会館

イ　地域家庭教育推進各地区ブロック会議

各教育事務所域内（７か所）

各地区２回実施　（６月～１月）

ウ　家庭教育応援企業推進活動

連携企業数

県北地区	45 社（173 社）
県中地区	30 社（225 社）
県南地区	29 社（ 57 社）
会津地区	０社（145 社）
南会津地区	２社（ 59 社）
相双地区	０社（ 10 社）
いわき地区	10 社（ 40 社）
計	116 社（709 社）※（　）累計

エ　親子の学び応援講座

【県北地区】

川俣町ＰＴＡ連絡協議会　70名
平成30年８月１日(水)
「子どもの自己肯定感を高める親・教師の接し方」
福島県学校教育相談員　山本　和宏

二本松市立安達中学校区ＰＴＡ　400名
平成30年11月５日(月)
「これまで歩んできた道、そしてこれからの福島に寄せる思い」
ふくしまボンガーズ　橋本　亜由美
同　齋藤　智暁

伊達地区ＰＴＡ連絡協議会　250名
平成30年11月10日(土)
「東南アジア、山岳少数民族の子どもたちの瞳の輝きから学ぶ」
特別非営利活動法人「シーエスアールスクエア」
理事長　宍戸　仙助

福島市立福島第三中学校区ＰＴＡ　40名
平成30年12月１日（土）
「スマホ・ケータイ安全教室」～スマホ・ケータイと正しく付き合うために～
ＮＴＴドコモ　スマホ・ケータイ教室ＣＳ
東北インストラクター　永澤　亜希子

【県中地区】

浮金小学校ＰＴＡ　107名
平成30年６月17日(日)
「子どもたちを健康に導く運動プログラム”ＢＡＬＬＧＡＭＥ“」体験会
福島ファイアーボンズ　猪狩　渉
国際ビジネス公務員大学校　堀越　啓子
同　高階　裕美
同　学生ボランティア　４名

三春方部幼小中ＰＴＡ連絡協議会　89名
平成30年６月24日(日)
「子どもが危ない！　スマホ社会～知らなかっただけでは済まされない～」
株式会社情報文化総合研究所代表取締役
佐藤　佳弘

郡山市ＰＴＡ連合会東ブロック勉強会　203名
平成30年８月18日(土)
「ネット時代を生きるこどもたち」
聖心女子大学非常勤講師　榎本　竜二

【県南地区】

小田倉地域ＰＴＡ　90名
平成30年７月19日(木)
「あなたの想い、子どもの心に届いていますか」
～心を通わす、コミュニケーション～
親業訓練シニアイストラクター　大屋　弘子

西白河ＰＴＡ連絡協議会　60名
平成30年11月２日(金)
「健やかな子どもを育てるための食育」
郡山女子大学　食物栄養学科　准教授
亀田　明美

鮫川小・中学校ＰＴＡ　150名
平成30年11月10日（土）
「聞いて語って、話して語って」
～聞く語る」、心を通わすコミュニケーション～親業訓練シニアイストラクター　大屋　弘子

白河市幼・小・中・高ＰＴＡの集い　100名
平成30年11月10日（土）
「人間ってすごい。でも、子どもってもっとすごい」
茨城県生涯学習・社会教育研究会会長　長谷川 幸介
絵本喫茶「なんだかうれしい」店主　長谷川 鈴子

五箇中学校区学校保健委員会　130名
平成30年11月30日（金）
「メディア機器と心の健康」
福島県立矢吹病院　副院長　角田　智哉

棚倉中学校ＰＴＡ 棚倉町内小学校ＰＴＡ 550名
平成30年11月30日（金）
「461個の弁当は、親父と息子の男の約束」
ミュージシャン（猪苗代湖ズ）　渡辺　俊美

【会津地区】

三島町・中ＰＴＡ連絡協議会　61名
平成30年10月20日（土）
「ソーシャルメディア・スマートフォン利用の光と影」
会津大学上級准教授　清野　正哉

河東学園小中学校ＰＴＡ　120名
平成30年10月20日（土）
「初心者からはじめるプログラミング体験」
株式会社　ＰＬＩＳＥ　西川　直登

【南会津地区】

朝日小学校・只見中学校ＰＴＡ　36名
平成30年５月31日（木）
「メディアが子どもの生活に及ぼす影響について」
南会津教育事務所指導主事　伊藤　武徳

下郷町小中学校ＰＴＡ　65名
平成30年６月９日（土）
「思春期を迎える、子どもとのコミュニケーョン～通い合っていますか、子どもの気持ちと親の思い～」
親業訓練シニアインストラクター　大屋　弘子

伊南保育所・伊南小学校ＰＴＡ　34名
平成30年６月14日（木）
「メディアの怖さと子どもの生活に及ぼす影響について」
南会津警察署刑事生活安全課
生活安全係少年警察補導員　武藤　好美
南会津教育事務所指導主事兼社会教育主事
猪股　克亘

舘岩小中学校ＰＴＡ　42名
平成30年６月29日（金）
「成長期の食生活」
南会津郡南会津町立伊南小学校
栄養教諭　横田　みえ子

田島第二小学校・田島中学校ＰＴＡ　168名
平成30年６月29日（金）
「親子でチャレンジ楽しい運動プログラム」
福島大学　鈴木　裕美子

檜枝岐中学校区ＰＴＡ　98名
平成30年７月３日（火）
「呼び起こそう子どもの好奇心を！～宇宙飛行士体験を通して～」
宇宙航空研究開発機構　広報部　中沢　孝
「インターネット・スマートフォンを安全に利用するためには」
違法・有害情報相談センター
センター長　桑子　博行

下郷中学校区ＰＴＡ　180名
平成30年７月４日（水）
「健康な生活」
公益社団法人日本3B体操協会　木戸　慶子

只見小学校・只見中学校ＰＴＡ　69名
平成30年７月４日（水）
「家読のさらなる充実をめざして」
国見町教育委員会教育長　岡崎　忠昭

南会津中学校区ＰＴＡ　103名
平成30年７月７日（日）
「夢の実現に向けて」
株式会社白石モータース　代表取締役
白石　高司

明和小学校・只見中学校ＰＴＡ　69名
平成30年７月12日（木）
「家庭教育の基本はよい生活習慣と心を通わすコミュニケーション」
親業訓練シニアインストラクター
大屋　弘子

暁の星幼稚園・田島小学校ＰＴＡ　27名
平成30年８月14日（金）
「幼児期の遊びと成長に係る有効性について」
ＮＰＯ法人郡山ペップ子育てネットワーク
理事長　菊池　信太郎

荒海小学校・荒海中学校ＰＴＡ　32名
平成30年９月20日（木）
「ＳＮＳの利用状況の実態や問題点について」
南会津教育事務所学校教育課指導主事
伊藤　武徳

【相双地区】

楢葉南北小学校ＰＴＡ　156名
平成30年６月29日（月）
「メディアによる子どもの心身への影響とメディアとのよりよい関わり方」
ＮＰＯ日本コンピュータ振興協会
理事長　根本　雅昭

相馬市立大野小学校　61名
平成30年７月６日(金)
「パステルシャインアート講座」
パステルシャインアート講師　髙橋　美樹
相馬市立日立木小学校　38名
平成31年２月22日(金)
「思春期の子どもの育て方について」
相馬市立日立木小学校スクールカウンセラー
新井　順

【いわき地区】
小名浜第二小学校　388名
平成30年６月27日(水)
「メディアとかしこくつきあう方法」
子どもとメディア関東　インストラクター
水野　史代
湯本第一中学校区　376名
平成30年９月12日(水)
「夢をかなえるコツ」
福島大学名誉教授 朝日大学教授 白石　豊
菊田小学校区　319名
平成30年12月13日(木)
「ネット依存ってな～に～その危険と対策～」
(小学生向け)
「ネット依存の実際と教師や親ができること」
(大人向け)
独立行政法人 国立病院機構
久里浜医療センター 臨床心理士　三原　聡子

第５節　青少年教育

１　体験活動・ボランティア推進センター事業

(1)　目的

青少年の社会性や思いやりの心など豊かな人間性を育むため、学校内外を通じた体験活動やボランティア活動の機会の充実を図ることを目的に情報提供やコーディネート等を行う推進センターを県に設置し、市町村並びに市町村センターにおける体験活動・ボランティア活動の推進体制を支援する。

(2)　内容

ア　本部センターの設置
(ｱ) 構成
・センター長（社会教育課長）
・副センター長（社会教育課主幹）
・コーディネーター（社会教育主事兼指導主事）
(ｲ) 内容
・各種研修会に関すること
・連絡調整、情報収集、調査研究に関すること
・人材登録に関すること
・地域センターの統括、指導助言に関すること

イ　地域センターの設置
(ｱ) 構成
・センター長（教育事務所総務社会教育課長）
・コーディネーター（社会教育主事、指導主事）
(ｲ) 内容
・公民館及び学校の訪問指導に関すること
・連絡調整、情報収集、調査研究に関すること
・人材登録に関すること
・市町村センターとの連携に関すること

ウ　学校における推進体制の整備
(ｱ) 体験活動等推進委員会の開催
(ｲ) 体験活動等推進委員会主任（教頭又は社会教育主事有資格者等）の配置

エ　学習支援ボランティアの登録推進
(ｱ) 目的
青少年の体験活動の支援にあたるボランティアの登録を促進するとともに、学校内外における青少年の体験活動を支援することにより、地域の教育力の向上に寄与する。
(ｲ) 対象　ボランティアを推進する県民一般
(ｳ) 内容
学習支援ボランティア、読書活動ボランティア、ノートテイクボランティア、外国出身者支援ボランティア、家庭教育支援ボランティア、病院訪問学習支援ボランティアの登録や活動を支援する。
・学習支援ボランティア登録人数　427 名
・読書活動ボランティア登録人数　264 名
・ノートテイクボランティア登録人数　2 名
・外国出身者支援ボランティア登録人数　25 名
・家庭教育支援ボランティア登録人数　205 名
・病院訪問学習支援ボランティア登録人数 19 名
計　942 名

２　ふくしまを十七字で奏でよう絆ふれあい支援事業

(1)　目的

家庭や地域における人と人とのかかわりの中で感じた思いや願いを十七音で表現することを通して、子どもの豊かな心を育成するとともに、人と人との絆を深め、家庭や地域の教育力の向上を目指す。

また、全国に避難している方からも作品を募集し「ふくしま」のことを考えるきっかけとする。

(2)　内容

ア　応募期間　平成 30 年７月２日(月)
～９月 14 日(金)
イ　応募総数　44,545 組
ウ　最終審査会　平成 30 年 11 月 16 日(金)
エ　審査員　和合　亮一（福島県立本宮高等学校教諭）
佐々木孝司（新地町教育委員会教育長）
室井　君男（県公立学校退職校長会副会長）

オ　表彰式及び応募者　　平成30年12月15日(土)
ホテル福島グリーンパレス

カ　入賞数　絆部門・復興部門　最優秀賞各５組
優秀賞各５組、佳作各10組

⑶　広報・普及活動

ア　募集・応募

県内各幼稚園、保育園、小・中学校、高等学校、特別支援学校、社会教育施設、教育事務所等にチラシ・応募用紙を配布した。また、社会教育課のホームページに掲載した。

イ　事後の広報

優秀作品を社会教育課のホームページに掲載したほか、ラジオ放送での紹介とYouTubeの動画配信にて紹介した。各教育事務所においては、域内の作品集を作成し、事業の普及に努めた。

第６節　成人教育

主に各関係団体の諸活動や研修会における指導助言や人的補助を行う。

第７節　子どもの読書活動推進

１　ふくしまの未来をひらく読書の力 プロジェクト

⑴　福島県子どもの読書活動推進会議

【第１回】平成30年7月10日(火)
杉妻会館３階「鈴蘭」

【第２回】平成31年２月５日(火)
杉妻会館３階「鈴蘭」

ア　目的

第三次「福島県子ども読書活動推進計画」に沿って、読書活動推進に向けた取組等について協議･評価を行う。

イ　子ども読書推進会議委員

氏　名	職業等	区　　分
高野　保夫	国立大学法人福島大学名誉教授	学識経験者
三瓶亜記子	福島県高等学校ＰＴＡ連合会副会長	社会教育関係者
中野みどり	福島県学校図書館協議会長	学校図書館関係者
籠田まき子	小野町ふるさと文化の館副主幹	公立図書館等関係者
矢吹　貴美	家庭教育インストラクター	家庭教育関係者
藍原恵美子	NPO法人夢ネットワーク理事長	読書活動に係るボランティア団体関係者

⑵　読書活動支援者育成事業

【県北地区】　平成30年６月14日(木)
桑折町イコーゼ　受講者36名
平成30年６月28日(木)
福島市清水学習センター　受講者32名
平成30年９月14日(金)
福島県立図書館　受講者70名

【県中地区】　平成30年６月20日(水)
郡山市労働福祉会館　受講者54名
平成30年９月21日(金)
郡山市労働福祉会館　受講者50名

【県南地区】　平成30年７月２日(月)
棚倉町立図書館　受講者74名
平成30年10月24日(水)
白河市立図書館　受講者51名

【会津地区】　平成30年７月31日(火)
福島県立博物館　受講者77名
平成30年９月５日(水)
会津大学　受講者89名

【南会津地区】平成30年７月６日(金)
只見町朝日振興センター　受講者39名
平成30年10月25日(木)
南会津町御蔵入交流館　受講者43名

【相双地区】　平成30年７月27日(金)
楢葉町コミュニティセンター　受講者25名
平成30年９月19日(水)
福島県テクノアカデミー　受講者36名

【いわき地区】平成30年７月20日(金)
いわき産業創造館　受講者57名
平成30年10月19日(金)
いわき産業創造館　受講者56名

⑶　子どもの読書活動推進ネットワークフォーラム

期日：平成30年７月30日(月)
場所：郡山市立中央公民館
郡山市勤労青少年ホーム　174名
内容
事業紹介：県の読書活動推進事業について
講演：「本は人の心を豊かにするというけれど・・・」
児童文学者・翻訳者　清水眞砂子
ビブリオバトル実践発表
事例発表：「連携で支える子どもの読書活動」
新地町図書館　司書　髙橋　裕美
事例発表：「エピソードからみる高校生の読書」
福島県立福島西高等学校主任学校司書 吉田　久恵
事例発表：「絵本の力を信じて」
ばんげ読み聞かせの会　鶴見　美佐子

⑷　情報発信プロジェクト「ビブリオバトル福島県大会」

期日：平成 30 年 11 月 17 日(土)

場所：福島県立図書館

参加者：発表者 17 名（中学生 11 名、高校生６名）

観戦者 183 名

【中学生の部】

優　勝　郡山市立明健中学校　伊藤　花音

「あたしの嫌いな私の声」成井豊

準優勝　白河市立表郷中学校　鈴木　康生

「できる人は必ず持っている一流の気くばり力」安田正

優秀賞　伊達市立伊達中学校　宍戸　結実

「アバター」山田悠介

南会津町立田島中学校　髙橋　優太

「終電の神様」阿川大樹

【高校生の部】

優　勝　福島県立磐城高等学校　佐藤　一貴

「もし文豪たちがカップ焼きそばの作り方を書いたら」

神田桂一・菊池良

準優勝　福島県立田村高等学校　会田　遙輝

「蜂蜜と遠雷」恩田陸

優秀賞　福島県立坂下高等学校　五十嵐　珠鈴

「君を愛したひとりの僕へ」乙野四方字

福島県立喜多方桐桜高等学校　小檜山　帆波

「四畳半神話大系」森見登美彦

福島県立須賀川桐陽高等学校　関　歩夢

「凍りのくじら」辻村深月

福島県立郡山北工業高等学校　星野　和紀

「ちょっと今から仕事やめてくる」北川恵海

⑸　子どもの本がつなぐスマイルプロジェクト

ア　親子ふれあい読書フェスティバル「絵本はともだち」

期日：平成 30 年８月６日(月)

場所：相馬市民会館　参加者 70 名

内容：講演「子どもと一緒におはなしの世界を」

幼児教育専門家　藤田　浩子

イ　親子ふれあい読書フェスティバル「本はともだち」

期日：平成 30 年 11 月４日（日）

場所：福島県立図書館　参加者 72 名

内容：講演・演習「ブックトーク」

東京子ども図書館理事　杉山　きく子

第８節　ユネスコ活動

１　ユネスコ協会事務局一覧

協　会　名	会長名	事　務　局	事務局長	設立年月日
須賀川地方ユネスコ協会	岩田悦次郎	須賀川市教委生涯学習スポーツ課内 須賀川市牛袋町５	河村　朝子	S46. 9.13
いわきユネスコ協会	松本　恒雄	いわき市教委生涯学習課内 いわき市堂根町４－８	佐久間静子	S51.10.23
郡山ユネスコ協会	過足　満雄	学校法人尚志学園高等学校内 郡山市大槻町字坦ノ腰２	宗像　金三	S53. 1.24
白河ユネスコ協会	小野　利廣	白河市教委生涯学習スポーツ課内 白河市八幡小路７－１	小松　寛	S53.11.19
福島ユネスコ協会	門間　孝一	福島市中央学習センター内 福島市松木町１－７	宗川　孝	S55. 7.19
会津ユネスコ協会	吉田　幸代	会津若松市教委生涯学習センター内 会津若松市栄町３－50	石田　明夫	S55.11.16
郡山次世代ユネスコ協会	大本　研二	学校法人こおりやま東都学園本部気付 郡山市図景２－９－３	遠藤　典雄	H28. 1.16
福島県ユネスコ連絡協議会	河田　亨	福島市笹木野字中西表 60－６ 近野元洋宅	近野　元洋	S56.12. 5

２　福島県ユネスコ活動研修会

平成 30 年 11 月 20 日(火)サンフレッシュ白河

参加者数　43 名

テーマ　「地域に根ざしたユネスコ活動」

第９節　ふくしまっ子自然体験・交流活動支援事業

１　内容

⑴　小・中学校自然体験・交流活動等支援事業

対 象 者：県内の小・中学校、特別支援学校小学部・中学部の児童生徒及び引率者等

対象期間：４月から３月末まで

実施内容：小・中学校や特別支援学校小学部・中学部が、教育課程等に位置付けられている各教科、特別活動等などをよりよい環境（県内外）のもとで行う宿泊を伴う体験活動に宿泊費と活動費・交通費を補助する。

補助基準：①宿泊費
　１人当たり１泊５千円上限 13 泊まで
　②活動費・交通費
　１人当たり１回１千円を上限

⑵　幼稚園・保育所自然体験活動等支援事業

対 象 者：県内の幼稚園・保育所・認定こども園（認可外保育施設も含む）、特別支援学校幼稚部の幼児及び引率者等

対象期間：４月から３月末まで

実施内容：幼稚園・保育所・認定こども園や特別支援学校幼稚部が、年間計画等に位置付けられている園行事などをよりよい環境（県内外）のもとで行う日帰り及び宿泊を伴う体験活動に宿泊費と活動費・交通費を補助する。

補助基準：①宿泊費
　１人当たり１泊５千円上限 13 泊まで
　②活動費・交通費
　１人当たり１回１千円を上限

⑶　社会教育団体自然体験活動支援事業

対 象 者：県内の社会教育団体（子ども会、スポーツ少年団、ＰＴＡ等）

対象期間：７月から８月末、12 月から１月末

実施内容：社会教育団体（子ども会、スポーツ少年団、ＰＴＡ等）が、よりよい環境（県内外）のもとで行う長期宿泊（６泊～）を伴う体験活動に宿泊費と活動費・交通費を補助する。

補助基準：①宿泊費
　１人当たり１泊５千円上限 13 泊まで
　②活動費・交通費
　１人当たり１回１千円を上限

⑷　ふくしまっ子体験活動応援補助事業

対 象 者：県内の社会教育団体等（子ども会、スポーツ少年団、ＰＴＡ、公民館等）

対象期間：７月から８月末、12 月から１月末

実施内容：市町村や社会教育関係団体等が、よりよい環境（県内）のもとで体験活動や交流活動を実施する場合、宿泊費と交通費・体験活動費を補助する。

補助基準：①宿泊費
　１人当たり１泊５千円上限５泊まで
　②活動費・交通費
　１人当たり１回１千円上限

２　実績

⑴　小・中学校自然体験・交流活動等支援事業

件数：446 件　　参加者：22,603 名

⑵　幼稚園・保育所自然体験活動等支援事業

件数：363 件　　参加者：42,339 名

⑶　社会教育団体自然体験活動支援事業

件数：　４件　　参加者：　65 名

⑷　ふくしまっ子体験活動応援補助事業

件数：235 件　　参加者：6,638 名

第 10 節　子どもがふみだす　ふくしま復興体験応援事業

１　内容

事業１　避難者や被災者と交流して子どもたちが元気を発信する

事業２　風評被害などを経験した地域との交流を行い、地域の復興を考え他県等へ復興をアピールする

事業３　自分たちの専門性を生かして何ができるかを考え、実践することでふくしまを発信する

２　採択状況

応募団体	110 団体
採択団体	84 団体
補助金額	114,286 千円

第 11 節　公民館等社会教育施設

1　公民館を除く主な社会教育施設　　※震災により休館中の施設を含む

(1)　図書館の設置状況

ア　県立

名　　称	所　在　地	電話番号	設置者
福島県立図書館	福島市森合字西養山１	024-535-3220	福島県

イ　市町村立

名　　称	所　在　地	電話番号	設置者
福島市立図書館	福島市松木町１－１	024-531-6551	福島市
福島市西口ライブラリー	福島市三河南町１－20	024-525-4023	福島市
福島市子どもライブラリー	福島市早稲町１－１（こむこむ内）	024-526-4200	福島市
伊達市　教育部市立図書館	伊達市箱崎字川端７	024-551-2132	伊達市
二本松市立二本松図書館	二本松市本町１丁目 102 番地	0243-23-5082	二本松市
二本松市立岩代図書館	二本松市小浜字藤町 242 番地	0243-55-3255	二本松市
しらさわ夢図書館	本宮市白岩字堤崎 500	0243-44-2112	本宮市
郡山市中央図書館	郡山市麓山一丁目５－25	024-923-6601	郡山市
郡山市中央図書館　田村分館	郡山市田村町岩作字穂多礼 40－３	024-955-3842	郡山市
郡山市中央図書館　喜久田分館	郡山市喜久田堀之内字下河原１	024-959-2205	郡山市
郡山市中央図書館　緑ヶ丘分館	郡山市緑ヶ丘東三丁目１－21	024-944-0001	郡山市
郡山市中央図書館　日和田分館	郡山市日和田町字小堰 23－４	024-958-2352	郡山市
郡山市中央図書館　三穂田分館	郡山市三穂田町字東屋敷６	024-953-2820	郡山市
郡山市中央図書館　中田分館	郡山市中田町下枝字大平 385	024-973-2951	郡山市
郡山市中央図書館　西田分館	郡山市西田町三丁目桜内 259	024-972-2807	郡山市
郡山市中央図書館　大槻分館	郡山市大槻町字中前田 56	024-951-1512	郡山市
郡山市希望ケ丘図書館	郡山市希望ケ丘１－５	024-961-1600	郡山市
郡山市安積図書館	郡山市安積一丁目 38	024-946-8850	郡山市
郡山市富久山図書館	郡山市富久山町福原字泉崎 181－１	024-921-0030	郡山市
須賀川市図書館	須賀川市八幡町 134	0248-75-3309	須賀川市
須賀川市長沼図書館	須賀川市長沼字金町 85	0248-67-2138	須賀川市
須賀川市岩瀬図書館	須賀川市柱田字中地前 22 番地	0248-65-3549	須賀川市
鏡石町図書館	鏡石町旭町 440－６	0248-62-1288	鏡石町
古殿町図書館	古殿町松川字横川 235	0247-53-2305	古殿町
三春町町民図書館	三春町字大町 12－１	0247-62-3375	三春町
小野町ふるさと文化の館・図書館	小野町大字小野新町字中通２	0247-72-2120	小野町
田村市図書館	田村市船引町船引字扇田 19	0247-82-1001	田村市
田村市図書館滝根分館	田村市滝根町神俣字町 48－１	0247-78-2001	田村市
田村市図書館大越分館	田村市大越町上大越字元池 87－５	0247-79-2161	田村市
田村市図書館常葉分館	田村市常葉町常葉字町裏１	0247-77-2013	田村市
田村市図書館都路分館	田村市都路町古道字本町 33－４	0247-75-2063	田村市
白河市立図書館	白河市道場小路 96－５	0248-23-3250	白河市
白河市立図書館表郷分館	白河市表郷金山字長者久保２	0248-32-4784	白河市
白河市東図書館	白河市東釜子字狐内 47	0248-34-1130	白河市
白河市大信図書館	白河市大信町屋字沢田 25	0248-46-3614	白河市
矢吹町図書館	矢吹町小松 481	0248-44-3595	矢吹町

名　　称	所　在　地	電話番号	設置者
泉崎図書館	泉崎村大字泉崎字舘 24－９	0248-53-4779	泉崎村
棚倉町立図書館	棚倉町大字棚倉字棚倉字森町 21－１	0247-33-4342	棚倉町
塙町立図書館	塙町大字塙字栄町 68－６	0247-43-0808	塙町
矢祭もったいない図書館	矢祭町大字東舘字石田 25	0247-46-4646	矢祭町
鮫川村図書館	鮫川村大字赤坂中野字巡ヶ作 128	0247-49-3151	鮫川村
会津若松市立会津図書館	会津若松市栄町３－50	0242-22-4711	会津若松市
猪苗代町図書歴史情報館	猪苗代町字古城町 132－７	0242-23-7855	猪苗代町
喜多方市立図書館	喜多方市字柳原 7503－１	0241-22-1855	喜多方市
南会津町図書館	南会津町田島字宮本東 22	0241-62-5522	南会津町
相馬市図書館	相馬市中村字塚ノ町 65－16	0244-37-2630	相馬市
新地町図書館	新地町谷地小屋字樋掛田 40－１	0244-62-5031	新地町
南相馬市立中央図書館	南相馬市原町区朝日町二丁目７－１	0244-23-7789	南相馬市
南相馬市立鹿島図書館	南相馬市鹿島区寺内字迎田 22－１	0244-46-5116	南相馬市
南相馬市立小高図書館（休館中）	南相馬市小高区本町二丁目 89－１	0244-44-3049	南相馬市
浪江町図書館（休館中）	浪江町権現堂字矢沢町６－１	0240-34-5024	浪江町
双葉町図書館（休館中）	双葉町大字長塚字鬼木１	0240-33-4214	双葉町
大熊町図書館（休館中）	大熊町大字下野上字大野 669－３	0240-32-3011	大熊町
富岡町図書館（休館中）	富岡町大字本岡字王塚 622－１	0240-21-3665	富岡町
いわき市立総合図書館	いわき市平字田町 120	0246-22-5552	いわき市
いわき市立内郷図書館	いわき市内郷綴町榎下 40-１	0246-45-1030	いわき市
いわき市立小名浜図書館	いわき市小名浜字愛宕上７-２	0246-54-9257	いわき市
いわき市立常磐図書館	いわき市常磐関船町作田１	0246-44-6218	いわき市
いわき市立勿来図書館	いわき市植田町南町１丁目２－２	0246-62-7431	いわき市
いわき市立四倉図書館	いわき市四倉町字東一町目 50	0246-32-5980	いわき市

ウ　法人

名　　称	所　在　地	電話番号	設置者
クローバー子供図書館	郡山市開成６丁目 346－１	024-932-2118	㈶金森和心会

⑵　博物館の設置状況

ア　登録博物館及び相当施設

名　　称	所　在　地	電話番号	設置者	種別	登録･指定年月日
福島県立美術館	福島市森合字西養山１	024-531-5511	福島県	美術博物館	59.7.16
福島県立博物館	会津若松市城東町１－25 号	0242-28-6000	福島県	総合博物館	61.11.28
須賀川市立博物館	須賀川市池上町６	0248-75-3239	須賀川市	歴史博物館	46.7.10
いわき市立美術館	いわき市平字堂根町４－４	0246-25-1111	いわき市	美術博物館	59.9.3
郡山市立美術館	郡山市安原町字大谷地 130－２	024-956-2200	郡山市	美術博物館	平 5.1.20
南相馬市博物館	南相馬市原町区牛来字出口 194	0244-23-6421	南相馬市	総合博物館	平 8.5.9
野口英世記念館	猪苗代町大字三ツ和字前田 81	0242-85-7867	(公財)野口英世記念会	歴史博物館	29.10.21
会津民俗館	猪苗代町大字三ツ和字前田 33－１	0242-65-2600	会津民俗館	歴史博物館	55.10.3
白虎隊記念館	会津若松市一箕町大字八幡字弁天下 33	0242-24-9170	(一財)白虎隊記念館	歴史博物館	63.6.30
奥会津博物館	南会津町糸沢字西沢山 3692－20	0241-66-3077	南会津町	歴史博物館	平 21.6.16
諸橋近代美術館	北塩原村大字桧原字剣ヶ峰 1093－23	0241-37-1088	(公財)諸橋近代美術館	美術博物館	平 11.8.17
藤田記念博物館（休館中）	白河市五郎窪 37－１	0248-24-1780	(公財)藤田教育振興会	美術博物館	54.9.1
CCGA 現代ｸﾞﾗﾌｨｯｸｱｰﾄｾﾝﾀｰ	須賀川市塩田宮田１	0248-79-4811	(公財)DNP 文化振興財団	美術博物館	平 25.12.25

イ　博物館相当施設

名　　称	所　在　地	電話番号	設置者	種別	登録･指定年月日
やないづ町立齋藤清美術館	柳津町柳津字下平乙 187	0241-42-3630	柳津町	美術博物館	平 11.9.28
龍が城美術館（休館中）	いわき市平字旧城跡 27－１	0246-22-1601	（一財）白龍会	美術博物館	30.2.10
会津武家屋敷会津歴史資料館	会津若松市東山町大字石山字院内１	0242-28-2525	（株）会津武家	屋敷歴史博物館	56.11.25
安積歴史博物館	郡山市開成５－25－63	024-938-0778	(公財)安積歴史博物館	歴史博物館	59.9.8
磐梯山噴火記念館	北塩原村桧原字剣ヶ峰 1093－36	0241-32-2888	(株)ｺﾞｰﾙﾄﾞﾊｳｽ目黒	科学博物館	平 5.7.1
會津藩校日新館	会津若松市河東町南高野字高塚山10番地	0242-75-2525	(株)会津武家屋敷	歴史博物館	平 12.11.28
はじまりの美術館	猪苗代町新町 4873	0242-62-3454	(社福)安積愛育園	歴史博物館	平 28.12.6

ウ　類似施設

名　　称	所　在　地	電話番号	設置者
ふくしま海洋科学館	いわき市小名浜字辰巳町 50	0246-73-2525	福島県
福島県文化財センター白河館	白河市白坂一里段 86	0248-21-0700	福島県
福島県歴史資料館	福島市春日町５－54	024-534-9195	福島県
ふれあい歴史館（福島市資料展示室）	福島市上町 39－１	024-563-7855	福島市
福島市民家園	福島市上名倉字大石前地内	024-593-5249	福島市
福島市古関裕而記念館	福島市入江町１－１	024-531-3012	福島市
福島市写真美術館	福島市森合町 11－36	024-523-1202	福島市
ＵＦＯふれあい館	福島市飯野町大字青木字小手神森 1－299	024-562-2002	福島市
民俗資料展示室	福島市飯野町大字明治字北小戸明利 60	024-525-3785	福島市
羽山の森美術館	伊達郡川俣町大字西福沢字山枡内 20	024-566-3367	川俣町
伊達市梁川美術館	伊達市梁川町字中町 10	024-527-2656	伊達市
伊達市保原歴史文化資料館	伊達市保原町大泉字宮脇 265	024-575-1615	伊達市
霊山子どもの村遊びと学びのミュージアム	伊達市霊山町石田字宝司沢９－１	024-589-2211	伊達市
二本松市歴史資料館	二本松市本町１－102	0243-23-3910	二本松市
二本松市智恵子記念館	二本松市油井字漆原町 36	0243-22-6151	二本松市
二本松市大山忠作美術館	二本松市本町２－３－１	0243-24-1217	二本松市
あだたらふるさとホール	大玉村玉井字西庵 183	0243-48-2569	大玉村
本宮市歴史民俗資料館	本宮市字南町裡 130	0243-33-2546	本宮市
本宮市白沢ふれあい文化ホール	本宮市白岩字堤崎 494－44	0243-44-3185	本宮市
郡山市開成館	郡山市開成３－３－７	024-923-2157	郡山市
郡山市歴史資料館	郡山市麓山１－８－３	024-932-5306	郡山市
郡山市こおりやま文学の森資料館	郡山市豊田町３－５	024-991-7610	郡山市
郡山市ふれあい科学館	郡山市駅前２－11－１　ビッグアイ　20F～24F	024-936-0201	郡山市
須賀川市歴史民俗資料館	須賀川市長沼字門口 186	0248-67-2030	須賀川市
古殿町郷土文化保存伝習施設	古殿町大字松川字横川 235	0247-53-2305	古殿町
天栄村ふるさと文化伝承館	天栄村大字大里字八石１－２	0248-81-1030	天栄村
石川町歴史民俗資料館	石川町字高田 200－２	0247-26-3768	石川町
浅川町歴史民俗資料館	浅川町大字浅川字背戸谷地 144－６	0247-36-2134	浅川町
吉田富三記念館	浅川町大字袖山字森下 287	0247-36-4129	財団法人
三春町歴史民俗資料館	三春町字桜谷５	0247-62-5263	三春町
三春郷土人形館	三春町字大町 30	0247-62-7053	三春町
小野町ふるさと文化の館・郷土資料館	小野町大字小野新町字中通２	0247-72-2120	小野町
田村市歴史民俗資料館	田村市船引町船引字四城内前 196 番地	0247-81-1215	田村市

名　　称	所　在　地	電話番号	設置者
白河市歴史民俗資料館	白河市中田７－１	0248-27-2310	白河市
白河集古苑	白河市郭内１－73	0248-24-5050	白河市
中山義秀記念文学館	白河市大信町屋字沢田 25	0248-46-3614	白河市
白河市大信ふるさと文化伝承館	白河市大信町屋字沢田 25	0248-46-3614	白河市
泉崎資料館	泉崎村大字泉崎字舘 24－９	0248-54-1533	泉崎村
あぶくま高原美術館	塙町大字那倉字吉元 86－１	0247-42-2510	塙町
矢祭町歴史民俗資料館	矢祭町大字東舘字石田 25	0247-46-2202	矢祭町
国指定名勝会津松平氏庭園	会津若松市花春町８－１	0242-27-2472	会津若松市
若松城天守閣	会津若松市追手町１－１	0242-27-4005	会津若松市
茶室麟閣	会津若松市追手町１－１	0242-27-4005	会津若松市
会津町方伝承館	会津若松市大町２－８－８	0242-22-8686	会津若松市
アクアマリンいなわしろカワセミ水族館	猪苗代町大字長田字東中丸 344－４	0242-65-2481	猪苗代町
喜多方市郷土民俗館	喜多方市柳原 7503－１	0241-24-3821	喜多方市
喜多方蔵の里	喜多方市字押切２丁目 109	0241-22-6592	喜多方市
喜多方市美術館	喜多方市押切２丁目２	0241-23-0404	喜多方市
喜多方市カイギュウランドたかさと	喜多方市高郷町西羽賀字和尚堂 3163	0241-44-2924	喜多方市
喜多方市高郷郷土資料館	喜多方市高郷町上郷字天神後戊 417	0241-44-2765	喜多方市
会津坂下町五浪美術記念館	会津坂下町字台 number ノ下 842	0242-84-1233	会津坂下町
ほっとｉｎやないづ縄文館	柳津町大字柳津字下平乙 151－１	0241-41-1077	柳津町
会津美里町民俗資料館	会津美里町米田字堂ノ後甲 149	0242-54-2368	会津美里町
三島町交流センター山びこ	三島町名入字諏訪ノ上 418	0241-52-2165	三島町
からむし工芸博物館	昭和村大字佐倉字上ノ原１	0241-58-1677	昭和町
旧南会津郡役所	南会津町田島字丸山甲 4681	0241-62-3848	南会津町
久川城資料館	南会津町青柳字久川 23	0241-76-2191	南会津町
奥会津民俗館　南郷館	南会津町界字川久保 552	0241-73-2829	南会津町
奥会津民族館　舘岩館	南会津町松戸原 55	0241-78-2110	南会津町
奥会津民族館　伊南館	南会津町青柳字久川 24	0241-76-7719	南会津町
檜枝岐村歴史民俗資料館	檜枝岐村字下ノ原 887－２	0241-75-2342	檜枝岐村
会津只見考古館	只見町大字大倉字窪田 33	0241-86-2175	只見町
只見町ブナセンター	只見町字町下 2590	0241-72-8355	只見町
河井継之助記念館	只見町大字塩沢字上ノ台 850－５	0241-82-2870	只見町
相馬市歴史民俗資料館	相馬市中村字大手先 13	0244-37-2191	相馬市
鹿島歴史民俗資料館（廃止）	南相馬市鹿島区西町３－１	0244-46-4281	南相馬市
埴谷島尾記念文学資料館（休館中）	南相馬市小高区本町２－89－１	0244-44-3049	南相馬市
葛尾村郷土文化保存伝習館	葛尾村落合字落合 11	0240-29-2008	葛尾村
双葉町歴史民俗資料館（休館中）	双葉町大字新山字本町 27－１	0240-33-4763	双葉町
大熊町民俗伝承館（休館中）	大熊町大字下野上字大野 669－３	0240-32-3011	大熊町
富岡町歴史民俗資料館（休館中）	富岡町大字本岡字王塚 622－１	0240-22-2626	富岡町
楢葉町歴史資料館（休館中）	楢葉町大字北田字鐘突堂５－４	0240-25-2492	楢葉町
いわき市石炭・化石館	いわき市常磐湯本町向田３－１	0246-42-3155	いわき市
いわき市勿来関文学歴史館	いわき市勿来町関田長沢６－１	0246-65-6166	財団法人
いわき市アンモナイトセンター	いわき市大久町大久字鶴房 147－２	0246-82-4561	いわき市
いわき市考古資料館	いわき市常磐湯本町手這 50－１	0246-43-0391	いわき市

名　　称	所　在　地	電話番号	設置者
いわき市立草野心平記念文学館	いわき市小川町高萩字下夕道１－39	0246-83-0005	いわき市
いわき市草野心平生家	いわき市小川町上小川字植ノ内６－１	0246-83-0005	いわき市
いわき市暮らしの伝承郷	いわき市鹿島町下矢田字散野 14－16	0246-29-2230	いわき市
原郷のこけし群西田記念館	福島市荒井字横塚３－183	024-593-0639	財団法人
種徳美術館	桑折町字陣屋 12	024-582-5507	桑折町
東北サファリパーク	二本松市沢松倉１	0243-24-2336	株式会社
デコ屋敷資料館	郡山市西田町高柴字福内 41	024-971-3900	私人
ふくしまの森科学体験センター	須賀川市虹の台 100	0248-89-1120	財団法人
（有）大桑原つつじ園	須賀川市大桑原字竹ノ花 13	0248-76-5857	有限会社
（株）エイトファーム三春ハーブガーデン	三春町大字斉藤字仁井道 126	024-942-1138	株式会社
リカちゃんキャッスル	小野町小野新町中通 51－３	0247-72-6364	株式会社
白河フラワーワールド	白河市南湖 59	0248-23-2100	私人
南湖神社宝物館	白河市字菅生舘２	0248-23-3015	私人
木の博物館	塙町大字伊香字松原 160－13	0247-43-1480	有限会社
會津宮泉酒造（旧会津酒造歴史館）	会津若松市東栄町８－７	0242-26-0031	株式会社
会津葵シルクロード文明館	会津若松市追手町４－６	0242-27-1001	株式会社
（社）福島県伝統産業会館	会津若松市大町１－７－３	0242-24-5757	社団法人
大和川酒造北方風土館	喜多方市字寺町 4761	0241-22-2233	私人
喜多方蔵品美術館	喜多方市梅竹 7294－４	0241-24-3576	私人
うるし美術博物館	喜多方市字東町 4095	0241-24-4151	株式会社
御蔵入細井家資料館	南会津町静川字風下甲 175	0241-62-0906	私人
福島さくら遊学舎	三春町大字鷹巣字瀬山 213	0247-61-6345	株式会社

⑶　青少年教育関係施設の設置状況

ア　県設置

名　　称	所　在　地	電話番号	設置者
福島県郡山自然の家	郡山市逢瀬町多田野字中丸山 46	024-957-2111	福島県
福島県会津自然の家	会津坂下町大字八日沢字西東山 4495－１	0242-83-2480	福島県
福島県いわき海浜自然の家	いわき市久之浜町田之網字向山 53	0246-32-7700	福島県

イ　教育施設

名　　称	所　在　地	電話番号	設置者
国立那須甲子青少年自然の家	西郷村大字真船字村火６－１	0248-36-2331	文部科学省
国立磐梯青少年交流の家	猪苗代町字五輪原 7136－１	0242-62-2530	文部科学省
市町村（条例）設置	※27 施設（別掲）		
他県設置等	※３施設（別掲）		

《市町村（条例）設置 27 施設》

名　　称	所　在　地	電話番号	設置者
福島県青少年会館	福島市黒岩字田部屋 53－５	024-546-8311	公益財団法人
福島市社会教育会館「こぶし荘」	福島市庭坂字砥石山 40－13	024-591-3366	福島市
福島市社会教育会館「立子山自然の家」	福島市立子山字金井作１	024-597-2951	福島市
福島市勤労青少年ホーム	福島市入江町 1-1	024-531-6257	福島市
福島市子どもの夢を育む施設こむこむ館	福島市早稲町１－１	024-524-3131	福島市
二本松市青年の家	二本松市榎戸１－92	0243-23-5121	二本松市

名　　称	所　在　地	電話番号	設置者
二本松市二本松勤労青少年ホーム	二本松市榎戸１－92	0243-23-5121	二本松市
二本松市安達勤労青少年ホーム	二本松市油井字濡石３－１	0243-23-3721	二本松市
本宮市勤労青少年ホーム	本宮市字矢来 39－１	0243-33-2611	本宮市
郡山市青少年会館	郡山市大槻町字漆棒 82	024-961-8282	郡山市
郡山市少年湖畔の村	郡山市湖南町横沢字村西 112	024-982-2115	郡山市
郡山市勤労青少年ホーム	郡山市麓山１丁目８－４	024-932-3027	郡山市
須賀川市市民の森	須賀川市塩田音森 20	0248-79-2187	須賀川市
須賀川市勤労青少年ホーム	須賀川市和田字柏崎 44	0248-63-2154	須賀川市
須賀川市ふれあいセンター	須賀川市長禄町 79	0248-72-0200	須賀川市
鏡石町ふれあいの森公園	鏡石町堂前 90-1	0248-83-2381	鏡石町
鏡石町勤労者青少年ホーム	鏡石町中央 59	0248-62-2115	鏡石町
羽鳥湖畔オートキャンプ場	天栄村羽鳥字芝草 2-4	0248-85-2033	天栄村
小野町勤労青少年ホーム	小野町大字小野新町字中道２	0247-72-2125	小野町
石川町勤労青少年ホーム	石川町字当町 418 番地の１	0247-26-2566	石川町
会津若松市勤労青少年ホーム	会津若松市城東町 14－52	0242-26-6662	会津若松市
会津若松市少年の家	会津若松市城東町 15－62	0242-39-1304	会津若松市
喜多方市勤労青少年ホーム	喜多方市舞台田 3119－１	0241-22-1403	喜多方市
御蔵入の里会津山村道場うさぎの森オートキャンプ場	南会津町糸沢字西沢山 3692-20	0241-66-2108	南会津町
高清水自然公園	南会津町界字長地沢口 4298-12	0241-73-2115	南会津町
三島町生涯学習センター森の校舎カタクリ	三島町西方字上原 3580	0241-48-5577	三島町
新地町勤労青少年ホーム	新地町大字福田字中里 15－１	0244-62-3106	新地町

参考　※いわき市生涯学習プラザ　　いわき市平字一町目１番地ティーワンビル４・５階

※財団法人福島県産業振興センター産業交流館（ビグパレットふくしま）　郡山市安積町日出山字北千保 19－８

《他県設置等３施設》

名　　称	所　在　地	電話番号	設置者
越谷市立あだたら高原少年自然の家	二本松市永田字長坂国有林 14 林班	0243-24-2561	越谷市
さいたま市立舘岩少年自然の家	南会津町宮里字向山 2847－１	0241-78-2311	さいたま市
ＳＹＤばんだいふれあいぴあ	北塩原村桧原字南黄連沢山 1157－192	0241-33-2335	財団法人

２　文化施設の整備充実

⑴　県立美術館の整備充実

移動展等を開催するとともに､美術作品の収集と作品･作家等に関する調査研究を計画的に推進したほか、教育普及活動に努め､本県美術振興の中心的施設として機能の充実に努めた。

⑵　県立博物館の整備充実

展示資料の収集・整備に努め､調査研究を計画的に推進し､常設展・企画展等の充実を図るとともに教育普及のための各種事業を行い､県内博物館の中心的施設として機能の充実に努めた。

⑶　県文化財センター白河館（まほろん）

文化財の収蔵と被災した地域の文化財等の公開・活用及び埋蔵文化財担当職員等の研修を図り、文化財に親しみ、文化財への理解を深める施設として機能の充実に努めた。

第 12 節　福島県立図書館

1　概要

福島県立図書館は、平成 17 年 10 月に策定した『福島県立図書館「学びの環境づくり」』に基づき、県民の生涯にわたる多様な学習活動に応えるため、資料及び情報の計画的な収集を図るとともに市町村立図書館等との連携のもとに効果的な図書館活動の展開に努め、県民文化の向上に寄与することを目的とした事業を行っている。

さらに、平成 30 年３月に策定した『福島県立図書館アクションプラン（第３次）』(平成 30 年度～令和２年度)の基本理念と４つの目標に基づき読書環境、学習環境の整備やサービスの充実に努めた。

併せて、平成 27 年２月に策定された「第三次福島県子ども読書活動推進計画」(平成 27 年度～31 年度)に基づき、計画実現のための事業推進にも取り組んでいる。

『福島県立図書館アクションプラン（第３次）』

平成 30 年度～令和２年度

1　基本理念

『「知の拠点」として、全ての県民の教育と文化の振興を図り、ふくしまの未来をひらきます。』

福島県立図書館は、情報(資料)の提供(貸出・閲覧)やレファレンス等、県民への直接的サービスに努める他、社会(地域)や行政の課題解決に応えるため、「知の拠点」としての責務を果たします。

また､市町村立図書館(未設置自治体にあっては公民館図書室等)の円滑な活動を支援するため､情報(資料)を体系的に収集・保存・提供するとともに、市町村間のネットワーク体制の強化に努めます。そして、子どもの読書活動を推進し、未来を担う子供たちが、人生をより深く生きる力を身に付けられるよう支援するなど、ふくしまの復興の一翼を文化面から担います。

2　福島県立図書館が目指す４つの目標

「基本理念」の実現に向けて定めた、「福島県立図書館が目指す４つの目標」

⑴　県民のための図書館

福島県立図書館は、資料(情報)を収集し、保存し、提供することで、県民の皆さんに役立つ図書館を目指すとともに、全ての人が等しく利用できるサービス体制を目指します。

⑵　子どもたちの今と未来のための図書館

ふくしまの未来を担う､今とこれからの子どもたちのために、資料(情報)を収集し、保存し、伝え、子どもたちの読書活動や主体的･対話的で深い学びを支えることができる図書館を目指します。

⑶　市町村(図書館・公民館等)を支えるための図書館

県内市町村図書館等に対する協力・支援を充実させることにより、市町村の図書館活動を支えるとともに、ネットワーク体制を推進し、全県的な図書館活動の振興を目指します。

⑷　ふくしまを知ることができる図書館

「ふくしま」の情報を収集し、保存し、発信することで、全ての人が、いつでも、どこからでも、「ふくしま」を知ることができる「拠点」となることを目指します。

図書館協議会

開催日　平成 30 年 11 月 29 日(木)　於：県立図書館

議題等

・図書館利用実績について
・朝河貫一没後 70 年記念展開催報告について
・只見線応援企画実施状況について
・「福島県立図書館アクションプラン（第３次）」の取組について

図書館協議会委員名※所属団体等は就任時現在

［任期：平成29年10月21日(土)～令和元年10月20日(日)］

区分	氏　名	所属団体等（主な役職名等）
学識経験者	佐藤　佐敏	福島大学人間発達文化学類（教授）
	三瓶千香子	桜の聖母短期大学キャリア教養学科(准教授)
	佐藤　克也	株式会社福島民報社（編集局 文化部長）
	菊池　克彦	福島民友新聞社株式会社（編集局長）
	東山　京子	公募
	金澤　一成	公募
家庭教育	矢吹　貴美	福島県家庭教育インストラクター連絡協議会
社会教育	宮崎　亜古	福島県公共図書館協会（田村市図書館長）
学校教育関係	佐藤　秀美	福島県高等学校長協会（福島県立相馬東高等学校長）
	吉田ひとみ	福島県中学校長会（磐梯町立磐梯中学校長）

（会長）佐藤　佐敏　　（副会長）佐藤　秀美

2　資料の収集・整理

「福島県立図書館資料収集基本要綱」及び「福島県立図書館アクションプラン（第３次）」を踏まえ、県民からの資料要求に対応するために、各分野の基本資料を収集し迅速な整理に努めた。また、平成 24 年度に開設した「東日本大震災福島県復興ライブラリー」の整備充実を継続して行った。

⑴　図書館資料の収集

ア　一般資料の収集

新刊・既刊を問わず、資料的価値や利用的価値の高い資料の収集を行った｡官公庁刊行物は主要なものを収集、年鑑白書や叢書等の継続資料については厳選し計画的な収集に努めた。文学作品は、受賞作品・候補作品や書評等で評価の高い作品を収集した。重点収集として、東日本大震災に関する資料をはじめ、調査相談に対応するために必要な各種参考図書、大活字本等のユニバーサルデザインに対応した資料の収集・整理に努めた。

イ　地域資料の収集

福島県に関する資料の収集に努め、福島県人著作の収集は話題性等を考慮し購入した。非売品等の資料については出版した個人・団体・機関等へ寄贈を依頼し収集に努めた。また、寄贈を呼びかけるチラシを作成し関係機関へ配布して寄贈を呼びかけた。購入冊数 1,113 冊に対して寄贈を受けた冊数は 3,535 冊となった。

行政資料についても各自治体・部局へ収集の依頼を行い、県職員へは全員へメールで要請を行うなどの他、定期的な訪問回収を６回実施した。収集した資料は、当館ホームページの「県立図書館所蔵 県内行政機関発行資料一覧」を更新し情報提供を行った。「福島県行政資料コーナー」の紹介チラシを作成して関係機関へ配布した。

震災関連資料及び東京電力福島第一原子力発電所事故に関する資料に関しては、ホームページ上やチラシ等で寄贈のお願いを掲載し、約 568 冊を収集、地域資料の約 11%となっている。

ウ　地域視聴覚資料の収集

震災関連資料及び合唱・吹奏楽関係の資料を主に 102 点を収集した。地元新聞のＣＤ－ＲＯＭなど保存価値の高いものは継続的に収集し提供している。

エ　児童資料・研究資料の収集

(ｱ) 児童資料

市町村のモデルとして運営している「こどものへや」用児童資料として、子どもの読書活動推進に資する資料を、新刊書を中心に厳選して収集した。

重点収集として、ユニバーサルデザインや多文化に対応した資料の収集に努めた。また、中学生・高校生向け資料にいても収集した。

(ｲ) 研究資料

「児童図書研究室」用研究資料として、児童図書に関する調査研究及び子どもの読書活動支援に資す資料を、新刊書を中心に厳選して収集した。

また、読み聞かせ活動支援のための大型絵本や研究用児童資料としての主要な児童図書賞受賞作品も収集した。

重点収集として、子どもの読書や読書環境に関する資料の収集に努めた。

オ　逐次刊行物の収集と整備

雑誌は、資料価値を重視し、専門的な調査相談や相互貸借に対応できる資料を幅広く継続収集した。要望していた『福島民友新聞』過去紙面マイクロフィルム(昭和 62-平成４年)144 本を購入し、提供できるようになった。

新聞､雑誌の震災･原発事故関連記事についても収集に努めた。

カ　市町村支援用資料の収集

図書館未設置の自治体や、県立図書館の利用環境が十分ではない過疎・中山間地域、また、東日本大震災に伴う被災地地域の読書活動に役立たせるため、新刊書を中心に、話題性の高い文芸書や生活に密着した情報が掲載された実用書・時事関係資料等を収集した。

逐次刊行物受入状況　（単位：種）

区　分	購　入	寄贈・他	計
新　聞	25	57	82
雑　誌	240	829	1,069
官　報　等	3	0	3
合　計	268	886	1,154

資料受入状況　（単位：冊）

区　分	購　入	寄贈・他	計
一　般　資　料	5,404	2,640	8,044
地域・行政資料	1,111	3,927	5,038
児　童　資　料	2,259	417	2,676
児童図書研究資料	411	54	465
市町村支援資料	1,085	1,341	2,426
合　計	10,270	8,379	18,649

資料受入状況・推移　（単位：冊）

平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
28,080	19,700	18,649

キ　県民のくらし応援文庫

県民が抱える課題の解決に役立つ図書を整備することを目的に、平成 28 年度に創設した寄贈制度。平成 30 年度は、7 団体（企業）から合計 883 冊の寄贈を受けた。

蔵書統計（資料別・分類別）　（単位：冊）

分　類	区　分	29 年度累計	30 年度増加	30 年度除籍	利用替え	30 年度累計
一般資料	0　総　記	32,195	386	7	25	32,599
	1　哲　学	25,923	399	34	-1	26,287
	2　歴　史	64,315	1,005	11	2	65,311
	3　社会科学	105,973	2,030	93	-2	107,908
	4　自然科学	36,876	928	591	1	37,214
	5　工学･工業	35,682	766	6	24	36,466
	6　産　業	28,542	490	12	5	29,025

分　類	区　分	29年度累計	30年度増加	30年度除籍	利用替え	30年度累計
	7 芸　　術	40,822	796	26	1	41,593
	8 語　　学	9,494	152	12	0	9,634
	9 文　　学	92,503	1,092	11	12	93,596
	計	472,325	8,044	803	67	479,633
地域資料	0 総　　記	17,987	422	0	0	18,409
	1 哲　　学	2,714	43	0	0	2,757
	2 歴　　史	37,650	868	6	6	38,518
	3 社会科学	65,455	1,411	2	1	66,865
	4 自然科学	9,886	236	3	0	10,119
	5 工学･工業	14,395	706	8	1	15,094
	6 産　　業	21,937	397	1	1	22,334
	7 芸　　術	16,798	407	1	1	17,205
	8 語　　学	918	8	0	0	926
	9 文　　学	28,167	540	1	1	28,707
	計	215,907	5,038	22	11	220,934
児童資料	研究資料	36,521	465	2	-6	36,978
	児童図書	113,928	2,676	113	2,512	119,003
	計	150,449	3,141	115	2,506	155,981
逐次刊行物資料	雑　　誌	165,345	4,959	269	0	170,035
	新聞合本	15,454	110	0	0	15,564
	新聞記事ファイル	3,830	2	0	0	3,832
	計	184,629	5,071	269	0	189,431
特殊文庫		70,272	0	0	0	70,272
館内用計		1,093,582	21,294	1,209	2,584	1,116,251
市町村支援計		66,499	2,426	3,955	-2,584	62,386
合　計		1,160,081	23,720	5,164	0	1,178,637

3　館内奉仕

開館日は286日、入館者は174,034人、1日平均609人の利用があった。震災の影響で平成23年度に大きく落ち込んだ入館者数だが、震災前（平成22年度）の7割程度に回復してきている。しかし大きな伸びはない。

入館者数

開館日数	286日
入館者数	174,034人
（1日平均）	609人

入館者数・推移　　　　（単位：人）

平成28年度	平成29年度	平成30年度
167,650	164,502	174,034

⑴　調査相談（レファレンス）

県内外から、日常の生活の中での質問、仕事上の調査研究等、多種多様な調査相談を受け、所蔵資料及び関係機関の協力を得て回答している。問い合わせは、口頭、電話、文書、FAX、電子メールにて受け付けている。総件数は一般・地域・逐刊、児童資料ともに昨年度より若干減少した。また、当館のホームページについては、トップページや「蔵書検索」へのアクセスが大きく伸びた。県内の図書館の所蔵資料を検索する「横断検索」や当館の貴重資料を紹介した「デジタルライブラリー」も利用されている。

調査相談件数　　　　（単位：件）

	一般･地域･逐刊	児童資料	小　計
口　頭	7,065	3,333	10,398
電　話	1,287	43	1,330
文　書	15	0	15
ＦＡＸ	28	0	28
電子メール	177	1	178
合　計	8,572	3,377	11,949

調査相談件数・推移　　　　（単位：件）

平成28年度	平成29年度	平成30年度
11,473	12,074	11,949

ホームページアクセス件数　（単位：件）

区　分	平成28年度	平成29年度	平成30年度
トップページ	194,853	270,257	317,481
蔵書検索	510,541	529,594	655,110
横断検索	396,175	374,626	501,635
ﾃﾞｼﾞﾀﾙﾗｲﾌﾞﾗﾘｰ	4,677	3,880	5,036
こどものへや	3,480	3,383	2,651
利用案内	14,634	14,595	20,362

⑵　館内サービス

「福島県立図書館アクションプラン（第３次）」を踏まえ、図書館資料の提供や各種講座の実施を通じ、地域の復興及び暮らしに役立つ情報の提供に努めた。

また、当館のホームページから全ての所蔵資料（貸出可能なもの）の予約ができるWeb予約サービスやWeb予約した資料を市町村図書館で受取ることができる受取館指定サービスは利用が伸びている。

⑶　館外個人貸出

登録者数は13,824人、貸出冊数は155,500冊、のべ人数は41,513人で、昨年度より増加した。

直接自宅へ資料が届く資料宅配サービス（有料）の利用は、17件、冊数は98冊と昨年度より減少した。

館外個人貸出状況

分　類	冊数(冊)	構成比(%)
総記	2,404	1.6
哲学・宗教	4,718	3.0
歴史・地理	7,616	4.9
社会科学	11,461	7.4
自然科学	7,335	4.7
工学・工業	7,216	4.6
産業	3,663	2.4
芸術	8,308	5.3
語学	1,310	0.8
文学	21,619	13.9
地域資料	8,305	5.3
新聞雑誌	7,549	4.9
小　計	91,504	58.8
児童	64,046	41.2
合　計	155,550	100.0

館外個人貸出状況・推移

区　分	平成28年度	平成29年度	平成30年度
冊　数（冊）	140,037	150,699	155,550
のべ人数（人）	38,237	39,979	41,513

館外個人貸出登録者数（登録有効期間３年）（単位：人）

区　分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	合　計
新　規	3,130	3,169	3,128	9,427
更新者	1,459	1,408	1,530	4,397
合　計	4,589	4,577	4,658	13,824

館外個人貸出登録者数・推移　（単位：人）

平成28年度	平成29年度	平成30年度
13,993	13,733	13,824

⑷　特別貸出

特別貸出とは、類縁機関での展示等のための貸出を行う制度で、資料・冊数・期間などの面で配慮している。

特別貸出状況

貸出先	件数（件）	冊数（冊）
官公庁関係	4	21
図書館その他	12	148
会社・事業所	23	153
報道関係	0	0
学校	100	111
計	139	433

特別貸出状況・推移　（単位：冊）

平成28年度	平成29年度	平成30年度
828	755	433

⑸　一般資料

県民が必要とする多種多様な情報を迅速に提供するように資料整理等に努めた。

また、時事や季節、話題性のあるテーマで展示を行い資料の紹介に努めた。「本のひろば」のコーナーでは「介護への視線」「空模様を読む」「人をむすぶ、本とむすぶ」など７回実施した。時事展示として、「新生活を始めよう！」「子どもたちの教科書を見てみよう！」「幕末の風　―戊辰150年―」など７回実施。ミニ展示としては、美術館企画展示関連の「ポーラ美術館展をより楽しむために」日本人ノーベル賞受賞者を紹介した「ノーベル医学・生理学賞　本庶佑氏関連資料」など２回実施した。さらに、パスファインダー「本の森への道しるべ」は「空模様を読む」など新たに５本作成し、効率かつ有効的な情報の提供に努めた。

平成31年２月23日（土）には図書館見学会を実施し県立図書館の役割や機能について紹介しながら書庫を案内した。（参加者17名）

⑹　地域資料

平成30年に没後70年を迎えた本県出身の国際的歴史学者・朝河貫一博士（1873-1948）の功績を称え、「朝河貫一没後70年記念事業」として下記の各種事業を実施した。

ア　当館ホームページに「郷土の偉人・朝河貫一没後70年」を平成30年４月に開設

イ　企画展「海を渡ったサムライ～朝河貫一没後 70 年記念展」の開催

（期間：平成 30 年６月８日(金)～９月５日(水)）

(ｱ) オープニングセレモニーの実施

開催日・会場：平成 30 年６月８日(金)
11 時～　エントランスホール

出席者：朝河貫一博士顕彰協会 代表理事
矢吹　晋（横浜市立大学名誉教授）
朝河貫一博士顕彰協会 事務局長
糠澤　修一（福島テレビ代表取締役会長）
早稲田大学文学学術院教授　甚野　尚志
福島県教育長　鈴木　淳一　等　21 名

(ｲ) 図書館職員によるギャラリートーク(３回実施)

合計参加者 66 名

ウ　記念講演会　平成 30 年６月９日(土)　福島県立図書館講堂講堂　参加者　168 名

講演「ふくしまから世界へ～国際人・朝河貫一のあゆみ～」

講師 早稲田大学文学学術院教授 甚野 尚志

エ　『朝河貫一資料目録』改訂版の発行

書簡内容の解説等を加えた1992年発行の大幅な改訂版

(ｱ) 刊行記念講演会　平成 31 年２月 23 日(土)

福島県立図書館講堂　参加者　82 名

講演「書簡からみた朝河貫一の歩み」

講師 早稲田大学文学学術院教授 甚野尚志 氏

その他の企画展示としては､一般チームと協力して｢幕末の風～戊辰 150 年～」を開催し、期間中戊辰戦争をテーマにした連続講座を２回実施した。

地域資料については、県内外の個人・団体などから様々な調査相談が寄せられた。調査相談件数の 22%が福島県に関することの問い合わせであり、的確な回答を導き出せるよう調査に取り組むとともに、迅速な対応を心がけた。

地域資料の館外個人貸出冊数は前年度比 103%となった。分野別に見ると歴史地理部門が多く個人貸出冊数の約 40%を超え、東日本大震災関連資料は昨年とほぼ同じ約 11%に留まった。県人文庫は前年度とほぼ変らず 19.6 %と横ばい傾向にある。

資料の撮影･展示及び掲載許可の申請は 23 件と増加した。当館の「朝河貫一没後 70 年記念事業」と全国的な朝河博士の顕彰事業の影響によるところが大きい。また、所蔵する貴重資料も幅広く利用された。

劣化の激しい貴重資料『郷土誌 相馬郡日立木村』など４点については、デジタル化した。

一つのテーマを絞って資料を案内するパスファインダー「本の森への道しるべ」は、新規１本「伝える。東日本大震災・原発事故の記憶」、改訂１本を作成した。

⑺　逐次刊行物

『福島県公立図書館 現行購入雑誌保存年限および保存指定館､現行受入新聞一覧』(平成 30 年度版)については、大熊町、双葉町、浪江町の３町以外から回答を得て発行した。

加えて『「福島県公立図書館現行受入新聞以外の保存新聞（昭和40年代以前）」に関する調査結果』を発行した。

ミニ展示については、「夏を楽しむ」「お金との上手な付き合い方」「雑誌で読む文学賞」など、季節を配慮するなどして利用者の方に関心を持っていただけるような内容で行った。

パスファインダー「本の森への道しるべ」は、展示コーナー企画展示「さようなら平成」にちなんで「「平成」を振り返る」で新規１本を作成した。

⑻　児童サービス

子どもの読書活動推進のために各種の事業を行った。

ア　こどものへや・児童図書研究室の運営

資料の貸出や調査相談をはじめ、「絵本コーナー」や「新着図書コーナー」などで推奨する資料の展示を行った他､ロビー展示コーナーを活用して 10 代の子どもたちに向けた展示を行った。また、「子ども読書活動支援コーナー」では、読書活動関係者に対して情報提供を行った。

イ　おはなしかいの開催

乳幼児と保護者を対象とした「ちいさなおはなしかい」（毎月第２木曜日）や児童を対象に以下の「おはなしかい」を開催した。

・県立図書館との連携おはなしかい

県立美術館企画展「イラストレーター安西水丸」展で「ちいさなおはなしかいスペシャル」（７月 12 日(木)、８月９日(木)）、「アートなおはなしかい」（７月 21 日(土)）を実施した。

・「クリスマス ミステリーツアー」

(12 月１日(土))

小学校低学年まで、中学年・高学年、中学生を対象とした図書館見学とおはなしかいを実施した。

ウ　こども講座

・「こども図書館探偵」（７月 25 日(水)、26 日(木)）

本の調べ方、図書館の利用方法について調べながら考える講座を実施した。

エ　図書館見学の受け入れ

学校等の要望に応え、施設見学や利用案内、読み聞かせ等を行い、図書館や本に親しむ機会の提供に努めた。

オ　情報誌の発行

思春期の子どものための読書案内誌『LITTLE BIG』や児童サービス関連情報誌『児童図書研究ニュース』を発行し読書普及のための情報提供に努めた。

カ　ロビー展示ミニコーナーでの展示

こどもの読書週間関連展示やヤングアダルト向け資料の展示を行った。

(ｱ)　「絵本はともだち　読み聞かせに向く絵本」
(平成 30 年４月 21 日(土)～５月 13 日(日))

(ｲ)「大人が読む絵本」
(平成 30 年５月 15 日(火)～７月４日(水))
(ｳ)「夏に読みたいストーリー」
(平成 30 年７月６日(金)～９月５日(水))
(ｴ)「「詠む」ということ」
(平成 30 年９月７日(水)～10 月３日(水))
(ｵ)「世界を知る手がかり」
(平成 30 年 10 月５日(金)～31 日(水))
(ｶ)「食にまつわるおいしい本」
(平成 30 年 11 月２日(金)～12 月５日(水))
(ｷ)「写真の力」
(平成 30 年 12 月７日(金)～27 日(木))

キ 「子育て支援コーナー」の運営

図書館の子育て世代のための施設案内「ママ・パパこどもマップ」を作成した。また、子育てに役立つ図書や雑誌の展示や関係各課からのパンフレット配布等、情報提供に努めた。親子で楽しむ絵本の展示を行った。

ク 子ども読書と科学のコラボ事業

「spffサイエンス屋台村in福島」(平成 30 年 11 月 17 日(土))に参加し、科学や実験に関連する資料の展示を行った

(9) 東日本大震災福島県復興ライブラリー

平成 24 年度から「東日本大震災福島県復興ライブラリー」を開設。常設コーナーとして、東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故の関連資料を中心に、地震、津波、体験記、放射線、除染、復興、防災、エネルギー問題等の資料を配架し、利用に供している。所蔵数は、平成 31 年３月 11 日現在で 12,316 タイトルとなっており、平成 30 年度増加資料一覧を作成しホームページで公開した。また、資料紹介として「ブックガイド」を刊行し利用促進を図った。

また福島民報と福島民友に掲載された震災・原発・復興関連の記事の見出しを地区ごとにまとめ一覧にした『地元新聞にみる原発関連見出し一覧』を平成 31 年１月 31 日現在までに更新し、ホームページに掲載した。

さらに、〝巡回する福島県復興ライブラリー〟として、資料やパネル等を出張展示用セットとして編成し活用を図っている。平成 30 年度は、鶴川女子短期大学附属図書館で出張展示(11 月９日(金)～10 日(土))が開催された。

平成 31 年２月には館内レイアウトの変更に伴い、復興ライブラリー資料コーナーを拡大し見やすい配置にした。

(10) 特殊文庫・貴重資料紹介コーナー

公開図書室内にて各特殊文庫概要紹介パネルの掲示をはじめ、資料の一部配架や展示ケースにて貴重資料の展示などを行い、当館所蔵の特殊文庫や貴重資料の紹介に努めた。平成 30 年度は、平成 29 年２月に開設した「長田弘文庫」の一部を展示し紹介した。11 月からは展示ケース内で「蔵書印やサインなど長田氏の所蔵の痕跡がみられる資料」の公開展示を実施した。併せて「長田弘文庫見学会」を２回（５月３日(木)と 11 月 10 日(土)）実施した（参加者のべ９人）。

平成 31 年２月からは「東日本大震災福島県復興ライブラリーの出張展示用セット」を展示し利用拡大を図っている。

(11) 複写サービス

コイン式コピー機は１台、レーザープリンター１台、カラープリンター１台、マイクロプリンター２台での対応となっている。保存のために資料の媒体を変えていることから、形態にあわせてそれぞれのプリンターで対応している。

複写利用状況

区　分	件数（件）	枚数（枚）
自・他館処理	4,168	48,507

複写利用状況・推移　（単位：枚）

平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
51,548	49,297	48,507

(12) 来館者用インターネットコーナー

来館者が利用できるインターネット端末を一般用に 6 台、こどものへやに 1 台設置し、情報提供の便宜を図っている。また、当館職員による「はじめてのインターネット使い方講座」を2回(11 月７日(土)と 12 月 12 日(水))実施し、インターネット利用の啓発を図った。

インターネット利用状況　（単位：人）

区　分	一　般	児　童	合　計
人　数	6,181	29	6,210

インターネット利用状況・推移　（単位：人）

平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
6,603	6,067	6,210

(13) 展示

ア 展示コーナー企画展示

当館入り口の展示コーナーにおいて、テーマに沿った資料の展示を行った。

(ｱ)「小さな人たちのために－雑誌『赤い鳥』創刊 100 年－」
(平成 30 年４月６日(金)～30 日(月))
1918 年に鈴木三重吉により創刊された雑誌「赤い鳥」復刻版を展示した。

(ｲ)「まほろん移動展　被災地の文化財 双葉高校史学部の歩み」
(平成 30 年５月３日(木)～６月６日(水))
福島県文化財センター白河館（まほろん）による展示。
双葉高校史学部の軌跡を辿りながら、被災地の文化財を紹介した。

(ｳ)「海を渡ったサムライ～朝河貫一没後 70 年記念展」
（平成 30 年６月８日(金)～９月５日(水)）
当館所蔵「朝河貫一資料」の書簡や著作等を中心に 53 点を展示。朝河博士の生涯を辿り、大隈重信、野口英世ら著名な人々との交流を中心に書簡や人物紹介を展示したほか、「昭和天皇宛大統領親書草案」や「朝河をいろどった女性たち」のテーマ展示を行った。
期間中､職員による展示資料の解説(ギャラリートーク)を平成 30 年６月９日(土)、７月 22 日(日)、８月５日(日)の３回実施。

(ｴ)「世界の岩なだれ展　～セントヘレズと磐梯山を中心に～」
（平成 30 年９月７日(金)～10 月３日(水)）
磐梯山噴火記念館による、磐梯山噴火 130 年に関連した展示。セントヘレズと磐梯山を中心に、世界の岩なだれに関するパネルを展示した。

(ｵ)「幕末の風　～戊辰 150 年～」
（平成 30 年 10 月５日(金)～31 日(水)）
当館所蔵の戊辰戦争関係資料を、①リアルタイムでの記録 ②様々な視点による戊辰戦争の記録 ③絵画による記録 の３つのテーマに分けて展示した。館内のセンター展示やミニ展示も戊辰戦争をテーマとした。
期間中、戊辰戦争をテーマに「ふくしまを知る連続講座」第３回と第４回を実施した。[(14)普及事業に詳細]

(ｶ) 福島県歴史資料館移動展示「村人たちの戊辰戦争」
（平成 30 年 11 月２日(金)～12 月５日(水)）
公益財団法人福島県文化振興財団との共催事業として、福島県歴史資料館で開催した同テーマによる展示の移動展を行った。
同館所蔵の資料を参考に、戊辰戦争時における村人たちの生き方を紹介した。
併せて、福島県歴史資料館の専門学芸員山田英明氏による講座「士（さむらい）たちの戊辰戦争」（第5回ふくしまを知る連続講座）」を実施した。

(ｷ)「受賞図書展」
（平成30年12月７日(金)～平成31年２月11日(月)）
ノーベル文学賞や日本の文学賞等、様々な文学賞の受賞作品を展示した。

(ｸ)「さようなら平成」
（平成31年２月23日(土)～令和元年５月８日(水)）
平成の時代が４月で幕を閉じ、５月から新しい令和の時代へと変わった改元の時期にあわせ、平成の 30 年間を飾ったさまざまな出来事を振り返る資料を展示した。

イ　ロビー展示
情報発信の一環としてロビー通路壁面を利用し、県民に作品発表の場を提供した。
(ｱ)「色鉛筆画の世界」
（平成 30 年４月６日(金)～30 日(月)）
(ｲ)「仏像模写　悠久の祷り」
（平成 30 年５月３日(木)～６月６日(水)）
(ｳ)「只見線秀景」
（平成 30 年６月８日(金)～７月４日(水)）
(ｴ)「県工展―福島県立福島工業高等学校 美術部展―」
（平成 30 年７月６日(金)～８月１日(水)）
(ｵ)「福島西高等学校書道部作品展示」
（平成 30 年８月３日(金)～９月５日(水)）
(ｶ)「網代澄亭と一門による刻字展」
（平成 30 年９月７日（金）～17 日(月)）
(ｷ)「JICA青年海外協力隊シニア海外ボランティア活動写真パネル展示」
（平成 30 年９月 19 日(水)～10 月 31 日(水)）
(ｸ)「トールペイントのおくりもの」
（平成 30 年 11 月２日(金)～12 月５日(水)）
(ｹ)「磐梯吾妻・蔵王を撮る」
（平成 30 年 12 月７日(金)～27 日(木)）
(ｺ)「只見線秀景」
（平成 31 年１月５日(土)～２月 11 日(月)）
(ｻ)「「復興」と「創生」を支える福島県土木部の役割」
（平成 31 年２月 23 日(土)～４月３日(水)）

⒁ 普及事業

県内公共図書館及び公民館図書室等、図書館関係施設職員の資質の向上を図るため、講演会や講座を実施することで、幅広い知識の習得を目指し、また、一般県民に対しても開放し、図書館としての情報発信を行い、地域文化の進展に寄与した。

ア　講演会
第１回「ふくしまから世界へ～国際人・朝河貫一のあゆみ～」
平成 30 年６月９日(日)
講師　早稲田大学文学学術院　教授　甚野尚志
参加者 168 名
第２回「書簡からみた朝河貫一の歩み」
平成 31 年２月 23 日(土)
講師　早稲田大学文学学術院　教授　甚野尚志
参加者 82 名

イ　ふくしまを知る連続講座
第１回「磐梯山の噴火から 130 年
～世界の岩なだれの中の磐梯山～」
平成 30 年４月 22 日(日)
講師　磐梯山噴火記念館　館長　佐藤公
参加者 60 名

第２回｢被災地の文化財　～双葉高校史学部の軌跡～｣
平成 30 年５月 13 日(日)
講師　双葉町教育委員会　吉野　高光
参加者 23 名
第３回「県南の戊辰戦争～白河を中心に～」
平成 30 年 10 月６日(土)
講師　白河歴史民俗資料館専門学芸員 内野　豊大
参加者 61 名
第４回「福島の戊辰戦争～大藩の狭間で揺れ動く小藩の悲哀～」
平成 30 年 10 月 21 日(日)
講師　福島市史編纂室　守谷　早苗
参加者 57 名
第５回「士（さむらい）たちの戊辰戦争」
平成 30 年 11 月 25 日(日)
講師　福島県歴史資料館専門学芸員　山田　英明
参加者 94 名

ウ　衛生学予防医学講演会
福島県立医科大学の衛生学・予防医学講座との連携による講演会を、平成 20 年度から開催している。
開催日　平成 30 年７月７日(土)
場所　福島県立図書館　第一研修室
内容
（講演１）
・テーマ「リンゴを食べるとやせる？
～健康に関する情報の見極め方～」
・講　師　遠藤　翔太
（県立医大衛生学・予防医学講座助手）
（講演２）
・テーマ「「口から食べる」を続けるために
～嚥下障害の仕組み、対応と予防の方法～」
・講　師　　鈴木　園美
（言語聴覚士、県立医大衛生学・予防医学講座大学院修士課程）
参加者　67 名

エ　県民講座（試行）
・テーマ　「終活入門　～その日に備える遺言、エンディングノート」
・講　師　福島県弁護士会　駒田　晋一
参加者 55 名

４　館外奉仕

⑴　移動図書館「あづま号」

以下の目的により巡回事業を実施し、連携協力を図るとともに、合計 26,786 冊の資料を貸出した。

ア　図書館未設置町村支援
図書館未設置町村における図書館活動の促進を図ることを目的に、資料の貸出しと公民館図書室等の運営相談を行った。18 自治体に巡回し、延べ 22,054 冊の資料を貸出した。

イ　避難自治体支援事業
東日本大震災等の影響により避難を余儀なくされ、図書館等の運営が困難な７自治体に対し、読書環境を改善することを目的に巡回し資料の貸出しを行った。
該当自治体全ての小学校を始め、希望が寄せられた公民館・子ども園・中学校・仮設図書館に対して 2,998 冊を貸出した。

ウ　特別支援学校読書活動支援事業
日常的に図書館や読書施設、書店等の利用が困難な子どもたちの読書環境の向上を目的に、西郷養護学校・富岡養護学校・石川支援学校・猪苗代支援学校の４校を巡回し、延べ 1,188 冊の資料を貸出した。

エ　文化施設連携事業
県内文化施設間の連携を図ることを目的に、福島県文 化財センター白河館の事業（まほろん冬まつり）に参加し、31 冊を貸出した。また、まほろんの企画展示「はま・なか・あいづ再生史」の関連資料を展示するとともに、朝河貫一博士のコレクションをPRした。

移動図書館「あづま号」貸出状況・推移　（単位：冊数）

平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
23,026	23,506	26,786

⑵　市町村援助のための支援貸出

大規模な図書館事業を行う市町村に対して、長期にわたり一括大量に資料の貸出しを行い、図書館・公民館図書室の読書・学習環境を支援した。
平成 30 年度の利用状況は次のとおりである。

本宮市教育委員会	1,797 冊
川俣町教育委員会	393 冊
喜多方市教育委員会	264 冊
浅川町教育委員会	3,332 冊
平田村教育委員会	309 冊
会津美里町教育委員会	2,225 冊
西会津町教育委員会	310 冊
合　　計	8,630 冊

⑶　福島県立図書館資料の譲与

再活用が十分見込まれる資料を、県内市町村教育委員会及び高等学校等に対し譲与し、図書館施設の蔵書の充実を支援した。平成 30 年度の利用状況は次のとおりである。

会津美里町教育委員会	1,000 冊
福島県男女共生センター	55 冊
福島刑務所	463 冊
福島警察学校	400 冊
福島県大笹生学園	114 冊
福島県中央児童相談所	52 冊
ふくしま自治研修センター	47 冊
合　　計	2,131 冊

⑷　学校図書館活動支援貸出

県内高等学校及び県立特別支援学校の図書館活動の充実を図るために、長期にわたり一括大量に図書の貸出しを行い、学校図書館読書・学習環境の支援を行う。平成30年度の実績はなかった。

⑸　学校図書館活動支援セット貸出

県内の児童・生徒の学びの環境づくりを支援するため、県内の高等学校および特別支援学校、小・中学校等に対して、その図書館活動の充実を図ることを目的に、118テーマ（延べ277セット）を編成し貸出を行った。

平成30年度の利用状況は、16団体に対し44セット（1,882冊）を貸出した。

⑹　広報資料の発行

ア　館報「あづま」

第68巻（通巻272号）を平成31年2月22日に発行した。主たる掲載事項としては、「福島県立図書館アクションプラン（第3次）について」「県内新設図書館及び再開図書館の動向」「朝河貫一没後70年記念事業実施報告」等

イ　平成30年版福島県公共図書館・公民館図書室実態調査報告書（データ版）

図書館活動の振興に資するため、昭和54年度から県内公共図書館等の実態調査を実施し、報告書としてまとめ、県立図書館ホームページに掲載している。

主な調査結果であるが、4月1日現在、県内図書館の合計蔵書冊数は6,122,010冊で、当該人口1人当たり3.59冊（前年度3.48冊）、年間増加冊数は210,478冊である。また、平成29年度中の貸出図書冊数は、6,560,676冊（当該人口1人当たり3.84冊）であり、前年度と比べると総冊数では、75,345冊の増である。状況としては、各館の数値が微増しているものであり、大きな要因は認められない。

ウ　福島県郷土資料情報

第59号を発行。1年以上をかけて準備した当館の「朝河貫一没後70年記念事業」実施報告と、その一連の企画で6月～9月にかけて実施した「海を渡ったサムライ～朝河貫一没後70年記念展」の展示資料より、書簡5点に焦点をあて紹介した。

また、年度内に5回実施した「ふくしまを知る連続講座」の概要を報告した。連載記事として「福島県立図書館所蔵 貴重郷土資料探照」、「福島県関係書誌」をまとめた。100部発行し、当館ホームページへも掲載する等、郷土の情報を発信した。

5　図書館協力

⑴　相互協力と遠隔地返却

協力貸出（他館との資料の賃借）サービス、遠隔地返却（当館資料を他館に返却する）サービスを行っている。協力貸出や遠隔地返却など、市町村図書館を窓口とした遠隔地の県民の利用が大きく増加した。

相互貸借状況　（単位：件/冊）

区分	県内		県外		合計	
	件数	冊数	件数	冊数	件数	冊数
貸出	1,035	5,171	456	703	1,491	5,874
借用	133	178	78	90	211	268
小計	1,168	5,349	534	793	1,702	6,142

相互貸借状況・推移　（単位：冊）

平成28年度	平成29年度	平成30年度
5,819	5,555	6,142

隔地返却冊数・推移（利用者が来館し、直接貸出しを受けた資料を県内公立図書館に返却した冊数）　（単位：冊）

平成28年度	平成29年度	平成30年度
6,551	6,865	7,578

⑵　図書館協力車事業

県内市町村図書館などの運営を支援するため、各館を定期的に巡回し、情報の収集と提供、運営に関する相談を行った。

また、協力貸出（資料の賃借）などの資料の搬送支援を行った。平成30年度は、16コースを編成し、31自治体と2高等教育機関に対し巡回した。

⑶　県内図書館職員研修会

県内図書館職員の資質向上と専門的知識の涵養を図るため、毎年行っている。

ア　福島県図書館・公民館図書室職員等初任者研修会
- ㈠ テーマ　「図書館の意義と基本について」
- ㈡ 期　日　平成30年5月25日（金）
- ㈢ 会　場　福島県立図書館
- ㈣ 参加者　県内図書館・学校図書館・公民館図書室職員 等　99名
- ㈤ 講　師　義務教育課指導主事　川野邉勝也
県立図書館職員

イ　福島県図書館・公民館図書室職員等専門研修会
- ㈠ テーマ　「障害者差別解消法を踏まえ、
改めて考える図書館サービス」
- ㈡ 期　日　平成30年11月16日（金）
- ㈢ 会　場　福島県立図書館
- ㈣ 参加者
県内図書館・学校図書館・公民館図書室職員 等
33名
- ㈤ 講　師　専修大学　教授　野口　武悟

ウ　福島県内図書館初任者職員実務研修
- ㈠ 期　日　平成30年6月21日（木）～22日（金）
- ㈡ 会　場　福島県立図書館
- ㈢ 参加者　6名
- ㈣ 講　師　福島県立図書館職員

⑷　第 16 回福島県図書館研究集会（北日本図書館連盟研究協議会）

図書館業務及び読書活動推進に関わる実務的な研究会を行うとともに、情報交換や協議を行い図書館活動の振興を図ることを目的に、福島県公共図書館協会事務局として実施・運営している。平成 30 年度は北日本図書館連盟による研究協議会との併催として実施した。

ア　テーマ　「図書館が果たすべき社会的役割とは
〜復興を起点に図書館の在り方を考える〜」
イ　期　日　平成 30 年 10 月 4 日(木)〜 5 日(金)
ウ　会　場　福島県立図書館
エ　参加者　北海道東北地区図書館・学校図書館・公民図書室職員等　98 名
オ　内　容

事例報告①
・テーマ　「東日本大震災からの復興に向けて
〜陸前高田市立図書館の取組み〜」
・報告者　陸前高田市立図書館　館長　戸羽　亮一

事例報告②
・テーマ　「すべては、よりよく生きるために」
・報告者　大崎市図書館　司書　村上　さつき

事例報告③
・テーマ　「つながる図書館の実現に向けた取り組み
〜復興を起点として〜」
・報告者　気仙沼図書館　主幹（司書）　山口　和江

事例報告④
・テーマ　「『個』をつなぐ図書館を目指して
〜人、町、文化の交流の広場に〜」
・報告者　富岡町図書館　司書　東山　恵美

情勢報告
・報告者　公益社団法人日本図書館協会
副理事長　西野　一夫

パネルディスカッション
・司　会　富士大学　教授　早川　光彦
・パネラー　事例報告者（前出）
公益社団法人日本図書館協会
図書館災害対策委員会　委員　川島　宏

⑸　子どもの本がつなぐスマイルプロジェクト

東日本大震災で被災した子どもたちや親たちが、本とのふれあいを通して心を癒やすことを目的に、読み聞かせなどを行うフェスティバルを、平成 26 年度より開催している。

プロジェクト実施に併せ、子どもたちに出会って欲しい絵本を紹介したブックリスト「本はともだち〜福島を知る　福島を伝える〜」を作成し配布した。

ア　「絵本はともだち」
(ｱ) 期　日　平成 30 年 8 月 6 日(月)
(ｲ) 会　場　相馬市民会館
(ｳ) 参加者　子どもと保護者・保育従事者・読書ボランティア・その他関係者等 70 名
(ｴ) 内　容
講演・実演（おはなしかい等）
・テーマ　「おはなしかい　いっしょにね」
・講　師　幼児教育専門家　　藤田　浩子

イ　「本はともだち」
(ｱ) 期　日　平成 30 年 11 月 4 日(日)
(ｲ) 会　場　福島県立図書館
(ｳ) 参加者　子どもと保護者・学校・保育関係者・読書ボランティア・その他 72 名
(ｴ) 内　容
講演・実演（ブックトーク等）
・テーマ「ブックトーク」
・講　師　公益財産法人東京子ども図書館
理事　杉山　きく子

⑹　県内大学図書館間との連携

県内の大学図書館及び公共図書館間における、「図書館資料の相互貸借」「複写」「参考業務」及び「一般社会人への共通利用証発行」等の協力体制を推進するため、“福島県内大学図書館連絡協議会”の公共図書館唯一の加盟館として、「福島県内大学図書館間相互利用制度」の維持に努めた。

同協議会には、県立図書館の他、県内 20 の市町村立図書館が参加館として参加している。参加している図書館は、福島市立図書館、二本松市立二本松図書館、郡山市中央図書館、須賀川市図書館、白河市立図書館、会津若松市立会津図書館、喜多方市立図書館、相馬市図書館、南相馬市立中央図書館、いわき市立いわき総合図書館、田村市図書館、小野町ふるさと文化の館、三春町民図書館、鏡石町図書館、矢吹町図書館、双葉町図書館、大熊町図書館、新地町図書館、浪江町図書館、本宮市立しらさわ夢図書館である。

さらに、福島大学附属図書館、及び、福島県立医科大学附属学術情報センター図書館とは、相互協力のための「ふくふくネット」を締結しており、それに基づき活動を行った。

第13節　福島県立美術館

1　概要

昭和59年に開館した福島県立美術館は、さまざまなテーマに基づく展覧会、創作や芸術鑑賞のための各種講座等の事業を実施している。また、文化財としての美術作品の収集保存、美術や地域の芸術運動に関する調査研究を継続的に実施している。これらの活動を基盤に、美術の情報センターとしての機能を担っている。

当年度の美術館活動の概要は以下のとおりである。

⑴　美術館運営協議会

ア　委員

山口　功　福島県中学校教育研究会美術専門部所属（平成25年１月１日～）
番匠あつみ　福島県高等学校教育研究会美術工芸部会所属（平成27年１月１日～）
杉　昭重　公益財団法人福島県文化振興財団理事長兼福島県文化センター館長(平成29年１月１日～)
坂本節子　福島県家庭教育インストラクターいわきの会事務局長（平成25年１月１日～）
齋藤勝正　福島県美術家連盟会長（平成29年１月１日～）
鈴木　仁　日本放送協会福島放送局長（平成29年８月19日～）
星眞智子　西会津国際芸術村事務長（平成27年１月１日～）
清水眞砂　世田谷美術館分館長（平成27年１月１日～）
齋藤美保子　郡山女子大学短期大学部教授（平成27年１月１日～）
舟木藤弘　福島県立美術館友の会理事（平成29年１月１日～）

イ　協議会の開催

(ｱ) 期日　平成31年２月27日(水)
(ｲ) 内容　・平成30年度事業実施の概要
・平成31年度事業計画案の概要
・県立美術館の運営等

⑵　他館等との連携

県内外の博物館施設および全国組織等との連携を図り運営・事業等に関する情報交換や研修等を実施した。

加盟団体　・全国美術館会議　（理事）
・日本博物館協会　（会員）
・日本博物館協会東北支部（監事）
・東北地区博物館協会　（監事）
・福島県博物館連絡協議会（理事）

2　美術品の収集・保存

優れた美術作品鑑賞の機会を提供し、文化財を保存継承するために、コレクション（収蔵作品）の収集活動を継続的に行っている(ただし平成22年度以降、作品購入実績はない)。

平成30年度は113点の作品および６件の資料を寄贈により収集した。

⑴　収蔵作品点数（平成31年３月31日現在）

海外作品	450点
日本画	355点
洋　画	971点
版　画	1,153点
立　体	139点
工　芸	155点
書	39点
素描・下絵	257点
写真	410点
作品合計	3,929点
美術資料	69件

⑵　収集評価委員会

ア　委員

原田　光　元岩手県立美術館長（平成23年12月１日～）
村田眞宏　豊田市美術館長（平成23年12月１日～）
荒屋鋪透　中部大学民族資料博物館長（平成23年12月１日～）
三上満良　宮城県美術館副館長（平成23年12月１日～）
佐々木吉晴　いわき市立美術館長、宇都宮美術館長（平成23年12月１日～）

イ　委員会の開催

(ｱ) 期日　平成31年２月22日(金)
(ｲ) 内容　・平成29年度収集作品の報告
・平成30年度収集候補作品について

⑶　平成30年度収集作品等

ア　美術作品及び美術資料の収集

国内：日本画	中野蒼穹	１点
国内：洋画	梅宮英亮	１点
	角田行夫	２点
	渡部菊二	４点
	宮崎　進	19点
	若松光一郎	39点
国内：素描･下絵	渡部菊二	17点
	若松光一郎	25点
国内：版画	渡部菊二	２点
	若松光一郎	３点
国内：資料	中野蒼穹資料	１件
	斎藤　清資料	１件
	渡部菊二資料	１件
	道乃奥第１号	１件
	県内作家資料	１件
	門間春男資料	１件
	計113点　美術資料６件	

イ　図書資料の収集

収蔵図書数　　59,667 冊

⑷　保存管理

美術品の状態を維持回復し、美術品の保管・展示の環境を良好に保つために、計画的に美術品の修復や館内の保存環境調査を実施している。

ア　保存環境調査の実施(虫菌害モニタリングと環境測定)

時期：平成 30 年６月４日(月)～18 日(月)、
８月 10 日(金)～25 日(土)
(調査期間)[報告書は平成 30 年７月 10 日(火)、平成 30 年９月 20 日(木)に提出]

内容：展示室、収蔵庫、搬入口およびその他の館内外の虫菌害調査、酸アルカリ濃度測定等

イ　美術品の修復

酒井三良《雪に埋もれつつ正月はゆく》の修復を実施した。そのほか関根正二、上野山清貢、安井曽太郎、村山槐多の作品（計 34 点）の状態点検調査を実施。またジョルジュ・ルオー《ミセレーレ》58 点中 24 点の額を交換。

ウ　敷地内の放射線測定

(ｱ) 時期　毎月１回、計 12 回測定

(ｲ) 場所　美術館内および敷地内　計 45 か所

３　展示事業

⑴　常設展

収蔵および寄託の美術作品を展示している。美術の多様な領域や数多くの作家を紹介するとともに、作品の状態の保全に配慮して、年４回（版画は年８回）展示替えを行っている。

コレクション展Ⅰ　平成 30 年３月 24 日(土)～６月 24 日(日)

春の日本画：伊東深水「春光」、小茂田青樹「薫房」

関根正二と近代の洋画：関根正二「姉弟」、小出楢重「けしの花」

日本人画家が魅せられたヨーロッパ：渡辺良雄「城壁のある町」、桑原実「アテネ」

池袋モンパルナス：鈴木新夫「働く人(A)」、吉井忠「麦の穂　　を持つ女」

印象派と海外の名品：ピサロ「エラニーの菜園」、ピカソ「二人の裸婦」

齋藤隆『貌』：「貌 I」～「貌 VII」

コレクション展Ⅱ　平成 30 年６月 30 日(土)～10 月 14 日(日)

酒井三良と日本画の名品：酒井三良「村芝居」、池田遙邨「大漁」

型染の魅力：柚木沙弥郎「人びと」、伊砂利彦「海に逝きし人々にささげる鎮魂歌」

現代の絵画―具象と抽象：田淵安一「花林朱径」、村上善男「卍町に釘打ち（参）」

追悼・保田春彦：「季節の残像 1」～「季節の残像 9」

近代の洋画：恩地孝四郎「静物(レモン)」、安井曾太郎「ターブルの上」

アメリカの美術：レジナルド・マーシュ「回転ブランコ」、ベン・シャーン「ラッキードラゴン」

ヤノベケンジ《ラッキードラゴン》・《サンチャイルド》：「ラッキードラゴン構想模型」

フランス美術の名品：コロー「ヴィル・ダヴレー林をぬけて　コロー家へ向かう池沿いの道」、ルノワール「帽子を被る女」

斎藤清の版画：「赤い花」、「凝視」

前川千帆の版画：「野外小品」、「第二野外小品」

コレクション展Ⅲ　平成 30 年 10 月 20 日(土)～12 月 24 日(月･祝)

河野・安齊コレクション：岸田劉生「白狗図」、小川芋銭「飲中八仙図」

大山忠作と室井東志生：大山忠作「0 先生」、室井東志生「白煌(楊貴妃に扮する玉三郎像)」

福島の木彫：橋本堅太郎「慈光」、西山勇三「希う」

アメリカの美術：ワイエス「松ぼっくり男爵」、野田英夫「牛乳ワゴン」

エルンスト『博物誌』： 版画集『博物誌』

ヤノベケンジ《ラッキードラゴン》・《サンチャイルド》：「ラッキードラゴン構想模型」

フランス美術の名品：モネ「ジヴェルニーの草原」、ゴーギャン「ブルターニュの子供」

斎藤清の版画：「ショップガール・パリ」、「セントラル公園、ニューヨーク」

追悼・浜田知明の版画：「初年兵哀歌(歩哨)」、「風景」

秀島由己男の版画：版画集 舊約聖書「詩篇」より

コレクション展Ⅳ　平成 31 年１月８日(火)～３月 10 日(日)

現代の日本画：朝倉摂「1960-6 月(内部への挑戦)」、横山操「黒い工場」

関根正二と近代の洋画:関根正二「真田吉之助夫婦像」、田口安男「波から焔へ-A-」

アメリカの美術:ジョン･スローン「五番街の批評家たち」、ベン･シャーン　版画集「ドレフュス事件」

フランス美術の名品：ドーミエ「日々の出来事(アクチュアリテ)」、ロダン「影の頭部」

斎藤清の版画：「会津の冬(1)」～「会津の冬(20)」

木口木版の魅力：日和崎尊夫　詩画集「卵」、柄澤齊　詩画集「迷宮の潭」

⑵　移動美術館

会　期　平成30年12月４日(火)～12日(水)
開催日数９日

分　野　絵画、版画、彫刻

展示数　23点

主　催　楢葉町 楢葉町教育委員会 福島県立美術館

会　場　楢葉町コミュニティセンター大会議室

観覧料　無料

観覧者数　231名

概　要

東日本大震災発生から４年後の平成27年、楢葉町は避難指示が解除された。当館では、被災地域復興支援として<移動美術館展>を提案し、同町でも地域活性化事業の一つとしてこれを受け入れた。

展覧会の内容は、同町の希望をもとに展示構成を図り、ロダン、マンズーら海外作家、佐藤忠良や舟越保武ら日本を代表する彫刻家、福島県にゆかりのある斎藤清や楢葉町出身の日本画家である永山十志夫の作品など23点を展示した。

関連事業

・ギャラリートーク

講師：伊藤　匡（当館専門員）

日時：平成30年12月９日（日）　11時～12時

参加者：20名

⑶　企画展

平成30年度は３回の企画展示を開催し、国内外の様々な文化を紹介した。

ア　長谷川利行展

(ｱ) 会期　平成30年３月24日(土)～４月22日(日)

開催日数26日（平成30年度19日）

(ｲ) 分野　絵画

(ｳ) 展示数　140点

(ｴ) 主催　福島県立美術館

協力　長谷川利行の会

(ｵ) 観覧料　一般･大学生1,000(800)円、

高校生600(500)円、小･中学生400(300)円

※(　)内は20名以上の団体料金

(ｶ) 観覧者数　2,666名（平成30年度）

(ｷ) 概要

伝説の洋画家、長谷川利行(はせかわ・としゆき1891－1940)。木賃宿をねぐらとし、友人知人の肖像を素早い筆さばきで描いては、その絵を売りつけ、金をせびる風来坊。しかし、対象の本質をわしづかみにする利行の作品は、近代日本絵画の到達した一つの極である。原色を多用しながら、水墨画の静けさすら感じさせる、長谷川利行の芸術を回顧する。

本展は、福島会場を立ち上がりに東京都、愛知県、福岡県、栃木県に巡回した。

(ｸ) 関連事業

・講演会「雑踏の美学」

講師：原田　光（本展監修者 元岩手県立美術館長）

日時：平成30年４月８日(日)

14時～15時30分　美術館講堂

参加者：70名

・ゲストトーク

講師：小林　真結（府中市美術館学芸員）

日時：平成30年３月24日(土)

14時～15時　企画展示室

参加者：51名

・担当学芸員によるギャラリートーク

講師：堀宜雄（当館専門学芸員）

日時：①平成30年３月25日(日) 14時～15時

②平成30年４月７日(土)　14時～15時

③平成30年４月13日(金) 14時～15時

企画展示室

参加者：①28名、②33名、③25名

・創作プログラム「自画像を描く～自分を見つめる～」

講師：齋藤　隆（画家）

日時：平成30年４月14日(土) 10時～15時 実習室

参加者：10名

・キッズ・プログラム

「ペタコロサッサ★★油絵ってたのしいね！」

講師：油井　瑞樹（画家）

日時：平成30年４月１日(日)

10時～15時　美術館実習室

参加者：７名

イ　ポーラ美術館コレクション
―モネ、ルノワールからピカソまで

(ｱ) 会期　平成30年４月28日(土)～６月24日(日)

開催日数51日

(ｲ) 分野　絵画、彫刻

(ｳ) 展示数　72点

(ｴ) 主催　ポーラ美術館コレクション福島展実行委員会

［構成：福島県立美術館・テレビユー福島・福島民報社・ラジオ福島］

公益財団法人ポーラ美術振興財団

ポーラ美術館

(ｵ) 観覧料　一般1,300円（1,100円）

大学・専門学校生1,100円（900円）

小・中・高校生650円（500円）

※(　)内は前売り料金または20名以上の団体料金

(ｶ) 観覧者数　53,447名

(ｷ) 概要

ポーラ美術館が誇る西洋美術のコレクションより、19世紀後半から20世紀まで、フランスを中心に活動した計20名の美術家たちの作品72点を紹介した。うつろいゆく光の表現を追求した印象派から、色彩の解放を目指したフォーヴィスム（野獣派）、造形の冒険を試みたキュビスム（立体派）まで、西洋近代美術の個性豊かな展開をたどる。ポーラ同美術館を代表するルノワールの《レースの帽子の少女》(県内初公開）をはじめ、モネ、ルノワール、ピカソの作品（各８点）が特に注目を集めた。

当館でのフランス近代美術展は、「フランス近代絵画のながれ」（2008年）以来10年振りとなる。印象派は県民のあいだでも特に人気が高いこともあり、観覧者数は５万人を超えた。

(ｸ) 関連事業

・講演会「1910 年代フランス　モネやピカソが生きた激動の時代」

講師：木島　俊介（ポーラ美術館長、展覧会監修）

日時：平成 30 年４月 28 日(土) 14 時～15 時 講堂

参加者：116 名

・担当学芸員によるギャラリートーク

講師：坂本　篤史（当館副主任学芸員）
（平成 30 年５月 11 日(金)、６月１日(金)）
橋本　恵里（当館学芸員）
（平成 30 年５月 25 日(金)、６月 15 日(金)）

日時：平成 30 年５月 11 日(金)、25 日(金)、
６月１日(金)、15 日(金)
各回 14 時～14 時 30 分　企画展示室

参加者：25 名、22 名、23 名、27 名

・まちなか美術講座　福島大学行政政策学類連携企画

a 演題「印象派画家たちの冒険：モネとセザンヌ」
講師：伊藤　匡（当館専門員）
日時：平成 30 年４月７日(土) 18 時 30 分～20 時

b 演題「ピカソー新しい視覚の誕生」
講師：荒木　康子（当館学芸課長）
日時：平成 30 年４月 21 日(土) 14 時～15 時 30 分

c 演題「市民生活の変化と絵画の中のモード」
講師：田村　奈保子(福島大学教授)
日時：平成 30 年５月 12 日(土) 18 時 30 分～20 時

d 演題「古典彫刻とルノワール」
講師：坂本　篤史（当館副主任学芸員）
日時：平成 30 年５月 19 日(土) 18 時 30 分～20 時

e 演題「前衛の舞台：モンマルトルとモンパルナス」
講師：橋本　恵里（当館学芸員）
日時：平成 30 年６月 16 日(土) 14 時～15 時 30 分

※すべて福島市アクティブシニアセンター・アオウゼで開催

・映画上映　フォーラム福島連携企画

a 作品名：「セザンヌと過ごした時間」
期間：平成 30 年４月 28 日(土)～５月 11 日(金)

b 作品名：「ゴッホ最期の手紙」
期間：平成 30 年５月５日(土)～18 日(金)

c 作品名：「ゴーギャン　タヒチ、楽園への旅」
期間：平成 30 年５月 12 日(土)～18 日(金)

※美術館学芸員によるレクチャー（映画上映後実施）
演題：「楽園幻想　ゴーガンが夢見た異国」
講師：橋本　恵里（当館学芸員）
日時：平成 30 年５月 13 日（日）11 時 20 分～12 時

d 作品名：「リュミエール！」
期間：平成 30 年５月 19 日(土)～25 日(金)

e 作品名：「ルノワール 陽だまりの裸婦」
期間：平成 30 年５月 26 日(土)～６月１日(金)

※すべてフォーラム福島で上映

・ワークショップ「名画で缶バッジをつくろう！」

日時：平成 30 年５月 11 日(金)、25 日(金)、
６月２日(土)＊各回２時間程度

講師：坂本　篤史（当館副主任学芸員）、橋本　恵里（当館学芸員）、大北　孝（当館主任学芸員）、白木　ゆう美（当館学芸員）

参加者：86 名　＊３回合わせて

・ワークショップ「美術館の庭で油絵を描こう」

日時：平成 30 年５月 20 日(日)、26 日(土)、
27 日(日)　＊３回連続

講師：後藤　學（画家、喜多方市美術館館長）

参加者：15 名

・ワークショップ「てんてん絵画体験！」

日時：平成 30 年６月 10 日(日)
＊午前午後１回ずつ

講師：白木　ゆう美（当館学芸員)、大北　孝（当館主任学芸員）

参加者：14 名　　＊２回合わせて

ウ　イラストレーター　安西水丸

(ｱ) 会期　平成 30 年７月７日(土)～９月２日(日)
開催日数 50 日

(ｲ) 分野　イラストレーター

(ｳ) 展示数　764 点（うち原画・版画 421 点）

(ｴ) 主催　福島県立美術館
監修　安西水丸事務所
協力　嵐山オフィス、村上事務所、和田誠事務所、東京イラストレーターズ・ソサエティ、SPACE YUI、クリエイションギャラリーG8（リクルートホールディングス）、福島県立図書館
企画協力　クレヴィス
後援　福島市、福島市教育委員会

(ｵ) 観覧料　一般・大学生 1,000(800)円、
高校生 600(500)円 小・中学生 400(300)円
※( )内は 20 名以上の団体料金

(ｶ) 観覧者数　8,125 名

(ｷ) 概要

安西水丸は、1970 年代より小説、漫画、絵本、エッセイや広告など多方面で確約したイラストレーターである。はじめ広告代理店や出版社に勤め、デザイン等の仕事をしながら、嵐山光三郎の勧めで『ガロ』に漫画を掲載、南房総での幼少期を題材とした『青の時代』が高い評価を受ける。独立後は、村上春樹をはじめとする本の装幀や、『がたん ごとん がたん ごとん』などの絵本、和田誠との二人展、広告や執筆活動など幅広く活躍した。「その人にしか描けない絵」を追求し、身近なものを独自の感性で表現した。展覧会では、「小さい頃よりずっと絵を描くことが好きだった」という安西の幼少期から晩年に至るまでの足跡を、原画と資料あわせて 700 点以上により紹介した。

(ｸ) 関連事業
・講演会「安西水丸さんのこと」
講師：嵐山 光三郎（作家）× 南 伸坊（ｲﾗｽﾄﾚｰﾀｰ）
日時：平成30年7月14日(土)
14時～15時30分　美術館講堂
参加者：250名
・ワークショップ「美術館で見つけた『いいかんじ！』を描こう。」
講師：浅生 ハルミン（イラストレーター・エッセイスト）
日時：平成30年8月4日(土) 10時～14時30分
美術館周辺及び実習室
参加者：16名
・美術館・図書館連携企画「アートなおはなしかい」
講師：福島県立図書館司書、福島県立美術館学芸員
日時：平成30年7月21日(土) 14時～15時30分
福島県立図書館会議室、福島県立美術館実習室・企画展示室
対象：５歳～小学生20名と保護者
参加者：23名
・美術館・図書館連携企画「ちいさなおはなしかいスペシャル」
講師：福島県立図書館司書
日時：平成30年7月12日(木)、８月９日(木)
10時30分～11時　企画展示室
対象：０～３歳ぐらいのお子さんと保護者
参加者：53名、19名
・担当学芸員によるギャラリートーク
講師：紺野　朋子（当館副主任学芸員）
日時：平成30年7月28日(土)、８月25日（土）
14時～15時　企画展示室
参加者：両日とも20名

エ 「土に挑む　―走泥社の作家たち―」

(ｱ) 会期　平成30年9月15日(土)～10月14日(日)
開催日数26日
(ｲ) 分野　工芸
(ｳ) 展示数　40点
(ｴ) 主催　福島県立美術館
(ｵ) 観覧料　一般･大学生600(500)円、
高校生　300(250)円 小･中学生200(150)円
※(　)内は20名以上の団体料金
(ｶ) 観覧者数　1,561名
(ｷ) 概要

走泥社（そうでいしゃ）は、戦後、日本の陶芸界に新風を巻き起こした前衛陶芸家集団。八木一夫(1918-1979)、山田光(1923-2001)、鈴木治(1926-2001)ら京都の若手陶芸家たちによって1948年に結成された。焼き物の伝統が根強い土地で、彼らは従来の枠組や形式にとらわれない“土”による新しい表現を模索し、器としての用途をもたない、造形性を追求したやきものを数多く生み出した。

この展覧会では、当館が所蔵する山田光、鈴木治作品の他、走泥社を牽引した八木一夫の作品を40点の作品により紹介した。工芸の企画展は約10年ぶりの開催であり、当館の工芸コレクションをまとめて紹介する機会となった。

(ｸ) 関連事業
・担当学芸員によるギャラリートーク
日時：平成30年9月22日(土) 14時～15時
講師：白木　ゆう美（当館学芸員）
参加者：15名
・創作プログラム「土とあそぼう！」
日時：平成30年10月6日(土) 13時30分～15時30分
講師:安藤 郁子(陶芸家､秋田公立美術大学准教授)
参加者：７名
・創作プログラム「土に触れる　こころに触れる」
日時：平成30年10月7日(日) 10時～12時
講師:安藤 郁子(陶芸家､秋田公立美術大学准教授)
参加者：10名
※展示室での小・中学生向けガイドの配布

オ　生誕130年・佐藤玄々（朝山）展

(ｱ) 会期　平成30年10月27日(土)～12月16日(日)
開催日数44日
(ｲ) 分野　彫刻
(ｳ) 展示数　103点
(ｴ) 主催　福島県立美術館､読売新聞社､美術館連絡協議会
協賛　ライオン､大日本印刷､損害保険ジャパン日本興亜
協力　日本通運
助成　一般財団法人地域創造､公益財団法人ポーラ美術振興財団
(ｵ) 観覧料　一般･大学生1,000(800)円、
高校生600(500)円 小･中学生400(300)円
※(　)内は20名以上の団体料金
(ｶ) 観覧者数　5,230名
(ｷ) 概要

福島県相馬市出身で､大正期から昭和戦後期に活躍した木彫作家・佐藤玄々（朝山）の大規模回顧展。県内でははじめての開催となる｡近代彫刻史は近年見直しが進んでいる分野であり､木彫の代表的作家である玄々をあらためて美術史の中に位置づけるものである。作家を生み出した地域性にも着目、相馬市・南相馬市等と協力して調査研究をすすめ､地元の文化資源の掘り起こしをはかった。

佐藤玄々の作品100点余を効果的に展示することができ、「天女像」の3D映像展示、参考史料等も多数紹介できた。木彫のワークショップ、国際シンポジウムの開催を合わせて、多方面からの参加があった。

県内外での反響は大きく、雑誌、テレビ等で取り上げられることで話題性を高めることができた｡来館者アンケート結果によると、「たいへんよい」「よい」を合わせて98%を超えた。

(ｸ) 関連事業

・国際シンポジウム「佐藤朝山とパリ」

日時：平成 30 年 11 月 23 日(金) 10 時 30 分～17 時

会場：美術館講堂

パネリスト：アレッサンドロ・ガッリッキオ
(ポンピドーセンター研究員)
アメリー・シミエ(ブールデル美術館長)
田中　修二（大分大学教授）
藤井　明
(小平市平櫛田中彫刻美術館学芸員)
増渕　鏡子（当館専門学芸員）

司会：坂本　篤史（当館副主任学芸員）

参加者：100 名

・担当学芸員によるギャラリートーク

講師：①増渕　鏡子（当館専門学芸員）
②坂本　篤史（当館副主任学芸員）

日時：①平成 30 年 11 月 10 日(土) 14 時～15 時
②平成 30 年 12 月 1 日(土) 14 時～15 時

参加者：①20 名、②20 名

カ　Gallery F 2019　コレクション再発見

①　アートカード★チャレンジ

②　福陽美術会 100 年

(ｱ) 会期　平成 31 年２月９日(土)～３月 10 日(日)
開催日数 26 日

(ｲ) 分野　①絵画、版画、立体　②絵画、資料

(ｳ) 展示数　①46 点　②70 点（資料類を含む）

(ｴ) 主催　被災地からの発信・心の復興支援事業実行委員会

助成　平成 30 年度文化庁 地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業

(ｵ) 観覧料　無料

(ｶ) 観覧者数　1,973 名

(ｷ) 概要

「Gallery f」とは、当館のコレクションの中から、今まで紹介できなかった作品や新収蔵・寄託作品を取り上げ、あるいはテーマを絞って掘り下げる小さな展覧会を意味する。３回目の今年は日本画と、アートカードを使ったコレクション再発見の試み。

①「アートカード★チャレンジ」では、福島県立福島東高等学校の生徒たちが、鑑賞教材アートカードを使って考えた「愛のかたちと家族のかたち」展を、実際に当館のコレクションを展示して再現した。

②「福陽美術会 100 年」では、1919(大正 8)年に福島出身の日本画家が結集した福陽美術会という団体について、その魅力と特色を、資料を含め約 70 点により紹介した。

(ｸ) 関連事業

・担当学芸員によるギャラリートーク

講師：堀　宜雄（当館専門学芸員）

日時：平成 31 年２月 10 日(日) 14 時～15 時
企画展示室

参加者：15 名

・福島県立福島東高等学校生徒によるギャラリートーク

講師：福島県立福島東高等学校美術部

日時：平成 31 年２月 24 日(日) 14 時～15 時
企画展示室

参加者：20 名

・ギャラリー対談「東北の日本画家群像－秋田と福島を中心に－」

講師：山本　丈志（秋田県文化振興課学芸員）
堀　宜雄（当館専門学芸員）

日時：平成 31 年３月２日(土) 14 時～15 時
企画展示室

参加者：30 名

・創作プログラム「すきなもので自分の顔をかいてみよう！」

講師：坂内　直美（画家、女子美術大学芸術学部美術学科洋画科専攻助手）

日時：平成 31 年３月３日(日) 10 時 30 分～15 時
実習室

参加者：10 名

キ　東日本大震災復興祈念　伊藤若冲展

(ｱ) 会期　平成 31 年３月 26 日(火)
～令和元年５月６日(月・祝)
開催日数 38 日（30 年度６日）

(ｲ) 分野　絵画、版画、資料

(ｳ) 展示数　111 点

(ｴ) 主催　東日本大震災復興祈念「伊藤若冲展」実行委員会
[構成：福島県、福島県教育委員会、福島県立美術館、福島民友新聞社、福島中央テレビ]

(ｵ) 観覧料　一般・大学生 1,500(1,300)円、
学生 1,100(900)円、高校生以下無料
※(　)内は 20 名以上の団体料金

(ｶ) 観覧者数　9,529 名（平成 30 年度）

(ｷ) 概要

東日本大震災復興祈念と銘打って開催される、伊藤若冲の回顧展。本展は、京都国立博物館で「伊藤若冲展」を企画した狩野博幸氏の監修により、重要文化財の『連地図』、『果蔬素涅槃図』を始め、水墨画を中心とした百点以上の作品で構成する。若冲作品が最も早い使用例とされる、プルシァン・ブルー(紺青)の絵具(国重文)も参考展示する。

４　調査研究事業

調査研究は美術館活動の基礎をなし、また広く県民に対して美術の情報センター機能を果たすためにデータ集積が欠かせない。県内外の美術家や作品の調査、教育普及、保存、展示等の調査を継続的に実施している。

平成30年度は県内の美術品調査と､県内出身作家やゆかりの作家、収蔵作家（長谷川利行、山田光、鈴木治、佐藤玄々、勝田蕉琴、荻生天泉、坂内青嵐、太田秋民、湯田玉水、酒井三良、角田磐谷、酒井白澄、須田珙中、木下春、猪巻清明、大平華泉、石川良風、大山忠作等）の調査を重点的に行った。

５　普及事業

美術をより深く知る喜びを得る機会を提供する事業として、さまざまな講座を開催している。また、つくる楽しみを経験する契機として、各種の実技講座や、学校と連携しての出張講座等を行っている。

⑴　館内解説

学校や公民館その他の団体での鑑賞者のために、鑑賞前に芸員が美術館の概要、鑑賞マナー、代表的収蔵作品の解説、常設展示や企画展示の概要等のガイダンスを行っている。

団体総数は144団体4,527人である。そのうち解説を行ったのは61団体2,592人である。

⑵　鑑賞講座

館長講座　「古典に帰れ―西洋美術の巨匠たち―　～ルネサンスからロマン派まで～」

第１回「ルネサンス(1)先駆者ジョットと初期ルネサンス」
平成30年５月19日(土)　　参加者数：42名

第２回「ルネサンス(2)前半 レオナルド､ラファエロ､ミケランジェロ」
平成30年７月21日(土)　　参加者数：36名

第３回「ルネサンス(2)後半 レオナルド､ラファエロ､ミケランジェロ」
平成30年９月15日(土)　　参加者数：30名

第４回「ルネサンス(3)ジョルジョーネ、ティツィアーノ、ティントレット、デューラー」
平成30年11月17日(土)　　参加者数:27名

第５回「バロック(1)カラヴァッジオ、ルーベンス、ヴェラスケス」
平成31年１月19日(土)　　参加者数：27名

第６回「バロック(2)レンブラント、フェルメール」
平成31年３月９日(土)　　参加者数：42名

⑶　創作プログラム

実技教室は、広く県民各層の美術に関する関心をふまえ、美術の創作と鑑賞の一助とする目的で、子どもから大人まで幅広い対象に応じたプログラムを実施している。

ア　ペタコロサッサ★★油絵って楽しいね！」
平成30年４月１日(日)
・講師：油井　瑞樹（画家）
・参加者数：７名

イ　「自画像を描く～自分をみつめる～」
平成30年４月14日(土)
・講師：齋藤　隆（画家、当館収蔵作家）
・参加者数：15名

ウ　「バードウォッチング＆巣箱をつくろう！」
平成30年５月５日(土)
・講師：杉浦　裕志（とりにとりくむ会社）
・参加者数：８組19名

エ　「名画で缶バッジをつくろう！」
平成30年５月11日(金)、25日(金)、６月２日(土)
＊各回２時間程度
・講師：坂本　篤史、橋本　恵里、大北　孝、白木　ゆう美　（当館学芸員）
・参加者数：86名　＊３回合わせて

オ　「美術館の庭で油絵を描こう」
平成30年５月20日(日)、26日(土)、27日(日)
＊３回連続
・講師：後藤　學（画家、喜多方市美術館館長）
・参加者数：15名

カ　「てんてん絵画体験！」
平成30年６月10日(日)　＊午前午後１回ずつ
・講師：白木　ゆう美、大北　孝（当館学芸員）
・参加者数：14名　＊２回合わせて

キ　「型絵をつくって版画にしよう」
平成30年７月29日(日)
・講師：海老塚　耕一（多摩美術大学教授）
・参加者数：21名

ク　「美術館で見つけた『いい感じ！』を描こう。」
平成30年８月４日(土)
・講師：浅生　ハルミン（イラストレーター）
・参加者数：16名

ケ　「土とあそぼう！」
平成30年10月６日(土)
・講師：安藤　郁子（秋田公立美術大学准教授）
・参加者数：７名

コ　「土に触れる　こころに触れる」
平成30年10月７日(日)
・講師：安藤　郁子（秋田公立美術大学准教授）
・参加者数：10名

サ　「木彫の鑑賞と制作～佐藤玄々の動物彫刻をたよりに」
平成30年11月４日(日)、11日(日)、18日(日)、25日(日)　＊４回連続
・講師：黒沼　令（郡山女子短期大学講師）
・参加者数：12名

シ　「手のりの動物をつくろう」

平成 30 年 12 月２日(日)

・講師：大北　孝、白木　ゆう美（当館学芸員）

・参加者数：２名

ス　「自分だけの布をデザインしてプリントしよ１う」

平成 30 年 12 月 16 日(日)

・講師：坂内　まゆ子（テキスタイル作家）

・参加者数：４組９名

セ　「すきなもので自分の顔をかいてみよう！」

平成 31 年３月３日(日)

・講師：坂内　直美（画家、女子美術大学芸術学部美術学科洋画科専攻助手）

・参加者数：10 名

⑷　美術館・学校教育連携事業

ア　学校連携共同ワークショップ

学校からの要望をもとに平成 15 年度より開催する連携事業。こどもたちが作家と触れ合う生の機会として、作家・学校・美術館の共同による創作活動を中心にした「出張ワークショップ」を開催している。この事業により相互の協力関係を密にし、新鮮な体験を通してこどもたちの美術や美術館への関心を高めるとともに、通常は美術館を利用しにくい地域へも文化事業の還元をはかる。

平成 30 年度は、小学校・中学校・適応指導教室合わせて４校（参加者延べ 115 名）で開催した。ワークショップ作品は平成 30 年 12 月 22 日(土)～24 日(月・祝)/平成 31 年１月８日(火)～20 日(日)の期間、当館企画展示室Ｂにて活動中のスナップ写真とあわせて展示した。詳細は以下のとおり。

㈠　作家：三浦　麻梨乃（銅版画家）

プログラム：版画でつづる「ささやかな幸せ」

内容：自分の好きなもの、大切なものをモチーフとして、日々の出来事をドライポイントの技法で表現した。

開催校・人数

会津若松市立第一中学校（美術部）

平成 30 年 10 月８日(月・祝)　７名

会津若松市立第一中学校（美術部）

平成 30 年 11 月 24 日(土)　　10 名

会津若松市立第二中学校（美術部）

平成 30 年９月 26 日(水)　　15 名

会津若松市立第二中学校（美術部）

平成 30 年 11 月 26 日(月)　　14 名

二本松市立渋川小学校（４年生)

平成 30 年 10 月５日(金)　　18 名

二本松市立渋川小学校（４年生)

平成 30 年 11 月 27 日(火)　　17 名

㈡　作家：小原　風子（画家・絵本作家）

「木の実くん絵本」をつくろう！

「木の実くんコマドリアニメ」をつくろう！

内容：木の実に顔を描いて木の実人形をつくり、物語を膨らませながら写真を撮影する。撮った写真で絵本やコマドリアニメを制作した。

開催校・人数

福島市教育委員会教育研修課

（ふれあい教室通級生）

平成 30 年 10 月 18 日(木)　６名

福島市教育委員会教育研修課

（ふれあい教室通級生）

平成 30 年 10 月 23 日(火)　８名

福島市教育委員会教育研修課

（ふれあい教室通級生）

平成 30 年 10 月 26 日(金)　８名

二本松市立渋川小学校（１年生）

平成 30 年 11 月 15 日(木)　12 名

イ　先生と考える美術館ミーティング

小学校図画工作、中学校・高等学校美術の鑑賞指導について講座を開催する福島県教育センターと連携しながら、学校における美術館の活用方法を考える。平成 30 年度も昨年度に引き続き、前期(福島県教育センター)後期(県立美術館)の２回に分けて開催した。

日時：前期　平成30年８月17日(金)13時～14時５分

講義・演習「学校と美術館の連携活動についてⅠ」

大北　孝(当館学芸員)

日時：後期　平成30年10月25日(木)10時～15時45分

講義・演習「学校と美術館の連携活動についてⅡ」

演習「鑑賞用教材を活用した鑑賞活動Ⅰ・Ⅱ」

橋本　淳也（福島県教育センター指導主事）、

大北　孝・白木　ゆう美（当館学芸員）

参加者：小学校教諭２名、中学校教諭２名、

高等学校教諭５名　合計９名

⑸　美術館への年賀状展

県内の小中高校生から寄せられた手作り年賀状を全てエントランスホールに展示した。

会期：平成 31 年１月 12 日(土)～31 日(木)

応募総数：469 通　　観覧者数：約 610 名

⑹　博物館実習

学芸員資格取得のため実習を希望する大学生を受入れ、カリキュラムを組んで指導している。

日時：平成 30 年８月 21 日(火)～26 日(日)

受講者数：４名

⑺　友の会、協力会との連携事業

ア　福島県立美術館友の会　通常総会の開催

日時：平成 30 年５月 20 日(日)　美術館講義室

参加者：18 名　伊藤　匡（当館専門員）参加

イ　ポーラコレクション展ボランティア

友の会有志を中心とするメンバーが､会期中の土日、荷物一時預かり及び観光紹介のボランティア活動を行った。

参加者：会期中の土日 13 回　参加者延べ 72 名

ウ　ワークショップマート　～ものづくりの庭～

<NPO 法人福島県立美術館協力会との共催>

漆作家や自家焙煎珈琲店、綿花農家など様々な異業種事業者が当館収蔵作品をテーマに「もの作りワークショップ」を美術館庭園にテントを設置した。当日、友の会有志が、参加者への案内、無料観覧日の美術館常設展示の紹介等のボランティア活動を行った。

日時：平成30年９月17日(月)

10時～15時　美術館庭園

参加者：約 1,500 名

エ　友の会研修旅行

日時：平成 30 年 10 月 13 日(土)

友の会研修旅行：岩手県立美術館、深沢紅子野の花美術館、花巻市宮沢賢治記念館

酒井　哲朗（名誉館長）、早川　博明（館長）、伊藤　匡（専門員）ほか　　参加者数 45 名

オ　友の会実技講座「ドライポイントで表現する」

講師：大北　孝（当館学芸員）

日時：平成30年10月20日(土)　実習室

参加者：９名

カ　アート　チャリティ　バザー

友の会会員や美術館関係者が美術工芸品､美術図書、図録、ミュージアムグッズなどを持ち寄り、安い価格で販売する。収益金によって、ポータブル・マイクセットを購入して、美術館に寄付した。

日時：平成30年12月２日(日)　９時30分～13時

場所：美術館エントランスホール

参加者：約 200 名

キ　ミュージアム・コンサート「チェロで奏でるクラシック＆スクリーン･ミュージック」

<NPO 法人福島県立美術館協力会、福島県立美術館友の会との共催>

日時：平成 31 年３月３日(日)　14 時～15 時 30 分

場所：美術館エントランスホール

演奏:斎藤　静(チェロ)、冨田　一夫(キーボード)、中川　英治（ベース)、

参加者：約 200 名

ク　触って話して、見て楽しむ美術鑑賞ワークショップ「佐藤玄々の動物たちを楽しもう」

<NPO 法人福島県立美術館協力会との共催>

福島の彫刻家・佐藤玄々の動物彫刻を取り上げ、視覚障がい者の方と晴眼者の方と一緒に作品鑑賞をした。様々な彫刻の素材(木、ブロンズなど)に触れる、木を彫る際の音を聞く、匂いを嗅ぐ、のみ跡に触れるなどした。その後、玄々作品に実際に触れながら、みんなで話しながら作品を楽しんだ。

日時：平成 30 年 11 月３日(土・祝)

10 時 30 分～12 時、14 時～15 時 30 分

場所：実習室、企画展示室

講師：宮坂　慎司（筑波大学芸術系助教）

協力：半田　こづえ（明治学院大学非常勤講師）

真下　弥生（ルーテル学院大学非常勤講師）

参加者：午前/４名　午後/４名

ケ　アートカード『ぽけっとアート』貸出

平成29年４月から当館所蔵作品80点をカード形にした鑑賞補助教材『ぽけっとアート』の貸出をはじめた。

小学校、中学校、高校、その他教育関係機関を含め貸出総数 105 か所、489 セット

⑻　その他の事業

ア　福島県立図書館との連携事業「アートなおはなし会」「がたん ごとん で でかけよう」

幼稚園児・小学生とその保護者を対象にした、図書館の「よみきかせ」と美術館展示室及び実習室の「鑑賞と工作のワークショップ」

日時：平成 30 年７月 21 日(土)

場所：福島県立図書館、福島県立美術館

参加者：23 名

イ　「中学生ドリームアップ事業」職場体験活動

平成 30 年７月３日(火)～６日(金)

福島市立福島第四中学校　２年生　１名

福島市立岳陽中学校　２年生　３名

福島市立北信中学校　２年生　１名

福島市立西根中学校　２年生　２名

福島市立信夫中学校　２年生　３名

ウ　委員等

・いわき市立美術館収集評価委員(荒木　康子学芸課長)

・「新しい AIZU の美術展」選考委員（荒木　康子学芸課長）

・郡山市立美術館協議会委員（荒木　康子学芸課長）

・宇都宮美術館美術作品等収集評価委員（増渕　鏡子専門学芸員）

・相馬市史調査編さん委員（増渕　鏡子専門学芸員）

・須賀川市歴史文化基本構想策定委員（増渕　鏡子専門学芸員）

・須賀川市文化財保護審議会委員（増渕　鏡子専門学芸員）

・一般財団法人可月亭庭園美術館評議員（増渕　鏡子専門学芸員）

・福島市写真美術館運営委員（堀　宜雄専門学芸員）

・西会津国際芸術村公募展審査員（坂本　篤史副主任学芸員）

・第 37 回福島県高等学校文化祭写真展審査委員（坂本　篤史副主任学芸員）

エ　寄稿、発表、受賞等

・福島大学行政政策学類「博物館教育論」講師

平成 30 年４月８日(火)～７月 24 日(火)全 15 回（伊藤　匡専門員）

・可月亭庭園美術館オープン記念トークイベント「地域小美術館の役割について」

平成 30 年５月 19 日(土)（増渕　鏡子専門学芸員）

・鹿沼市立川上澄生美術館「斎藤清と川上澄生」展記念講演会
「斎藤清と川上澄生　それぞれの故郷」
平成30年10月27日(土)（荒木　康子学芸課長）
・喜多方市美術館トークイベント
「福島県内の美術をめぐる動き−大正時代」
平成30年11月4日(土)（増渕　鏡子専門学芸員）
・福島市アクティブシニアセンター・アオウゼ講座
「相馬出身！生誕130年佐藤玄々（朝山）展を前に」
平成30年10月12日(金)
（坂本　篤史副主任学芸員）
・第１回図工・美術セミナーin東北「実践 福島県立美術館アートカード」
平成30年12月1日(土)（白木　ゆう美学芸員）

第14節　福島県立博物館

1　概要

福島県立博物館は、資料収集・展示・調査研究・教育普及事業を中心に、内容の充実を図っている。平成30年度の博物館活動の概要は次のとおりである。

⑴　運営協議会

博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関である。

ア　運営協議会委員

学校教育及び社会教育の関係者並びに学識経験のある者10名に委嘱している。平成13年1月からは、委員の選考に一部公募方式を導入した。

学校教育	鈴木　充子	いわき市立勿来第一小学校長
	和田　節子	飯舘村立飯舘中学校長
	湯田　重哉	会津学鳳高等学校長
社会教育	杉　　昭重	公益財団法人福島県文化振興財団理事長
	遠藤　喜一	いわき市立中央公民館長
学識経験者	佐藤 彌右衛門	合資会社　大和川酒造店代表社員
	長尾　　修	博物館友の会幹事長
	秋月　順子	会津若松市教育委員会委員
	大友　靖子	福島県家庭教育インストラクター連絡協議会理事
公　募	山口　昴太郎	棚倉町文化団体連絡協議会長

イ　会議

第1回　平成30年9月19日（水）

議題　①副会長の選出について
②平成30年度事業計画について
③福島県立博物館第２期中期目標について

第2回　平成31年2月20日（木）

議題　①平成31年度事業計画について
②第二期中期目標（11月末現在）について
③福島県立博物館の使命の改正と第３期中期目標の設定について

2　資料収集事業

⑴　収集展示委員会

ア　収集展示委員会委員

館の収集資料、企画展の計画等についての審議のため、12人を委嘱している。

福島県立博物館収集展示委員会　委員名簿

氏　　名	役　職　名	備　考
有賀　祥隆	東北大学名誉教授・東京藝術大学客員教授	委員長
野沢　謙治	郡山女子大学短期大学部文化学科教授	副委員長
入間田宣夫	一関市博物館館長	委員
大石　雅之	岩手県立博物館研究協力員、東北大学総合学術博物館協力研究員	委員
岡田　清一	東北福祉大学大学院嘱託教授	委員
佐々木利和	北海道大学アイヌ・先住民研究センター客員教授	委員
原田　一敏	東京藝術大学大学美術館教授	委員
三上　喜孝	国立歴史民俗博物館准教授	委員
村川　友彦	福島県史学会会長、元福島県歴史資料館課長	委員
柳田　俊雄	東北大学名誉教授、東北大学総合学術博物館協力研究員	委員
玉川　一郎	福島県考古学会長	委員
北野　博司	東北芸術工科大学芸術学部歴史遺産学科 教授	委員

イ　会議

平成30年7月13日（金）

議題　①今後３年間の展示計画について
②令和元年度・令和２年度開催予定企画展等について
③購入資料について
④寄贈資料について
⑤その他

⑵　受贈・受託

ア　歴史資料

(ｱ) 受　贈

松平容保写真ほか	2件	個人
松平斬子筆観音図ほか	2件	個人
帝国在郷軍人会員証ほか	3件	個人
若松県記録	1件	個人
出征祈願写真	1件	個人

(ｲ) 受　託

戊辰戦争図巻　1件　個人
藤田剛夫妻結婚式写真　1件　個人
葦名盛氏書状　1件　個人
野矢常方和歌書　1件　個人
金戒光明寺図ほか　5件　個人
河原田家文書　1件　個人
福島県名士肖像録ほか　5件　個人

イ　美術資料

(ｱ) 受　贈

富士に海浜蒔絵でんぶ台　1件　個人
刀 銘陸奥會津臣藤原道辰ほか　2件　個人
角皿ほか　14件　個人
朱塗大盃　1件　個人
三.一一之記　1件　個人
文人画指導教書ほか　2件　個人
江戸時代農業絵図ほか　4件　個人
『百壽体』掛軸　1件　個人
詩書屏風(徐晏波筆)　1件　個人
美人図屏風ほか　3件　個人
詩書「海内存知己」ほか　9件　個人
佐竹永海「紫式部図」ほか　18件　個人

(ｲ) 受　託

石井柏亭筆「長尾柳涯像」　1件　個人
蒔絵太鼓形香炉　1件　個人
松平容保使用漆器ほか　2件　妙国寺

ウ　民俗資料

(ｱ) 受　贈

「鼠除御守護」札ほか　14件　個人
衣桁ほか　5件　個人
オシンメイサマ　1件　個人
年祝い記念お盆ほか　5件　個人
職人巻物(番匠巻物)ほか　3件　個人
小荒井豊山筆「製鋸図」　1件　個人
ゆかた染見本　1件　個人
行火ほか　5件　個人
上棟式の屋羽根　1件　個人
上棟式の屋羽根ほか　4件　個人
イロほか　3件　個人
婚礼用着物　1件　個人
鋸　2件　個人
郷土玩具類　1件
福島県ハイテクプラザ
会津若松技術支援センター
鋸ほか　40件　個人
餡へらほか　10件　個人
ニシン鉢　1件　個人
こづゆ椀　1件　個人

エ　考古資料

(ｱ) 受　贈

古墳時代胡服ほか　2件
中島村教育委員会

オ　自然資料

(ｱ) 受　贈

会津若松市湊町大字東田面字赤崎産植物化石
（上三寄層）　1件　個人
化石　1,079件　個人

カ　震災遺産

(ｱ) 受　贈

放射線量計測記録ほか　91件
いいたてまでいの会
放射能検査報告書(贈答用モモ)　1件　個人
旧エネルギー館関連資料　16件
東京電力ホールディングス株式会社
福島復興本社
看板(スクリーニング)ほか　5件
福島県立若松商業高等学校

(ｲ) 受　託

和太鼓　2件　個人

⑶　購　入

ア　歴史資料

戊辰戦争図　2幅

イ　民俗資料

民俗文化映像研究所　映像民俗学
シリーズ　DVD「日本の姿（第３・４集）」　1件
食品サンプル（こづゆ、棒鱈煮ほか）　4件

ウ　自然資料

現生貝類標本（アラフラオオニシほか）　7件

エ　図書資料

(ｱ) 一般図書

考古分野19冊、民俗分野20冊、歴史分野10冊、美術分野17冊、自然分野22冊、保存分野12冊、震災遺産31冊　計131冊

(ｲ) 定期刊行物

定期刊行物リスト　（平成31年3月31日現在）

No.	定期購読雑誌	分野
1	考古学研究	考古
2	宗教研究	民俗
3	民具研究	民俗
4	ナショナルジオグラフィック	共通
5	第四紀研究	自然
6	ヒストリア	歴史
7	考古学雑誌	考古
8	日本民俗学	民俗
9	信濃	共通
10	ミュゼ	共通

No.	定期購読雑誌	分野
11	史林	共通
12	史学雑誌	歴史
13	歴史評論	歴史
14	地方史研究	歴史
15	日本史研究	歴史
16	日本歴史	歴史
17	歴史学研究	歴史
18	美術手帳	美術
19	芸術新潮	美術
20	国華	美術
21	古代文化	考古
22	文化財発掘出土情報	考古
23	考古学ジャーナル	考古
24	季刊考古学	考古
25	日経サイエンス	自然
26	科学	自然
27	化学	保存科学
28	海洋	自然
29	地球	自然
30	月刊文化財	共通
31	たくさんのふしぎ	共通
32	ニュートン	共通

⑷ 制　作

震災遺産

震災遺産牧場牛舎柱（複製）　　　　１件

３　保存管理事業

⑴ 資料の収蔵

ア　博物館資料

資料受入れ時点における収蔵資料件数の、現在までの累計を示す。件数は概数であり、「一括」で受け入れた資料も１件と数える。

収蔵資料数（平成31年３月31日現在）

分野	件数	備　　　考
考古	20,232	土器・石器・金属器ほか
民俗	13,616	生活・生業・交通・信仰・芸能用具ほか
歴史	22,205	書籍・文書資料ほか
美術	6,626	絵画・彫刻・工芸資料ほか
自然	43,441	化石・岩石・鉱物ほか
震災遺産	155	被災遺物、文書資料、写真ほか
合計	106,275	

イ　図書および映像資料

⑺ 収蔵図書数　（平成31年３月31日現在）

考古分野：27,273冊　民俗分野：　4,909冊
歴史分野：10,684冊　美術分野：　4,430冊
自然分野：17,421冊　保存分野：　1,791冊
震災遺産：　　 63冊　そ の 他：55,594冊
合計：120,167冊

⑴ 収蔵映像資料数（平成31年３月31日現在）

収蔵映像資料総数：1,373点

⑵ 登録・整理

ア　資料管理システムの運用

平成25年度中に、それまでのサーバークライアント方式による資料管理システムに換えて、新たにASP方式の博物館資料管理専用システムである早稲田システム開発株式会社製 I.B. Museum SaaS を導入した。新システムは県教育委員会のFKS回線を介してインターネットに接続した端末パソコンより使用するものとし、それまで使用してきた資料管理システム専用LAN回線はFKS回線に一本化した。

新システムでは多数のデータの一括登録や一括修正が可能となり、また、経年的なランニングコストが削減された。更に、インターネット上での資料情報の外部公開が可能となった。

資料管理システム本来の目的である資料の登録および資料情報の外部公開に関しては運用が軌道に乗り、各種登録作業などがほぼ順調に進められるようになった。しかし運用が本格化するにつれ、使用中に発見される書式や登録方法の設定ミス等は引き続き散見され、これらはそのつど修正に努めており、自力で修正できないものについては内容を書き出しており、一括して早稲田システムに修正を依頼する必要がある。また、有償の改修が必要な一部項目の再構成については、予算措置を待って改修する予定である。

イ　資料の登録・資料情報の外部公開

整理が終了した資料のデータを資料管理システムに入力し、資料の登録を行った。表中の数値は登録済み資料の件数を示す。また、システムの資料情報外部公開機能を使用し、インターネット上で公開する所蔵資料情報を新たに追加した。前年度に続き平成30年度も収蔵資料の登録数および資料情報の外部公開ともに中期目標の評価指標を達成した。ただし各分野により達成度にばらつきが見られる。引き続き資料情報の外部公開において検索機能をより使いやすく改良することが望まれるが、システムがASP方式であるため実施可能な修正に制限があり、相当の工夫と時間が必要となる。

平成 30 年度収蔵指定文化財一覧　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（平成 31 年３月 31 日現在）

連番	指定者	指定種別	資料種類	指定番号	資料名	点数	単位	備　考
1	国	重要文化財	絵画	1903	絹本著色阿弥陀二十五菩薩来迎図	1	幅	館蔵
2	国	重要文化財	絵画	6	紙本著色蒲生氏郷像	1	幅	寄託
3	国	重要文化財	工芸品	2065	銅鉢	2	口	指定４口中の２口寄託
4	国	重要文化財	工芸品	2187	椿彫木彩漆笈	1	背	館蔵
5	国	重要文化財	工芸品	981	白銅三鈷杵	1	点	寄託
6	国	重要文化財	工芸品	2055	刺繍阿弥陀名号掛幅	1	幅	寄託
7	国	重要文化財	考古資料	352	会津大塚山古墳出土品	一括		寄託
8	福島県	重要文化財	絵画	7	絹本著色仏涅槃図･如意輪観音像･愛染明王像	3	幅	寄託
9	福島県	重要文化財	絵画	10	絹本著色松平楽翁像	1	幅	館蔵
10	福島県	重要文化財	絵画	25	絹本著色達磨図	1	幅	寄託
11	福島県	重要文化財	絵画	26	絹本墨画著色寒山図・絹本墨画著色拾得図	2	幅	寄託
12	福島県	重要文化財	絵画	9	絹本著色十六善神像	1	幅	寄託
13	福島県	重要文化財	絵画	3	紙本著色千葉妙見寺縁起	2	巻	寄託
14	福島県	重要文化財	絵画	13	絹本著色名体不離阿弥陀画像	1	幅	寄託
15	福島県	重要文化財	絵画	27	絹本著色熊野曼陀羅図	1	幅	寄託
16	福島県	重要文化財	絵画	28	絹本著色普賢菩薩像	1	幅	寄託
17	福島県	重要文化財	絵画	2	紙本著色両界種子曼荼羅	2	幅	寄託
18	福島県	重要文化財	絵画	6	絹本著色土津神社霊神画像	1	幅	指定９幅中の１幅寄託
19	福島県	重要文化財	彫刻	4	木造大日如来坐像	1	躯	寄託
20	福島県	重要文化財	彫刻	29	木造地蔵菩薩坐像	1	躯	寄託
21	福島県	重要文化財	彫刻	81	銅造聖観音菩薩立像（羽黒山湯上神社）	1	躯	寄託
22	福島県	重要文化財	彫刻	23	銅造聖観音菩薩立像（福聚寺）	1	躯	寄託
23	福島県	重要文化財	工芸品	58	銅鉢	1	口	寄託
24	福島県	重要文化財	工芸品	55	青磁牡丹唐草文大瓶	1	口	寄託
25	福島県	重要文化財	工芸品	18	鉄製釣燈籠	1	箇	寄託
26	福島県	重要文化財	工芸品	40	十一面観音版木	1	枚	寄託
27	福島県	重要文化財	工芸品	42	刺繍阿弥陀三尊来迎掛幅	1	幅	寄託
28	福島県	重要文化財	工芸品	53	大名家婚礼調度等	47	件	寄託
29	福島県	重要文化財	書跡	8	紙本墨書猪苗代兼載書八代集秀逸	1	巻	寄託
30	福島県	重要文化財	書跡	10	相馬家系図	1	巻	寄託
31	福島県	重要文化財	典籍	3	家世実紀	277	冊	館蔵
32	福島県	重要文化財	古文書	10	簗田家文書	一括		寄託
33	福島県	重要文化財	考古資料	35	流廃寺跡出土金銀象嵌鉄剣	1	口	寄託
34	福島県	重要文化財	考古資料	1	福島信夫山出土品	一括		館蔵
35	福島県	重要文化財	考古資料	14	金銅製双魚袋金具	2	枚	館蔵
36	福島県	重要文化財	考古資料	21	原山１号墳出土埴輪	一括		館蔵
37	福島県	重要文化財	考古資料	28	常世原田遺跡出土品	一括		館蔵
38	福島県	重要文化財	考古資料	2	田村山古墳出土品	一括		寄託
39	福島県	重要文化財	考古資料	46	相馬・双葉地方の弥生時代石器	一括		館蔵
40	福島県	重要文化財	考古資料	23	松野千光寺経塚出土品	一括		寄託
41	福島県	重要文化財	考古資料	20	五職神経塚出土銅製経筒　附　石製外容器　３口	3	口	寄託
42	福島県	重要文化財	考古資料	33	森北１号墳出土品	一括		寄託

連番	指定者	指定種別	資料種類	指定番号	資料名	点数	単位	備　考
43	福島県	重要文化財	考古資料	40	荒屋敷遺跡出土品	一括		寄託
44	福島県	重要文化財	歴史資料	4	絹本著色恵日寺絵図	1	幅	寄託
45	福島県	重要文化財	歴史資料	5	陸奥国会津城絵図	1	鋪	館蔵
46	福島県	重要文化財	歴史資料	15	絹本著色飯豊山山道絵図	1	巻	寄託
47	福島県	有形民俗文化財		16	上行合人形	368	点	寄託
48	福島県	有形民俗文化財		3	（宇内薬師堂）古絵馬	3	面	指定6面中の3面寄託
49	福島県	有形民俗文化財		31	旧修験高橋家所蔵修験資料	241	点	寄託
50	福島県	天然記念物	化石	63	パレオパラドキシア化石梁川標本	1	体	館蔵

登録資料数・資料情報の外部公開数　（平成 31 年３月 31 日現在）

資料類別	登録資料（平成 30 年度）	登録資料（累計）	資料情報の外部公開（平成 30 年度）	資料情報の外部公開（累計）
考古資料類	0	12,130	0	3,532
民俗資料類	219	14,470	1,003	4,408
歴史資料類	4,236	45,704	3,468	11,988
美術工芸品類	0	6,229	0	23
自然標本類	244	25,213	1,348	11,746
合計	4,699	103,746	5,819	31,697

ウ　ボランティア

博物館資料の整理のため、次の通り資料整理ボランティアを受け入れ、資料の整理を行った。

(ｱ) 自然資料整理

桑原　功　化石標本整理　16 日

星　総一郎　化石標本整理　16 日

竹谷　陽二郎　岩石・化石標本整理　５日

(ｲ) 古文書整理

古文書整理ボランティア登録者のうち９名が延べ 57 日参加し、本田信英家および坂内利子家文書の整理作業（表題・年代・法量などのデータ採取）を行った。終了したのは 235 点。参加者は五十嵐　晴日子、大堀　義子、小関　栄助、小檜山　裕二、榊原　源法、佐藤　敏子、鈴木　清二、馬場　純、星　弘明の諸氏。

(ｳ) 民俗資料整理

民俗資料整理ボランティアとして佐々木　長生を登録、月例の収蔵庫資料整理日および山口弥一郎調査資料の研究の資料整理日の作業に参加、資料の整理や情報提供の協力を得ている。

(3) 貸　出

ア　博物館資料

貸出資料一覧

資　料　名	貸　出　先	貸出期間	展　覧　会　名
松平定信像　１点	群馬県立歴史博物館	平成 30 年６月 26 日～9 月 25 日	企画展「すごいぞ！江戸の科学―時代を動かした地図・暦・和算の力―」
浦上玉堂「山林読書図」　１幅 浦上玉堂「野橋可立図」　１幅 浦上玉堂「青山禅琴図」　１幅	渋谷区立松濤美術館	平成 30 年７月１日～10 月 10 日	「涯テノ詩聲　詩人 吉増剛造展」
武井柯亭筆「御家訓」（当館受託資料）１幅	高知県立坂本龍馬記念館	平成 30 年７月７日～８月 21 日	企画展「大義と忠誠の戊辰戦争―会津・土佐・三春の幕末明治―」

資　料　名	貸　出　先	貸出期間	展　覧　会　名
白河之戦　１点 白河城下探索書(当館受託資料)　１点 白河官賊宿(当館受託資料)　１点 上小屋村絵図(当館受託資料)　１点 白河鹿島宮周辺図(当館受託資料)　２点 5月26日戦闘図(当館受託資料)　１点 暗号(5月19日から)(当館受託資料)　１点 暗号(6月24日付)(当館受託資料)　１点	白河集古苑	平成30年７月 ～10月	特別企画展「戊辰戦争と白河―武士と庶民、それぞれの戦いと慰霊―」
パレオパラドキシア梁川標本のうち 頭骨レプリカ　１点 下顎レプリカ　１点 左寛骨レプリカ　１点 右寛骨レプリカ　１点 左大腿骨レプリカ　１点 右大腿骨レプリカ　１点 歯牙レプリカ　22点	山形県立博物館	平成30年8月31日 ～12月14日	プライム企画展「ヤマガタダイカイギュウと人魚たち―1千万年、進化のドラマ―」
木造建築継ぎ手一式	個人	平成30年9月7日～8日	平成 30 年度「福島県もりの案内人要請講座」
白河市明戸遺跡出土品　69点	福島県文化財センター白河館	平成30年9月19日 ～12月17日	指定文化財展「白河市天王山遺跡の時代」
雑巾　３点 南郷のサシコ　１点 信玄袋　１点 風呂敷　１点 コギンキモノ(当館受託資料)　１点 コギンキモノ(当館受託資料)　１点 刺し子布(当館受託資料)　１点 刺し子布(当館受託資料)　１点 菱刺し着物(当館受託資料)　１点 サキオリジンバ(当館受託資料)　１点 サシコジバン(当館受託資料)　１点 アットゥシ(当館受託資料)　１点 カパラミプ(当館受託資料)　１点	小山市立博物館	平成30年10月10日 ～12月26日	企画展「糸と布をめぐる手しごとの旅」
穴田遺跡出土品(イノシシ形土製品)　1点	じょーもぴあ宮畑	平成30年11月22日 ～令和元年5月31日	特別展「福島氏の弥生遺跡」
編み組み細工 巾着袋　２点	個人	平成31年2月19日 ～3月11日	編み組み細工製作の調査研究(福島県ハイテクプラザ会津若松技術支援センターでの技術指導・支援のため)
連釈之大事(当館常設展借用資料)　１点	栃木県立博物館	平成31年3月12日 ～令和元年7月12日	企画展「下野の鎌倉街道―道を行き交う人と物―」
十二天図旧軸木(恵日寺旧蔵) 正徳５年銘　１点 正徳６年(二月上旬吉祥)銘　１点	磐梯町磐梯山慧日寺資料館	平成31年3月28日 ～令和元年12月4日	常設展示

イ　写真資料

総数：141件246点

考古：18件54点　民俗：７件25点

歴史：87件131点　美術：28件35点

⑷ 保存

収蔵資料を適切に保存するため、収蔵庫および展示室など主要箇所の保存環境の定期調査、新規収蔵資料の生物被害防除を実施している。

ア　保存管理

㈠ 保存環境調査

常設展示室・収蔵資料展示室・企画展示室、収蔵庫（一時、第１～第６収蔵庫）、エントランスホール、体験学習室、講堂、事務室、会議室、研究室、図書室、空調機械室など主要なスペースの保存環境を調査した。調査項目は、昆虫、空中浮遊菌、付着菌、空中浮遊塵埃数、化学汚染物質、温度、湿度、照度、紫外線強度である。調査期間は、２月１日～３月６日である。平成 30 年度は常設展示室（部門考古展示室）の展示ケースを部分改修したため、ケース改修後の化学汚染物質を検査するため、３月７日～14 日にかけて調査を実施した。

㈡ 生物被害防除

７月に１回、新収蔵資料などを対象にエキヒュームSを用いた文化財燻蒸を実施し、298 件燻蒸処理した。

４　展示事業

⑴ 常設展示

総合展示と部門展示からなる。総合展示は、原始から現代までの福島県の歴史を通観し、人々のくらしを時系列に沿って展示している。原始・古代・中世・近世・近現代・自然と人間の 6 つのテーマで構成される。部門展示は、テーマ性の高い専門的な展示であり、民俗・自然・考古・歴史美術の展示に分かれる。平成 21 年度から、常設展示室内においてテーマ展・ポイント展を実施している。

ア　テーマ展

常設展示室内において、特定のテーマを設定した小・中規模展示を「テーマ展」として実施した。平成 30 年度が 10 年目である。全８回実施。うち「野山の宝　化石・鉱物展　―友の会化石・鉱物探検隊第２回成果展―」は友の会との共催事業として、「華麗なる島―会津出身の文化人・西川満が愛した台湾、繋いだ日本」は県立博物館と国立台湾文学館の主催事業として、「詩人が見つけたふくしま―吉増剛造が出会った会津、漆」は社会福祉法人安積愛育園 はじまりの美術館と埴谷･島尾記念文学資料館との共催事業としてそれぞれ実施した。

㈠「ふるさとの考古資料７【楢葉町歴史資料館】移動展」
（部門:考古展示室)前年度～平成30年５月20日(日))

㈡「祈りのふくしま２」（部門：歴史・美術展示室）
平成 30 年４月 28 日(土)～７月８日(日)

㈢「野山の宝　化石・鉱物展―友の会化石・鉱物探検隊第２回成果展―」（エントランス）
平成 30 年７月 10 日(火)～８月 19 日(日)

㈣「華麗なる島―会津出身の文化人・西川満が愛した台湾、繋いだ日本―」（部門：歴史・美術展示室）
平成 30 年７月 22 日(日)～８月 19 日(日)

㈤「うるわしのうるしのうつわ―土の中から―」
（部門：考古展示室）
平成 30 年８月４日(土)～次年度

㈥「詩人が見つけたふくしま―吉増剛造が出会った会津、漆」（部門：歴史・美術展示室）
平成 30 年 10 月 27 日(土)～12 月９日(日)

㈦「けんぱくの宝 2018―漆工芸名品選」
（部門：歴史・美術展示室）
平成 30 年 12 月 22 日(土)～平成 31 年２月３日(日)

㈧「託されたおもい 2018 寄贈・寄託の名品たち―会津漆器コレクション」（部門：歴史・美術展示室）
平成 31 年２月 16 日(土)～３月 31 日(日)

イ　ポイント展

常設展示室内において、特定資料の公開を目的とした小規模展示を「ポイント展」として実施した。平成 30 年度が 10 年目である。全 19 回実施。新収蔵・新発見の資料を紹介するポイント展として、「黒船来航を伝える農具」と「魚の化石展」を実施した。

㈠「戊辰戦争ピックアップ１－西郷頼母の戦略談」
（総合：近現代展示室）
平成 30 年４月３日(火)～６月１日(金)

㈡「築城 450 年　会津の向羽黒山城はどんな城？」
（総合：中世展示室）
平成 30 年４月３日(火)～９月 30 日(日)

㈢「日本遺産！　会津三十三観音と御詠歌」
（総合：近世展示室）
平成 30 年４月３日(火)～平成 31 年３月 31 日(日)

㈣「日本遺産！　安積疏水ができるまで」
（総合：近現代展　示室）
平成 30 年４月３日(火)～平成 31 年３月 31 日(日)

㈤「ドウってどう使うの？　魚とりの道具たち」
（部門：民俗展示室）
平成 30 年４月 13 日(金)～６月 20 日(水)

㈥「戊辰戦争ピックアップ２―磐城の戦い―」
（総合：近現代展示室）
平成 30 年４月 28 日(土)～６月１日(金)

㈦「ジオパーク関連展覧会」（エントランス）
平成 30 年４月 28 日(土)～６月３日(日)

㈧「戊辰戦争ピックアップ３―戦場のうわさ話―」
（総合：近現代展示室）
平成 30 年６月２日(土)～７月６日(金)

㈨「染型紙の世界」（部門：民俗展示室）
平成 30 年６月 22 日(金)～８月 29 日(水)

㈩「只見線のある風景－美しき奥会津・星賢孝写真展」
（ 展示ロビー）
平成 30 年７月 18 日(水)～８月 19 日(日)

(サ)「戊辰戦争ピックアップ４―会津の戦い―」
（総合：近現代展示室）
平成 30 年７月７日(土)～８月 10 日(金)

(シ)「２度眠ったパレオパラドキシア」（展示ロビー）
平成30年７月29日(日)～９月２日(日)

(ス)「戊辰戦争ピックアップ５―若松城下の戦い―」（総合：近現代展示室）
平成30年８月11日(土)～９月14日(金)

(セ)「黒船来航を伝える農具」（部門：民俗展示室）
平成30年８月31日(金)～10月24日(水)

(ソ)「福島のこけし・東北のこけし」（部門：民俗展示室）
平成30年10月26日(金)～12月12日(水)

(タ)「魚の化石展」（展示ロビー）
平成30年10月27日(土)～12月２日(日)

(チ)「囲炉裏のまわりの道具たち」（部門：民俗展示室）
平成30年12月14日(金)～平成31年２月28日(木)

(ツ)「会津が生んだ知の巨人・山口弥一郎―災害と民俗―」（企画展示室）
平成31年２月16日(土)～次年度

(テ)「フタバスズキリュウ時代の貝」（部門：自然展示室）
平成31年３月30日(土)～次年度

(2) 企画展示

歴史・美術・民俗・考古・自然の各分野が単独もしくは協力し企画した館のオリジナルなテーマに基づいた展示を中心に、会期を設定して開催している。平成30年度は、４本の企画展示を開催した。福島県立博物館は季節毎に年間の展示のコンセプトを設定している。春は、会津をテーマにした展示をとおして会津の魅力を再発見できるような内容。夏は、学校の夏休みの時期に、子どもたちが興味を持ち、家族や親子で楽しめる内容。秋は、福島をテーマにした展示をとおして県民が広く文化や歴史に親しむ機会を提供する内容。

ア　春の企画展「匠のふるさと会津―技と祈りの建築文化誌―」

(ア) 会期　平成30年４月28日(土)～６月24日(日)
開館日数50日間

(イ) 会場　企画展示室

(ウ) 入館者数　7,047人

(エ) 担当学芸員　民俗分野　内山　大介

(オ) 趣旨

冬は雪に閉ざされる会津地方では、厩中門造りとよばれる曲屋の民家、一人前の職人のみが伝授された巻物、火難除けの呪物や儀礼など、住まいに関する特有の文化が育まれてきた。また職人の技を支えた道具づくりの鍛冶技術も大きな発展を遂げ、鋸鍛冶の中屋や刃物鍛冶の重房一門などの名工を多く輩出している。さらに農閑期に会津から他所へ出ていく「会津茅手」、逆に越後から会津にやって来る「越後大工」のような出稼ぎ職人が生まれ、彼らによって多様な文化も伝えられた。本企画展では、住まいや暮らしを支えた職人に着目し、その技と道具、儀礼や信仰などを通じて会津の建築文化を掘り下げる。またそれぞれの専門家による講演会や古建築の見学会ツアーを開催し、地域の身近な文化への理解を深めてもらう。

(カ) 展示構成

出品点数168件

Ⅰ．木を伐り、家をたてる

山の神の祭祀者ヤマサキや木の伐り出し・加工を職分とするモトヤマ、木を刻み組む番匠（大工）まで、会津に特徴ある建築職人の姿。（主な展示資料：ヤマサキの御幣・木挽き鋸・大工道具・継手仕口模型）

Ⅱ．神に祈り、家をまもる

上棟式を中心に家を築き守るための儀礼と信仰を紹介。（上主な展示資料：棟式の矢羽根・大工の巻物、火伏せの呪物、家相図・上棟式の祭壇模型）

Ⅲ．会津名工列伝

大工や鍛冶屋など江戸時代から名の知られた会津の名工たちを追う。（主な展示資料：宮大工・山岸喜右衛門関係資料・鋸鍛冶の「中屋」や刃物鍛冶重房一門関係資料）

Ⅳ．屋根葺き集団 会津茅手

県内から関東にかけて多くの茅屋根を葺いてきた会津茅手の功績を振り返る。（主な展示資料：出稼ぎの鑑札・屋根葺き道具・屋根葺き巻物）

Ⅴ．越後大工の活躍と会津

会津の民家や寺社などの名建築を生みだした越後大工の足跡をたどる。（主な展示資料：渡部組御用留・間瀬大工関係資料・大宝院不動堂の棟札）

(キ) 関連事業

・記念講演会「奥会津地方の建築儀礼と職人巻物」
日時　平成30年５月20日(日)13時30分～15時
場所　福島県立博物館　講堂
講師　宮内　貴久（お茶の水女子大学教授）
来場者数　80人

・記念講演会「越後大工の会津への旅立ち」
日時　平成30年６月16日(土)13時30分～15時
場所　福島県立博物館　講堂
講師　中村　義隆（新潟郷土史研究会・新潟文化財鑑賞会顧問）
来場者数　88人

・バスツアー「知られざる会津の名建築をたどる」
日時　平成30年５月12日(土)
場所　自在院（会津若松市）・旭長岡観音堂（会津美里町）・旧五十嵐家住宅（会津坂下町）など
講師　小沢　弘道（福島県民俗学会副会長）
参加者数　22名

・体験イベント「親子ものづくり木工体験」
日時　平成30年６月２日(土)10時～16時
場所　福島県立博物館　実習室
講師　会津若松市建築業組合
内容　かんながけ実演、時計づくり、木端で小物づくり、かんな屑の匂い袋つくり
来場者数　130人

・展示解説会

日時　平成30年４月28日(土)・29日(日)、５月６日(日)・13日(日)・26日(土)、６月24日(日)　いずれも13時30分～

来場者数　88人

(ｸ) 成果と課題

・テーマと内容

本企画展は会津の職人巻物や火伏せの奉納習俗など、これまで当館が調査研究や展示を通じて蓄積してきた個別のテーマを建築全体のなかでとらえ直すとともに、大工道具づくりの鍛冶職人の技術や近世以来の職人の出稼ぎといった社会的なテーマを新たに掘り起こし、会津の建築文化を総体として提示した内容であった。テーマとしてはやや固い内容であったが、鍛冶職人の文化や越後大工の会津への出稼ぎなどは初公開資料がほとんどで、初めて知ったという来館者からの声が多数あった。

・来場者の内訳と推移

目標は6,000人であったが、来場者数は7,047人、行事等を含めた全体の利用者数は7,464人で、目標を上回った。春の修学旅行シーズンを反映して小中学生の来場が合計4,294人と多く、全体の約６割を占めたが、高校生以下の無料措置に加え、児童・生徒への積極的な展示室への誘導が功を奏した。また本企画展は年間パスポートが導入されて初めての企画展であった。４月１日から閉幕日までで339枚（会期中では222枚）を販売した。有料入館者全体の13%（268人）がパスポート購入者であり、複数回の来場者もみられパスポート導入は一定の効果を上げている。また来場者数の推移をみると、開幕から５月末の前半では来場者数は2,800人ほどであったが、６月に入ってから上昇率が上がり、６月中だけで約4,200人の来場があった。また６月の伸び方は、平日に大きく増えて週末は比較的落ち着くというパターンを繰り返した。いずれも６月の平日に多くの修学旅行生に訪れた結果であり、無料入館者の推移がそのまま入館者全体の推移に影響する結果となった。

・団体による見学と傾向

展示解説会とは別に、公民館や学校など12団体からの依頼を受けて11団体・合計289人への展示解説を行った。特に会津工業高校建築インテリア科や高等職業訓練校など、将来建築関係の職を目指す10代から20代の若年層が団体で来場したことは、展示内容の特色を反映する結果となった。普段の利用者として最も少ない年齢層だが、テーマを絞ったアプローチにより若年層の来館の促進も可能であることを示唆している。さらに介護支援センターからは車椅子の高齢者が来場したが、非常に熱心な観覧行動が印象的であった。民俗分野の展示は自身の経験や記憶を想起しながら観覧できる内容であり、介護施設等への博物館利用の促進にも可能性を感じさせる。また教育旅行シーズンにあたり学校団体も多く来場した。全263校が来場したが、その内訳は県内35%、県外65%であった。また県外の内訳は宮城が67%、新潟が19%と多い。これまで教育旅行は宮城が多いことは分かっていたが、それに次ぐのが新潟県であるが分かった。一方で、予約した学校の割合をみると宮城県の学校は予約して来場することが多いが、新潟県の学校は予約率が圧倒的に低く、これまで来館の実態が把握できていなかった。県内の内訳は会津32%、中通りは郡山を中心に県中が35%、福島市を中心に県北が23%となり、中通り南部と浜通りは非常に少ない。

・アンケートへの反応

春の行楽シーズンであり、アンケート回答者にも市外・県外からの来場者数が多かった。小中学生を中心に10代からの回答が目立ち、来館目的にも修学旅行を挙げる人が多かった。認知媒体としては従来通りポスターやチラシが多いものの、新聞広告や折込チラシ、新聞記事に多く取り上げられたことが功を奏した。一方でFacebookページは全11回更新し、展示内容の紹介を中心に告知を試みたが、認知媒体としてはあまり効果が現れなかった。自由記述では、会津の鍛冶屋の歴史や越後大工の出稼ぎなどについて、初めて知ったという地元の方々が多くみられた。また特に反響が大きかったのは展示室内で放映した「奥会津の元山と番匠」（当館製作）と「会津の鋸鍛冶」（県農林水産部製作）の映像で、貸出や購入を希望される方が多かった。当館製作の映像については販売して歳入予算に組み込めないか、今後の検討課題である。全体として、「とても満足」「まあ満足」を足した満足度は80%であった。関連行事については、総じて満足度は展示に比べて高い傾向にあった。特にバスツアーは参加無料だったこともあり予約が殺到し、参加した方の満足度も非常に高かった。参加者も申込できなかった方々からも、次回の開催を望む声が多数あがっている。

イ　夏の企画展「美しき刃たち―東京富士美術館と福島の名刀―」

(ｱ) 会期　平成30年７月13日(金)～８月19日(日)　開館日数34日間

(ｲ) 会場　福島県立博物館企画展示室

(ｳ) 主催　刀剣展実行委員会（福島県立博物館・福島民報社・福島テレビ）

企画協力　東京富士美術館

後援　福島県、福島県教育委員会、会津若松市、会津若松市教育委員会、会津若松市戊辰150周年記念事業実行委員会、公益財団法人日本美術刀剣保存協会、日本美術刀剣保存協会会津支部

(ｴ) 入館者数　27,281人

(ｵ) 担当学芸員　美術分野　川延　安直、小林　めぐみ、塚本　麻衣子

(ｶ) 趣旨

近年、若い世代からも強い関心を集めている刀剣。これまで、当館においてまとまった数の展示、紹介は行われておらず、本展では東京富士美術館の所蔵品を中心に刀剣の魅力を紹介した。同館が所蔵する平安・鎌倉時代から江戸時代までの優品 19 点、福島県内の資料館・博物館が収蔵する福島県ゆかりの刀剣、刀装具を加えた計 48 件を紹介。各種解説パネルにより、刀剣の美、見所、変遷を理解できる構成とし、関連事業として解説会、トークイベント等を開催、刀剣と福島県の関わりを掘り起こした。

(ｷ) 展示構成

a 東京富士美術館の名刀

b 福島県内の刀剣、刀装具、現代の刀剣、刀装具

【主な展示品】

東京富士美術館コレクションの刀剣、太刀「銘　一（福岡一文字）」（重要文化財）他、計 18 点

刀　「銘（葵紋）以南蠻鐵於武州江戸越前康継」（佐藤彦五郎新選組資料館蔵）

福島県内の刀剣・刀装具・甲冑　計 55 点（主な出品館：鶴ヶ城天守閣郷土博物館、南相馬市博物館、須賀川市立博物館、白河市歴史民俗資料館、三春町歴史民俗資料館、二本松市歴史資料館）

(ｸ) 関連事業

・テープカット
日時 平成 30 年７月 13 日(金) ９時 30 分～９時 45 分
会場：福島県立博物館エントランスホール

・展示解説会「刀剣展の見方・はじめの一歩（1）」
講師：鴨木　年泰（東京富士美術館学芸員）
　　　小林　めぐみ（福島県立博物館学芸員）
日時：平成 30 年７月 13 日(金) 10 時～11 時
会場：福島県立博物館 企画展示室

・展示解説会「刀剣展の見方・はじめの一歩（2）」
講師：鴨木　年泰（東京富士美術館学芸員）
　　　月山　貞伸（刀匠・月山日本刀鍛錬道場）
日時：平成 30 年８月 19 日(日)11 時 30 分～12 時 30 分
会場：福島県立博物館 企画展示室

・体験「鎧を着て見る刀剣展」
講師：YOROI 工房あいづのみなさん
日時：平成 30 年７月 21 日(土)13 時 30 分～、
　　　平成 30 年７月 29 日(日)13 時 30 分～
会場：福島県立博物館 エントランスホール、企画展示室

・居合実演
実演者：福島県県道連盟会津居合道部会のみなさん
日時：平成 30 年７月 15 日(日)11 時 30 分～12 時、13 時 15 分～13 時 45 分
　　　平成 30 年８月４日(土)11 時 30 分～12 時、13 時 15 分～13 時 45 分
　　　平成 30 年８月 18 日(土)11 時 30 分～12 時、13 時 15 分～13 時 45 分
会場：福島県立博物館 エントランスホール

・講演会「古刀再現－日本刀の心－」
講師：藤安　将平（刀匠　藤安将平鍛刀場）
日時：平成 30 年７月 15 日(日)14 時 30 分～15 時 30 分
会場：福島県立博物館 講堂

・講演会「ふくしまの刀剣」
講師：渡辺　明（日本美術刀剣保存協会会津支部長）
日時：平成 30 年７月 29 日(日)14 時 30 分～15 時 30 分
会場：福島県立博物館 講堂

・シンポジウム「ふくしま刀剣自慢」
講師：二上　文彦（南相馬市博物館学芸員）
　　　四家　久央（いわき市文化財保護審議会委員）
　　　吉田　　一（二本松市教育委員会主査）
　　　平田　禎文（三春町歴史民俗資料館副館長）
　　　管野　和恵（須賀川市立博物館学芸員）
　　　内野　豊大（白河市文化財課学芸員）
　　　中岡　進（若松城天守閣郷土博物館学芸員）
日時：平成 30 年８月４日（土）14 時～16 時
会場：福島県立博物館 講堂

(ｹ) 成果と課題

２万７千人を超える来場者を迎えることができた。折からの刀剣ブームもあり、若い世代の来場者が多かったが、夏休み期間中の開催であったため子ども連れの家族の来場も多かった。関連事業も盛況で、特に居合実演は８月 18 日に追加公演を行なった。

東京富士美術館のコレクションの平安時代から江戸時代までの優品の展示により、日本の刀剣の変遷を知ることができる展示となった。また、福島県内の資料館、博物館、個人から福島ゆかりの刀剣、刀装具を借用、展示したことで、県内に残る刀剣の価値を確認できた。また、県内在住の刀匠、鞘師らの作品も展示できたことで、刀剣の文化が現在も継承されていることを紹介できた。

さらに、県内在住の刀匠、日本美術刀剣保存協会会津支部の協力を得たことで、刀剣の手入れの重要性が広く認識された。展覧会の開催が一過性の刀剣ブームに乗ったものではなく、県内の文化財保護の機運醸成に結びついたのは展覧会後も残る重要な成果となった。

ウ　秋の企画展「戊辰戦争 150 年」

(ｱ) 会期　平成 30 年９月１日(土)～10 月 14 日(日)
　　　　開館日数 38 日間

(ｲ) 会場　企画展示室

(ｳ) 主催　福島県立博物館・新潟県立歴史博物館・仙台市博物館
　　　協力　日本通運株式会社

(ｴ) 入館者数　17,445 人

(ｵ) 担当学芸員　歴史分野：阿部綾子・栗原祐斗

(ｶ) 趣旨

戊辰戦争から 150 年の節目に、東北・新潟の視点から戊辰戦争を捉え直し、奥羽越列藩同盟と強い関わりのある地域に立地する三館が共同企画した展覧会。新潟県立

歴史博物館［７月 14 日(土)～８月 26 日(日)］、当館、仙台市博物館［10 月 26 日(金)～12 月９日(日)］の順に開催した。共通のストーリーに関わる基幹資料は三館を巡回させつつ、各館とも独自の地域資料を交えて展示した。当館では会津藩を中心とする福島県域の実情を伝える資料を多く出品した。なお三館全体の入場者数は 62,119 人にのぼった。

(ｷ) 展示構成

序　章「開国」
第一章「政局」
第二章「開戦」
第三章「盟約」
第四章「展開」
第五章「降伏」
終　章「再起」

出品点数：錦旗・奥羽越列藩同盟旗・会津藩旗など旗類、自筆書状類、錦絵・屛風・白虎隊自刃図など絵画資料類、武器・武具類など 210 件

(ｸ) 関連事業

・展示解説会
日時：平成 30 年９月８日（土）、15 日（土）、22 日（土）、23 日（日）、24 日（月）、10 月６日（土）、13 日（土）各回とも 13 時 30 分～14 時 30 分
場所：企画展示室
講師：当館学芸員

・記念講演会「戊辰内乱と「官軍」の創造」
日時：平成 30 年９月 16 日(日) 13 時 30 分～15 時
場所：講堂
講師：宮間　純一（中央大学文学部准教授）

・記念講演会「仙台藩と奥羽越列藩同盟」
日時：平成 30 年９月 29 日(土) 13 時 30 分～15 時
場所：講堂
講師：水野　沙織（仙台市博物館学芸員）

・記念講演会「北越戊辰戦争と会津藩」
日時：平成 30 年 10 月 14 日(日) 13 時 30 分～15 時
場所：講堂
講師：田邊　幹　新潟県立歴史博物館学芸員)

(ｹ) 成果と課題

平成 30 年は戊辰戦争および明治維新から 150 年であり全国で関連の企画展が計画される中、関連の三館が手を組んだことで、内容を充実させることができた。東北地方を中心としながらも戊辰戦争を総合的に紹介する企画は希少であり注目を集め、全国からの集客につながった。また単なる巡回展ではなく各館でそれぞれ特色（地域色）を加えて展示したため、三会場の制覇をめざすリピーターも獲得できた。ただ総合展としては評価されたが、反面、それぞれの地域の実情を掘り下げきれなかったことが課題である。

展示の工夫としては、実在の会津藩士・渋谷源蔵をナビゲーター役に設定し、ストーリーに臨場感をもたせたことが好評を得た。また共通図録も売れ行きが好調で、当館では用意した 1,200 冊程を完売し、三会場全体では年度内に 5,000 冊近くが売れた。また図録は内容も評価され、日本グラフィックサービス工業会主催の「平成三十年度ジャグラ作品展」業務用印刷部門にて作品展審査会委員長賞（令和元年６月付）を、東大比較文學會 CatalTo 主催の CatalTo2018 にて学術賞（令和元年７月付）を受賞した。しかし予想以上の売れ行きにより、図録は先行する新潟会場及び当館において会期に売り切れ、購入できないお客さまにご迷惑をおかけした。共通図録の発行・販売方法については課題が残った。

当館独自の試みとしては、オリジナルグッズ（クリアファイル）の販売、展示の理解を助ける「戊辰戦争 150 年ミニガイドブック」の無償配布、外灯フラッグのプレゼント企画などを行い、いずれも人気があった。

エ　秋の企画展「日本のわざと美―重要無形文化財とそれを支える人々―」

(ｱ) 会期　平成 30 年 11 月 27 日(土)～12 月２日(日)
開館日数 32 日間

(ｲ) 会場　企画展示室

(ｳ) 入館者数　3,177 人

(ｴ) 担当学芸員　美術分野　小林　めぐみ

(ｵ) 趣旨

文化庁や全国の美術館・博物館の所蔵品により、「人間国宝」と呼ばれる重要無形文化財の保持者や保持団体の「わざ」と作品の「美」を紹介する展覧会。陶芸、染織、漆芸、金工、木竹工、人形、手漉和紙、截金（きりかね）、撥鏤（ばちる）など、伝統的な工芸技術を高度に受け継ぎつつ、さらに新たな技法・技術や表現を追求し、豊な感性を注ぎこんだ逸品によって、日本工芸の粋を紹介。また、それらの伝統工芸に関わる道具や材料を製作・生産する選定保存技術も展示。豊かな伝統工芸の土地でもある会津で、日本各地のわざと美をご覧いただく機会とした。

(ｶ) 展示構成

ａ　重要無形文化財と保持者・保持団体
―陶芸、漆芸、染織、木竹工、人形、金工、截金、撥鏤、手漉和紙―
富本憲吉作「色絵金銀彩四弁花文八角飾箱」（東京国立近代美術館蔵）等　203 件

ｂ　選定保存技術と保持者・保存団体
辻昇楽「上絵具製造工程見本」等　26 件

(ｷ) 関連事業

・講演会「人間国宝とは何か？－守るべき技・伝える美－」
講師：室瀬　和美（漆芸家・重要無形文化財「蒔絵」保持者（人間国宝））
佐々木　正直（群馬県立館林美術館長）
日時：平成30年10月28日（日）13時30分～15時30分

・実演１「芭蕉布の苧績み」
講師：喜如嘉の芭蕉布保存会のみなさん
会場：体験学習室
・実演２「伊勢型紙の彫り」
講師：伊勢型紙技術保存会のみなさん
日時：平成 30 年 12 月２日（日）10 時～12 時
会場：体験学習室
・ワークショップ１「伝統工芸の技を体験１－芭蕉布の糸つくり」
講師：喜如嘉の芭蕉布保存会のみなさん
日時：平成 30 年 11 月３日(土･祝)
13 時 30 分～15 時 30 分
会場：体験学習室
・ワークショップ２「伝統工芸の技を体験２－伊勢型紙で年賀状つくり」
講師：伊勢型紙技術保存会のみなさん
日時：平成 30 年 12 月２日(日)13 時 30 分～16 時 30 分
会場：体験学習室
・展示解説会１
講師：文化庁担当者
日時：平成 30 年 10 月 27 日(土) 10 時～11 時
日時：平成 30 年 11 月 11 日（日）15 時～16 時
参加人数：48 名
・座談会１「福島のからむし・沖縄の芭蕉布」
日時：平成 30 年 11 月４日(日)13 時 30 分～15 時 30 分
会場：昭和村　旧喰丸小学校
・座談会２「喜多方の型紙・伊勢の型紙」
日時：平成 30 年 12 月１日(土) 13 時 30 分～15 時
会場：喜多方市　喜多方市立図書館
・関連展示１「冠木昭子の会津型」
会期：平成 30 年 10 月 27 日(土)～12 月 27 日(木)
会場：けんぱくレストラン
・関連展示２「会津のわざと美」
会期：平成 30 年 10 月 22 日(火)～11 月 18 日(日)
会場：福西本店
主催：福島県立博物館・会津若松まちづくり株式会社
・ふくにし・けんぱく連携講座「支えるわざ・伝えるくらしー伝統工芸から考える暮らし方・生き方」
講師：矢澤　源成（三島町長）
コーディネーター：赤坂　憲雄（福島県立博物館長）
日時：平成30年11月14日(水) 18時30分～19時30分
会場：福西本店
主催：会津若松まちづくり株式会社
企画協力：福島県立博物館

(ｸ) 成果と課題

文化庁や全国の美術館・博物館の所蔵品により、「人間国宝」と呼ばれる重要無形文化財の保持者や保持団体の「わざ」と作品の「美」を紹介する本展を、平成 30 年度福島県立博物館の秋の企画展として開催した。福島県での開催は初となった。福島県立博物館が所在する会津若松市および近隣の会津地域は、伝統工芸の技が豊かに残る地域であり、日々工芸に触れる機会は多い。しかし、これまで本展の開催の機会がなかったのは、福島県から重要無形文化財の認定が出ていないことが遠因としてあったかと思われる。

しかし、当館での開催は、既存の会津および福島の工芸への関心を喚起するとともに、あらためて重要無形文化財、いわゆる人間国宝に認定されている技の高度さと美術表現としてすばらしさを認識していただく機会となったことが、アンケートからも窺えた。

特に、会期中に開催した講演会や実演・ワークショップでは、高い評価を得られ、作品の展示にあわせて、言葉や実演等での体験が伴うことにより、より理解を深めていただくことができたと実感している。

特に、芭蕉布と伊勢型紙の実演とワークショップは、それぞれ福島県昭和村のからむし、福島県喜多方市の会津型という地域の類似の工芸と関連づけることで、参加者に親近感をもって参加していただけた上に、両地域の交流の場とすることもできた。

残念ながら、入館者数は多くはなかったが、来場者、参加者の受容の濃度は高いものだったと思われる。

⑶ 特集展

特集展は、新しく収集した寄贈・寄託資料を中心に、特定のテーマに基づいて一定の期間開催する展示会である。平成 30 年度は、第２期中期目標で掲げている次世代ミュージアム機能の充実を図る活動として、冬に開催した。福島県立博物館は、季節毎に年間の展示のコンセプトを設定している。冬は、東日本大震災や復興に関連する内容。

企画展示のように特別の観覧料金を設定せずに、特集展ごとに常設展観覧料で観覧できるか、無料で観覧できるように対応した。

ア　特集展「はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト 2017 成果展　アートで伝える考える福島の今、未来 at Fukushima Museum」

(ｱ) 会期　平成 30 年３月３日(土)～４月 11 日(水)
開館日数：34 日間(平成 30 年度の会期９日間)
(ｲ) 会場　部門 歴史美術展示室・収蔵資料展示室
(ｳ) 観覧者数　2,388 人（平成 30 年度の観覧者数 711 人）
(ｴ) 担当学芸員　川延 安直・小林 めぐみ・塚本 麻衣子
(ｵ) 趣旨

東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故から５年を迎え、その記憶も薄れつつある。しかし、巨大地震と原子力発電所事故が福島に限らない課題であることはこの国の多くの人が共有し続けなければならない課題である。はま・なか・あいづ文化連携プロジェクトは、文化・芸術の視点から 2011 年以降福島が抱えている課題に向き合ってきた。地域に新たなアートを定着させ、アーティストとともに被災地の記憶をとどめ、未来そのものである子供たちにアートワークショップを通じて触れあってきた。2011 年以降の福島を伝え、

ともに考えることを目的に制作されたはま・なか・あいづ文化連携プロジェクトの成果作品を展示。はま・なか・あいづ文化連携プロジェクトの５年間の成果をまとめて公開した。

(ｶ) 展示構成

岡部昌生「被爆樹×被曝し続ける樹、他」【フロッタージュ作品】

岩根愛「Island in my mind, Futaba Mieko and Kichio Ito Shinzan, Futaba, Apr. 2017」【写真作品】等、出品点数約100点

イ　特集展「震災遺産を考えるー災害の歴史と東日本大震災ー」

(ｱ) 会期　平成30年３月３日(土)～４月11日(水)
　　開館日数34日間（平成30年度の会期９日間）

(ｲ) 会場　企画展示室

(ｳ) 共催　大熊町、双葉町、浪江町

(ｴ) 特別協力　久之浜・大久地区復興対策協議会、いわき市立久之浜第一小学校、久之浜大久地区まちづくりサポートチーム、久之浜町商工会、いわき市

(ｵ) 観覧者数　2,388人（平成30年度の観覧者数711人）

(ｶ) 担当学芸員　猪瀬　弘瑛、大里　正樹、栗原　祐斗（震災遺産保全チーム）

(ｷ) 趣旨

ふくしま震災遺産保全プロジェクトは、東日本大震災を「歴史」と位置づけ、震災が産み出したモノや震災を示すバショを「震災遺産」と名付けて、収集・保全、そして公開する取り組みを平成26年度から平成28年度まで実施してきた。本展示では、これまでに収集・保全した「震災遺産」と過去に起こった災害に関する資料を合わせて展示し、震災を地域の歴史としてとらえ直した。

(ｸ) 展示構成

（第１章）歴史の中の災害

（第２章）東日本大震災の“歴史”

※出品点数69件　津波堆積物断面剥ぎ取り(小高区、広野町）、浪江・大熊・双葉関連資料、浜風商店街関連資料、久之浜地区町並み模型、久之浜地区案内看板、被災街灯（久之浜）、磐梯山噴火図（各種）、書状(御屋敷普請につき)、九州大悪風津波大破損之事、白亜紀津波化石、ワークショップの成果物など

(ｹ) 関連事業

・展示解説会

展示解説会は各回にテーマを設け、企画展示室において当館学芸員を講師として実施した。

解説会「山口弥一郎の見た三陸津波」
　講師：震災遺産保全チーム（当館学芸員）
　日時：平成30年４月１日(日）11時～11時30分
　会場：企画展示室

解説会「古文書から見る災害」
　講師：震災遺産保全チーム（当館学芸員）
　日時：平成30年４月１日(日）13時30分～14時
　会場：企画展示室

解説会「震災遺産が語るコト」
　講師：震災遺産保全チーム（当館学芸員）
　日時：平成30年４月７日(土）13時30分～14時
　会場：企画展示室

ウ　特集展「震災遺産を考える」

(ｱ) 会期　平成31年２月16日(土)～４月11日(木)
　　開館日数:47日間(平成30年度の会期38日間)

(ｲ) 会場　企画展示室

(ｳ) 観覧者数　2,786人（平成30年３月31日時点）

(ｴ) 担当学芸員　平成30年度震災遺産保全チーム

(ｵ) 趣旨

ふくしま震災遺産保全プロジェクトは、東日本大震災を「歴史」と位置づけ、震災が産み出したモノや震災を示すバショを「震災遺産」と名付けて、収集・保全、そして公開する取り組みを平成26年度から平成28年度まで実施してきた。本展覧会では、これまでに収集・保全した「震災遺産」を展示し、震災に向き合う機会とした。

(ｶ) 展示構成

第１章　地震と破壊

第２章　混乱と避難

第３章　災害と時間

ソフトウェアで観覧する

親子で震災遺産を考える

図書コーナー

【出品点数】津波痕跡の残る壁紙(南相馬市)他、合計117件（館蔵品、大熊町、富岡町教育委員会、長岡市立中央図書館文書資料室、会津大学、個人から借用品を含む）

(ｷ) 関連事業

・防災講座「楽しいそなえ」
　日時：平成31年２月16日(土）10時30分～12時
　会場：実習室
　講師：会田　理恵子（にいがた防災ボランティアネットワーク事務局長）

・館長講座「中越大震災が遺したもの」
　日時：平成31年２月21日(木）13時30分～15時
　会場：実習室
　講師：澤田　雅浩（兵庫県立大学大学院准教授）、赤坂　憲雄（福島県立博物館長）

・考古学講座「災害を発掘する　～考古学から見える会津の災害史」
　日時：平成31年３月17日(日）13時30分～15時
　会場：講堂
　講師：荒木 隆（当館学芸員）

・ミニシンポジウム「震災を未来へ継承する」
　日時：平成31年３月23日(土･祝)
　　　　13時30分～15時30分
　会場：講堂
　講師：森井　順之（文化庁文化財調査官）

佐藤　公（磐梯山噴火記念館館長）
杉崎　佐保恵（当館学芸員）

・展示解説会　※各回30分程度

日時：平成31年２月16日(土)10時～、２月23日(土)13時30分～、３月９日(土)15時～、３月10日(日)14時45分～、３月11日(月)13時30分～（75分拡大版）、３月21日(木･祝)13時～、３月30日(土)13時30分～

会場：企画展示室

講師：当館学芸員

(ｸ) 成果と課題

館長講座、考古学講座を特集展の関連事業として開催して、災害史の教育普及を推進した。

また、平成31年３月11日(月)を臨時開館として展示解説会を実施し、解説会終了後に東日本大震災の犠牲者の方の追悼と復興を祈念して、観覧者とともに黙祷を捧げた。

⑷　指定文化財の公開

平成 30 年度の展示で以下の指定文化財の公開を行った（館蔵・寄託品などは除く）。

ア　国指定

〈重文〉

(ｱ) 太刀　銘　有綱（古伯耆）　一振　東京富士美術館

(ｲ) 太刀　銘　一（福岡一文字）一振　東京富士美術館

(ｳ) 太刀　銘　備前国長船住近景　建武二年五月日　一振　東京富士美術館

（以上、３件は企画展「美しき刃たち―東京富士美術館コレクションと福島の名刀―」で展示公開）

(ｴ) 磐城楢葉天神原遺跡出土品のうち２点　楢葉町教育委員会（福島県）（総合：原始展示室）

(ｵ) 磐城楢葉天神原遺跡出土品のうち 92 点　楢葉町教育委員会（福島県）　（テーマ展「ふるさとの考古資料７　【楢葉町歴史資料館】移動展」で展示公開）

(ｶ) 金銅製双龍双鳥文磬　一面　金剛寺（テーマ展「祈りのふくしま２」で展示公開）

〈重有文〉

(ｷ) 「会津只見の生産用具と仕事着コレクション」2,333点のうちのアイ 20 点　只見町教育委員会（福島県）

（企画展「匠のふるさと会津－技と祈りの建築文化誌－」で展示公開）

イ　県指定（福島県指定）

(ｱ) 太刀　銘　陸奥大掾三善長道　延宝三年八月日　一振　土津神社

(ｲ) 金梨地糸巻太刀拵　一腰　土津神社

(ｳ) 太刀　銘　兼友　為直　道辰　長道　兼氏　謹共作　文政十一戌子六月日　一振　土津神社

(ｴ) 金梨地糸巻太刀拵　一腰　土津神社

(ｵ) 刀　銘　陸奥會津住下坂為利　延宝三年八月日　一振　土津神社

(ｶ) 黒漆刀拵　一腰　土津神社

(ｷ) 刀　銘　若狭守二代目藤原道辰作　一振　土津神社

(ｸ) 黒漆刀拵　一腰　土津神社

（以上８件は、企画展「美しき刃たち―東京富士美術館コレクションと福島の名刀―」で展示公開）

(ｹ) 関和久官衙遺跡出土品のうち２点　福島県教育委員会　（総合：古代展示室）

(ｺ) 森北１号墳出土品のうち４点　会津坂下町教育委員会　（総合：古代展示室）

(ｻ) 八槻都々古別神社御正体　一面　八槻都々古別神社（総合：中世展示室）

〈重有文〉

(ｼ) 「奥会津の屋根葺用具と火伏せの呪具」242 点のうち 13 点　南会津町教育委員会（福島県）

（企画展「匠のふるさと会津－技と祈りの建築文化誌－」で展示公開）

⑸　展示解説

ア　展示解説員

平成30年度の展示解説員は13名で前年度と変わらなかった。これに加えて前年度と同様に常設展示室内で２名分の監視員を委託できる予算を確保したが、展示解説員の増員を図ることができなかった。企画展についても、展示予算の中で監視員１名を予算化し、通常の展示解説員１名に監視員１名を交えた体制で展示室の対応をせざるをえない状況であった。

さらに、企画展開催時には企画展示室の入口のモギリに人数を割かれるなどするため、常設展示室内に対応できる人員が不足する状況が恒常的に続いている。これらの状況に対して、学芸員による解説活動を増やし、定数減の状況を乗り切る対策をとっている。

このような展示解説員の減員により、過去に実施されていた解説員が主となる講座などは、平成 30 年度も実施できない状況であった。

また、展示解説員は来館者に展示を解説・案内することが第一の役割であるが、定数減により展示解説員１人で対応しなければならないエリアが広くなった関係で十分な解説活動ができない場合が少なくなく、最低限の監視業務を行うので精一杯の状況であることが多かった。きめ細やかな展示解説活動をはじめとしたより質の高い行政サービスを保障するために、展示解説員に対する研修を実施するなど、質的向上に向けた努力を行っているが、展示解説員の人数不足という量的課題については、引き続き検討をしていく必要がある。

展示解説員の業務は、総合ガイダンスと名付けられた受付での来館者への対応をはじめとして展示や館内の業務をよく知っている職員でなければ担当できない内容がほとんどである。現在の減員状況の中でどうにか対応している状況であるが、現在の定数では通常業務を実施する上では限界の状態であり、来館者への解説サービスを考えた場合、定数増が図られなければ、本来の業務にも支障を来す可能性が出てくる。

(ｱ) けんぱくハイライトツアー

展示解説員による常設展の定時解説で、開館30周年記念行事としてそれまで実施していた「やさしい展示解説会」をリニューアルさせたものである。原則的に他の行事の入っていない土曜日と日曜日・祝日の午前11時、午後２時の２回開催を基本に実施している。１回の所要時間は約30分。各解説員が独自の解説ルートを開発し、それぞれ展示解説員ごとのテーマで解説会を実施している。平成30年度の「けんぱくハイライトツアー」は平成30年４月29日から平成31年３月26日の期間実施した。

＜実施状況＞　実施日数：68日
総参加人数：317人

(ｲ) 通し解説

不定期的に行われる常設展・企画展の解説。主として来館の個人・団体の要望に応じて展示解説員１名が全体を解説するもの。解説員の減員のため、通し解説は困難になってきているが、予約の団体の要望にこたえる形で実施してきていることが多い。

実施回数：51回

(ｳ) 部屋送り解説

不定期の常設展・企画展の解説。主として来館する個人の要望に応じ、各展示室の担当として立っている解説員が順に引き継いで解説する。

実施回数：21回

(ｴ) 体験講座

体験講座などの解説員が主体となって実施する講座は、解説員業務に比して人数が少ないために平成30年度も実施されなかった。

ただし、七夕の時期には竹飾り、クリスマスには手製のクリスマスツリー、小正月に合わせての団子飾り、ひな祭りの時期に自作の雛人形の段飾りなど、解説員が自分たちで作ったものを体験学習室内に展示することは継続している。

また、ゴールデンウィークを中心に時代衣装の試着体験に加え、期間限定で甲冑の試着体験も行うなど、体験的な活動の充実を図っている。

イ　学芸員

企画展および特集展の開催中は展示解説のために職員を配置する場が増えることになり、展示解説員だけでは解説員の昼休みや休憩時間の減員に対応できない状況であるため、学芸員が代わって展示室に立つことになっている。原則１コマ45分である。平成30年度は年間で285回を数えた。学芸員が展示室に立つことは単なる解説員の肩代わりではなく、実際に展示室に立つことにより得るもの、気づくものが多かったが、通常業務とのバランスの点で今後の検討が必要である。

また、企画展、テーマ展、特集展については、公民館、研究団体などからの依頼に応じて、担当分野の学芸員が展示解説を実施した。

ウ　展示解説のための資料等

(ｱ) 『今月のおすすめ』

展示室見学の参考とするため、常設展示総合展示室（Ａ～Ｆ）の各部屋から月別に１点ずつおすすめ資料を選定し、資料に関するキャッチコピーと簡単な紹介を展示室内の表示と常設展入り口にデジタルフォトフレームによる表示を行っている。月別に紹介する資料が変わり、見学するポイントが分かることから、常設展示に対する観覧者の興味・関心を高めることに役立っている。

(ｲ) 福島県立博物館ガイドブック

常設展の展示内容をコンパクトに解説したもの（全28ページ）で、館活動についても紹介している。昭和61年に発行され、一部改訂をしながら観覧補助資料として有償配布している。

(ｳ) Fukushima Museum Permanent Exhibition Guide Book

ガイドブックを要約した英文の展示解説パンフレット（全14ページ）で、平成18年に発行され、一部改訂を行いながら観覧補助資料として、希望する来館者に無償配布している。

⑹ 体験学習室

エントランスホール隣に設置してある無料で使用できる場所。囲炉裏のついた畳敷きの座敷と木のフローリングの部分がある。昔のおもちゃが用意されていて、自由に遊べるほか、季節ごとに昔の着物を着ることができる。着付けは衣服の上からだがかなり本格的で好評を得ている。また、資料に触れるハンズオンコーナーを常設することで、子どもたちも博物館に親しむことのできる空間作りを目指している。この部屋には展示解説員が常駐し来館者に対応している。

ア　衣装

(ｱ) 衣装着付け

体験学習室では季節ごとに入れ替えを行いながら、時代衣装の着付け体験を行っている。着衣のまま着ることのできる衣装であるが、着付けの技術や衣装についての知識を深めるために新任の展示解説員は研修を行うなど、より質の高いサービスを提供できるように努めている。

着付けにはある程度の時間を要するため、多人数の要望には一度に応え難い面もある。しかし、体験希望者は親子連れから若い友人同士のグループまで幅広く、着付けした姿を鏡に映したり、カメラで撮影したりと、楽しんでいる様子が伺える。展示解説員も体験者との会話から、衣装着付けの体験に対する満足度が高いことを実感している。

a　衣装着付け件数　449件

b　着付けた衣装

春：打掛・直垂
夏：水干・半裃
秋：天武朝女官朝服・推古朝朝服
冬：白拍子・町人旅姿

(ｲ) 衣装展示

春：大工・編綴

夏：壺装束・武士旅装

秋：小袖・古墳男子

冬：大鎧・稚児鎧

イ　手作り資料展示

季節に関する手作りの資料を展示した。製作は展示解説員が担当。

７月：七夕飾り ／ 12 月：クリスマスツリー ／

１月：団子さし ／ ３月：手作り雛人形

ウ　おもちゃ

畳の上で幼児におもちゃで遊ばせるお母さんや家族連れが多くみられる。壁の引き出しに用意されているおもちゃの利用も多い。ただ、おもちゃの経年劣化に加えて利用者の増加もあり、修理を必要とするおもちゃの数も増えている。

おもちゃの修理：63 件

エ　ハンズオンコーナー

来館者が実際に体感することで、様々な学びを促進するためのコーナー。平成 30 年度は「土器パズル」（縄文土器の写真を再現するパズル）、「化石にさわろう！」（当館収蔵の様々な化石を実際に手に取ることができるコーナー）、「福島県地図パズル」（各市町村の形を、それぞれの市町村の木で製作してあるパズル）を常設展示として設置した。また、７月～９月にかけては蚊帳を設置し、一昔前の暮らしを体感できるコーナーを作った。特に展示の理解が難しい児童に対する博物館入門コーナーという意図があるが、親子や大人のグループの利用もあり、好評を得ている。

⑺　リニューアルの検討

リニューアルに向けて、調査・研究を行うためにリニューアル推進チームを設置して活動した。会議は通年で 14 回実施し、下記の内容について協議した。

ア　リニューアル基本構想原案の検討

イ　「新しい展示室イメージ」の検討と提示

ウ　会津大学ソフトウェアスタジオとの連携事業の実施

エ　「親子で探検！はくぶつかんのウラ側」の実施

基本構想原案をとりまとめ、平成 30 年６月に社会教育課への説明を行った。その次の段階として基本計画の作成を予定していたが、大規模な予算をかけたリニューアルをスケジュール化することが現実的に難しいため、次年度から始まる第３期中期目標の中で、できるところから館内の事業・活動の改善を始めることと、将来のリニューアルを想定した新しい展示ストーリーを作って準備しておくという方針を決めるにとどまった。

また、いくつかのケースを想定した「新しい展示室イメージ」をチームの中で作成・検討し、今後の議論のためのたたき台として館内の会議で提示した。詳しい検討は、次年度以後に持ち越され、第３期中期目標の中の重点目標「新しい展示ストーリーの検討」に継承されることになった。

５　調査研究事業

⑴　展示資料調査研究

将来の博物館リニューアルに向けて、新たなる研究成果と展示資料の収集のため、考古・歴史・民俗・美術・自然・保存の各分野がテーマを設定して調査を実施している。平成 30 年度は、以下の６テーマの調査を実施した。

ア　山口弥一郎調査資料の研究

(ｱ) 分野　民俗

(ｲ) 趣旨

山口弥一郎（1902-2000）は旧・新鶴村に生まれ、東北の地理学・民俗学研究に多大な業績を残した。近年では東日本大震災を経て著書『津浪と村』（1943 年刊）が復刊され、津波災害と集落移動に関する研究が全国的に注目を集めている。しかし、磐梯山慧日寺資料館（磐梯町）に一括して収蔵されている山口が残した調査ノートや写真、蔵書などは、体系的な整理や目録作成にまで至っていない。本研究では磐梯町の協力のもと、同資料の整理・調査を進めることで、山口弥一郎の調査研究を見直し、人文科学的側面からの災害研究の新しい方向性を探っていく。

(ｳ) 調査概要

磐梯町と福島県立博物館で昨年度に取り交わした協約書にもとづき、平成 30 年度も引き続き山口弥一郎旧蔵資料の整理を進めた。調査ノートや文書類の目録化と写真撮影等を進め、またガラス乾板写真のデジタルデータ化を行った。さらに平成 30 年度はこれまでの成果の一部を公表するため、ミニシンポジウム「山口弥一郎が見た昭和の災害と民俗」とポイント展「会津が生んだ知の巨人・山口弥一郎」を開催し、紀要には「磐梯町所蔵・山口弥一郎旧蔵ノートー解題と目録ー」を掲載した。

イ　考古資料による原始・古代の画期の再検討

(ｱ) 分野　考古

(ｲ) 趣旨

Ⅰ縄文時代後半期から弥生時代初頭とⅡ古墳時代終末期から奈良時代（６世紀末～８世紀）の２つの時期を取り上げ、当館収蔵の当該期の考古資料を中心に取り上げ、資料の有する社会的背景を考察し、本県における原始･古代の時代変遷の画期を検討し考古地域史の確立を目指すものである。

(ｳ) 調査概要

県内出土古人骨の研究を東京大学と実施し、年代及び同位体のデータを取得した。また、弘前大学との共同研究で、荒屋敷遺跡出土土器片の漆塗膜のクロスセクションを採取し、エックス線分析を実施した。

ウ　福島県産中生代軟体動物化石の研究

(ｱ) 分野　自然

(ｲ) 趣旨

福島県内には相馬地方にジュラ系相馬中村層群、いわき地方に白亜系双葉層群という中生代の地層が分布している。これらの地層からはアンモナイトや二枚貝や巻

貝といった軟体動物化石を豊富に産することが知られ、特に近年は地元の化石収集家の努力によって多くの標本が発見されてきた。

しかし、これらの標本については鑑定が不十分なものもあり、論文などで発表されていないものも多い。そこで、これらの中生代軟体動物化石について鑑定内容を確認した上で成果を論文として記録・公表し、当館所蔵標本を充実させることを目指す。また、新たに追加した標本を展示する機会を設け、さらなる標本の発見・評価につなげる。

(ｳ) 調査概要

産状の比較のため、富岡町の新生代貝化石産地について現地調査を行った。現地調査の際には、特に二枚貝、巻貝の産状を確認、採取した。福島県立博物館に所蔵されているアンモナイト化石について鑑定作業を行った。いわき地方の白亜系双葉層群玉山層から新たに発見した二枚貝化石群集について紀要で報告した。

エ　戊辰戦争資料の研究

(ｱ) 分野　歴史

(ｲ) 趣旨

平成30年は戊辰戦争から150年の節目であった。そこで、戦争の激戦地となり、日本の歴史が転換する舞台となった本県でも改めて戊辰戦争の意義について問い直すため、戦争の経過及び戦後の復興過程までを対象として３年計画で資料調査を進めてきた。目的は、新たな資料の発掘を行い、平成30年に成果を盛り込んだ企画展を開催することであった。

(ｳ) 調査概要

研究の最終年となった本年は、平成28・29年度の資料調査の成果を踏まえ、秋の企画展「戊辰戦争150年」を開催した。企画展の概要については該当頁を参照されたい。

オ　会津の三十三観音めぐりの調査研究

(ｱ) 分野　美術・民俗

(ｲ) 趣旨

会津の三十三観音めぐりは、近世以降、女性を中心に連綿と行われてきた。仏教信仰のみならず、観音講におけるコミュニティー形成や御詠歌など多様な要素を含む非常に重要な文化と言える。その一方で、参加人口の減少などにより、継承が危惧されてもいる。本調査研究では、聞き取り調査等を実施し、会津の信仰文化・民俗を掘り下げ、地域の文化の新たな見直し・活用を目指す。

(ｳ) 調査概要

会津の三十三観音を構成する観音堂を実際にめぐり、各観音堂の歴史や地域において果たしてきた役割等について現地調査を行い、調査結果を講演会などに活かした。

カ　災害史の学際的研究と災害史展示の構築

(ｱ) 分野　震災遺産保全チーム

(ｲ) 趣旨

東日本大震災の発生以来、災害史の研究はこれまで以上に盛んに行われるようになった。これまで当館では、慶長大地震や磐梯山噴火などに関する資料の収集や会津藩の社倉制の研究、山口弥一郎資料の研究など多様な災害に関わる調査研究を進めてきたが、いずれも個々の分野が断片的に行ってきた活動であった。東日本大震災や原発事故のような大規模災害の経験を後世に語り継いでいくためには、自然史や歴史、民俗、考古、保存科学等の分野が総合的に資料を調査研究していく必要があり、また学際的な見地から歴史上の災害を整理し直し、資料調査を進めたうえで展示に反映していくことも求められる。本研究では東日本大震災と災害史に関する資料の収集や調査研究を分野横断的なチームで進め、将来的な常設展示のリニューアルにおいてそれらを福島県の歴史として位置づけることを目指す。

(ｳ) 調査概要

牧場牛舎柱の雌型を完成させ、専門業者へ模造品制作を委託した。なお、材料費、調査旅費を予算で賄えなくなったため、調査研究費を取りまとめている担当者の差配により、調査研究費「古墳出土金属製品の現代保存修復と展示公開」の予算を投じた。

当館では平成27年度より、白板や黒板に書かれた文字が故意的に消されないように、文字を定着させる新手法の開発を目指している。平成30年度は、７月に浪江町で基礎調査を実施して、年度末までかけて調査報告書に集約した。処置に用いる材料（修復材料）について、平成30年度は、東京文化財研究所へ技術指導を仰ぎ、合成樹脂素材の画溶液を用いた表面コーティング処置の適性を判断するために、東京文化財研究所にテストピースを作成していただいた。処置による色・質感の変化に対して、分野横断的に検討を重ねたが、各分野の学識による意見はなく、各個人の主観的な感想に留まり、結論に至らなかった。一方で、「修復材料として実績のない材料を用いることは不適当であり、画溶液を修復材料として用いた実績を調査するべき。」との意見があり、当館図書室の蔵書を対象に文献調査を行うことになった。調査対象の文献を抽出して、文献調査を進めている。文献調査の途中ではあるが、平成30年度末の時点で、白板や黒板に書かれた文字の定着に画溶液を用いた処置事例を検出できなかった。

キ　古墳出土金属製品の現代保存修復と展示公開

(ｱ) 分野　保存科学分野

(ｲ) 趣旨

発掘調査で出土した金属製品は、歴史学上、過去の社会・経済・産業・流通などを考える上で貴重な資料であり、博物館等の収蔵施設での保存・展示のために、クリーニング、埋没環境下で進行した腐食の安定化（脱塩処理）、形態を保つための樹脂含浸、破片の復元等の一連のプロセス（保存処理）が要求される。保存処理の後は、温度、湿度、空気質（金属の腐食促進ガス、塵埃等）、照明等の環境を適切に構築することによって、保存処理

の効果が持続する。

維持管理において、適切な環境構築手法を検討する。

(ｳ) 調査概要

調査研究費「災害史の学際的研究と災害史展示の構築」の事業費が予算内で収まらなくなったため、調査研究費を取りまとめている担当者の差配により、調査研究費「古墳出土金属製品の現代保存修復と展示公開」の予算を投じることになり、調査を断念せざるを得なかった。

⑵ その他の調査研究事業

ア　古文書整理事業

古文書類の調査・研究は、福島県の歴史をさぐるために欠かせない。しかし古文書を歴史資料として活用するためには、１点ずつ整理を行い、表題・年代・形態・法量・状態などのデータを採取した上で、博物館資料として登録する必要がある。このため、購入・寄贈・寄託などにより当館で受け入れた古文書の整理・登録作業を行っている。また古文書原本を状態よく保存し後世に伝えていくため、古文書をマイクロ撮影し、原本のかわりに閲覧用に提供している。

平成30年度は、前年度に引き続き安斎勇雄コレクション、浅羽興一家寄贈資料の整理を継続して実施したほか、新たに高橋福江家寄託資料、山川健英家寄託資料、石井健司家寄託資料の整理を行った。また整理が終了した松﨑達夫家寄贈資料（若松城下薬種問屋資料）、斎藤美恵子家寄託資料(会津藩士篠澤家資料)、本田徳壽家寄託資料、本田信英家寄託資料を登録し、登録済みだが未公開であった中村栄一・政子コレクションの公開も併せて行った。マイクロ撮影は、前年度に引き続き「簗田家追加寄託資料」の撮影を行った。

⑶ 職員の研究活動

ア　研究成果の公表（職員の氏名あいうえお順）

(ｱ) 印刷物（単行本･自治体史･図録･報告書･紀要･学術雑誌）

阿部　綾子　平成 30 年７月 企画展図録『戊辰戦争一五〇年』（福島県立博物館、新潟県立歴史博物館、仙台市博物館）

荒木　隆　平成 30 年３月 「学校支援を中核とした博物館における多様な社会教育活動の実践と展望―学校・博物館・地域・市町村教育委員会の連携を模索してー」『福島県立博物館紀要』第32号　p.1-32　福島県立博物館

荒木　隆　平成 31 年３月 「子どもたちの学びを支える博物館活動―これまでの実践の総括―」『福島県立博物館紀要』第33号　p.11-26　福島県立博物館

荒木　隆　平成 31 年３月 「陸奥南部における郡家の地域支配の様相―磐城郡をモデルとして―」『福島県立博物館紀要』第33号 p.27-50　福島県立博物館

猪瀬　弘瑛　平成 31 年３月 「福島県いわき市入間沢に分布する双葉層群玉山層から産出する二枚貝化石群集」『福島県立博物館紀要』第33号 p.1-10 福島県立博物館

Inose, H., Furuuchi, K., Ito, T., Sashida, K. and Agematsu, S. 2018.10 Radiolarian Fossils from Conglomerate Layers of the Upper Cretaceous Nakaminato Group Exposed Along the Pacific Coast of Ibaraki Prefecture, Central Japan: Staged Denudation of the Mid-Mesozoic Accretionary Complexes in the Kanto District. *Paleontological Reseach*, vol. 22, 307-325.

Matsui, K., Kimura, Y., Nagata, M., Inose, H., Ikeda, K., Beatty, B., L., Obayashi, H., Hirata, T., Otoh, H., Shinmura, T., Agematsu, S. and Sashida, K. 2018.7 A long-forgotten ‘dinosaur’ bone from a museum cabinet, uncovered to be a Japan’s iconic extinct mammal, *Paleoparadoxia* (Desmostylia, Mammalia). Royal Society Open Science, vol. 5, 172441.

内山　大介　平成 30 年４月 「会津の鍛冶産業と関連資料コレクション」『匠のふるさと会津－技と祈りの建築文化誌』p.68-73　福島県立博物館

内山　大介・大里正樹・山口拡・辻本侑生　平成31年３月 「磐梯町所蔵・山口弥一郎旧蔵ノートー解題と目録ー」『福島県立博物館紀要』第33号　p.79-112　福島県立博物館

内山　大介　平成 31 年３月 「震災・原発被災と日常／非日常の博物館活動－福島県の被災文化財と『震災遺産』をめぐってー」『国立歴史民俗博物館研究報告』第214集　p.103-129　国立歴史民俗博物館

内山　大介　平成31年３月 「書評 会津の御田植祭調査委員会編『会津の御田植祭』」「書評 赤沼博志『会津手語り 鍛冶屋編』」『福島の民俗』第 47 号 p.160-163　福島県民俗学会

大里　正樹　平成 31 年３月 「行事の継承におけるコストとモチベーション―福島県郡山市『笹川のあばれ地蔵保存会』の事例から―」『平成28年度～平成30年度科学研究費助成事業（基盤研究（C) 研究成果報告書　民俗文化の継承におけるコストとモチベーションに関する基礎的研究』　p.7-24　聖徳大学

大里　正樹　平成 31 年３月 「新聞記事から見た近年の沖縄の郷友会一覧」『南島文化』第41号　p.93-103　沖縄国際大学南島文化研究所

大里　正樹　平成31年３月 「書評 東京文化財研究所無形文化遺産部編『かりやど民俗誌 福島県双葉郡浪江町苅宿地区』」『福島の民俗』第47号　p.158-159　福島県民俗学会

菊地　芳朗、藤沢　敦、石橋　宏、平澤　慎　平成 31 年２月 「宮城県仙台市太白区一塚古墳出土遺物調査報告」『古墳分布北縁地域における地域間交流解明のための実証的研究』p.9-17 福島大学行政政策学類

高橋　充　平成30年７月 「『陸奥伊達一族』をよむ」高橋富雄『読みなおす日本史　陸奥伊達一族』

p.203-209 吉川弘文館
高橋　充　平成30年7月 「書評　垣内和孝著『伊達政宗と南奥の戦国時代』」『史学雑誌』127－7 p.62-67　公益財団法人史学会
(ｲ) 学会発表
荒木　隆　平成30年7月19日「博物館展示資料と体験学習活動を組み合わせた思考・判断・表現する社会科の授業〜『古墳時代』を題材にして」『中学校・高等学校　社会科・地理歴史科・公民科　専門研修　資料活用を通して思考・判断・表現する力を育む社会科・地理歴史科・公民科の授業づくり講座』於 福島県教育センター
荒木　隆　平成30年9月6日 「「子どもたちの学びを支える博物館活動」『子ども向け展示とワークショップを考える研究会』　於 東北歴史博物館
荒木　隆　平成30年9月18日「県立博物館を活用したこれからの社会科の授業づくり〜『弥生時代』を題材にして」『小学校経験者研修Ⅱ　教科指導研修（社会科）』　於 福島県教育センター
荒木　隆　平成30年9月29日 「石背国建国1300年と国指定史跡上人壇廃寺跡整備事業」『須賀川市歴史文化基本構想策定事業講演会』　於 史跡上人壇廃寺跡現地（須賀川市）
荒木　隆　平成30年10月13日 「陸奥南部における磐城郡の特色を読み解く」『平成 30 年度「いわきの考古学講座」　第5回講座』　於 いわき市生涯学習プラザ
荒木　隆　平成30年10月25日 「福島県立博物館における読み聞かせ活動の展開」『福島県読書活動推進セミナー』　於 南会津御蔵入文化センター
荒木　隆　平成30年12月1日「陸奥南部における石城国の役割を探る」『いわき市教育文化事業団設立40周年記念事業 報告会』　於 いわき市生涯学習プラザ
荒木　隆　平成31年2月23日「北田城のルーツを探る 〜会津郡内の物流拠点〜」『平成30年度湯川村「米と文化の里」講演会』　於 湯川村中央公民館
内山　大介　平成31年1月26日「東北日本における傘鉾の地域的展開－祭礼の傘と祈願の吊り下げ物－」民俗芸能学会 第 172 回研究例会　於：早稲田大学

イ　他団体による委嘱等
阿部　綾子：相馬市史編さん調査執筆員　相馬市教育委員会
阿部　綾子：郡山市文化財保護審議委員
荒木　隆：会津坂下町史編さん委員　会津坂下町教育委員会
荒木　隆：堂後遺跡及び勝常寺跡調査指導委員会委員　湯川村教育委員会
猪瀬　弘瑛：ふくしまサイエンスぷらっとフォーム連携コーディネーター
内山　大介：共同研究員　共同研究「地域における歴史文化研究拠点の構築」国立歴史民俗博物館
内山　大介：非常勤講師　福島県立医科大学医学部
内山　大介：単発非常勤講師　福島大学
内山　大介：評議員　日本民具学会
内山　大介：副委員長　会津の御田植祭調査委員会
内山　大介：三島町史編さん専門委員　三島町教育委員会
内山　大介：会津坂下町史編さん専門委員　会津坂下町教育委員会
内山　大介：委員　郡山市文化財保護審議委員会
内山　大介：事務局長　福島県民俗学会
大里　正樹：研究協力者　科研費基盤研究(C)「民俗文化の継承におけるコストとモチベーションに関する基礎的研究」聖徳大学
大里　正樹：三島町史編さん専門委員　三島町教育委員会
大里　正樹：会津坂下町史編さん専門委員　会津坂下町教育委員会
大里　正樹：福島県民俗学会事務局　福島県民俗学会
大里　正樹：野田市史編さん調査研究員　野田市
大里　正樹：南島文化研究所特別研究員　沖縄国際大学南島文化研究所
川延　安直：喜多方市美術館収集委員会委員　喜多方市教育委員会
川延　安直：「ふるさとの風景展」審査員　喜多方市美術館
川延　安直：いわき市文化財保護審議委員会委員　いわき市教育委員会
川延　安直：須賀川市文化財保護審議委員会委員　須賀川市教育委員会
川延　安直：白河市文化財保護審議委員会委員　白河市教育委員会
川延　安直：福島県文学賞エッセー・ノンフィクション部門審査委員
川延　安直：福島大学芸術による地域創造研究所研究員　福島大学
川延　安直：やないづ町立斎藤清美術館運営協議会委員
小林　めぐみ：福島藝術計画×Art Support TOHOKU-TOKYO 運営委員会委員 福島県、東京都
小林　めぐみ：会津漆器技術後継者訓練校講師 会津漆器協同組合
小林　めぐみ：やないづ町立斎藤清美術館運営協議会委員 柳津町
小林　めぐみ：会津若松市文化のまちづくり事業委員会委員 公益財団法人会津若松文化振興財団
小林　めぐみ：只見町ユネスコエコパーク支援委員会委員 只見町ユネスコエコパーク推進協議会

小林　めぐみ：只見町ぶなと川のミュージアム運営委員会委員　只見町
小林　めぐみ：福島大学芸術による地域創造研究所研究員 福島大学
小林　めぐみ：調査委員会委員 会津の御田植祭調査委員会
小林　めぐみ：会津坂下町史編さん委員 会津坂下町教育委員会
佐藤　洋一：南会津町伝統的建造物群保存地区保存審議会委員
佐藤　洋一：共同研究「『聆涛閣集古帖』の総合資料学的研究」共同研究員　国立歴史民俗博物館
高橋　充：二本松城跡整備検討委員会委員　二本松市教育委員会
高橋　充：向羽黒山城跡調査整備委員会委員　会津美里町教育委員会
高橋　充：相馬市史編さん専門委員 相馬市教育委員会
高橋　充：会津藩主松平家墓所及び名勝会津松平氏庭園整備指導会議委員　会津若松市教育委員会
高橋　充：阿津賀志山防塁調査・整備指導委員会委員　国見町教育委員会
高橋　充：伊達市宮脇廃寺跡保存管理計画策定委員会委員　伊達市教育委員会
高橋　充：伊達市立博物館（仮称）整備検討委員会委員　伊達市教育委員会
高橋　充：棚倉城跡調査指導委員会委員　棚倉町教育委員会
高橋　充：会津坂下町史編さん委員会委員 会津坂下町
高橋　充：北塩原村城館等保存・整備・活用検討委員会委員　北塩原村教育委員会
高橋　充：小峰城跡石垣検討委員会委員　白河市
高橋　充：堂後遺跡及び勝常寺跡調査指導委員会委員　湯川村教育委員会
高橋　充：医学部講義「芸術と文化（博物館からみた地域文化）」福島県立医科大学
高橋　満：会津坂下町史編さん委員　会津坂下町教育委員会
高橋　満：「日本先史文化の多視点的研究」研究推進員　明治大学
高橋　満：「資源利用史　研究クラスター」研究推進員　明治大学
高橋　満：富岡町アーカイブ施設検討町民会議委員（会長）　富岡町
高橋　満：富岡町アーカイブ施設整備識者検討部会委員　富岡町
田中　敏：会津坂下町史編さん委員　会津坂下町教育委員会
田中　敏：御三階復元検討委員会委員　会津若松市教育委員会
田中　敏：会津藩主松平家墓所整備指導会議委員　会津若松市教育委員会
藤原　妃敏：会津若松市文化財保護審議委員　会津若松市教育委員会
藤原　妃敏：原町市史編さん専門研究委員　南相馬市教育委員会
藤原　妃敏：新鶴民俗資料館運営委員　会津美里町教育委員会
藤原　妃敏：喜多方市文化財保護審議委員会委員　喜多方市教育委員会
藤原　妃敏：笹山原№16 遺跡調査指導委員　郡山女子短期大学
藤原　妃敏：福島県考古学会副会長　福島県考古学会
藤原　妃敏：南相馬市博物館運営協議会委員　南相馬市博物館
藤原　妃敏：会津坂下町史編さん委員　会津坂下町教育委員会

6　教育普及事業

⑴　講座・講演会

当館では館長と学芸員による各種講座を開催しているが、そのほかにも、外部に講師を依頼しさまざまな講座・講演会等を実施している。平成 30 年度の各講座開催数は 178、総参加者数は 14,958 人であった。

前年度（平成 29 年度）の開催回数は 157 回で平成 30 年度は 21 回多かった。総参加者数は前年度 10,111 人で、4,847 人の増加、前年比 148％であった。以下は個別講座・講演等の一覧である。

ア　平成 30 年度講座・講演会等の回数と参加者数

テーマ	回数	参加者数
(1) 館長講座	12	954
(2) 考古学講座	7	156
(3) 民俗講座	5	185
(4) 歴史講座	9	633
(5) 自然史講座	3	65
(6) 保存科学講座	1	10
(7) 美術講座	3	138

テーマ	回数	参加者数
(8) 指導者向け研修	1	4
(9) 実技講座	6	58
(10) 実演	1	32
(11) 企画展関連行事（記念講演・シンポジウム・講座・展示解説会等）	55	5,121
(12) ミュージアムイベント	8	1,052
(13) 子育て世代対応事業	13	3,156
(14) ミュージアムエデュケーター事業	20	358
(15) 共催事業	3	149
(16) 後援事業	22	1,428
(17) 企画展・特集展内覧会（友の会）	9	1,459
計	178	14,958

イ　平成30年度講座・講演会等行事一覧

(ｱ) 館長講座

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
館長講座　東北の文学者たち①「吉野せい」	赤坂　憲雄（館長）	平成30年4月19日(木)	70
館長講座　東北の文学者たち②「斉藤茂吉」	赤坂　憲雄（館長）	平成30年5月17日(木)	80
館長講座　東北の文学者たち③「宮沢賢治」	赤坂　憲雄（館長）	平成30年6月21日(木)	95
館長講座　東北の文学者たち④「西川 満」	赤坂　憲雄（館長）	平成30年7月19日(木)	65
館長講座　東北の文学者たち⑤「佐々木喜善」	赤坂　憲雄（館長）	平成30年8月16日(木)	87
館長講座　東北の文学者たち⑥「石川啄木」	赤坂　憲雄（館長）	平成30年9月20日(木)	74
館長講座　東北の文学者たち⑦「寺山修司」	赤坂　憲雄（館長）	平成30年10月18日(木)	100
館長講座　東北の文学者たち⑧「島尾敏雄」	赤坂　憲雄（館長）	平成30年11月15日(木)	74
館長講座　東北の文学者たち⑨「太宰　治」	赤坂　憲雄（館長）	平成30年12月13日(木)	106
館長講座　東北の文学者たち⑩「若松丈太郎」	赤坂　憲雄（館長）	平成31年1月17日(木)	54
東日本大震災を考える① 「中越大震災が遺したもの」	赤坂　憲雄（館長） 澤田　雅浩（兵庫県立大学大学院）	平成31年2月21日(木)	47
東日本大震災を考える② 「山口弥一郎が見た昭和の災害と民俗」	赤坂　憲雄（館長） 川島　秀一（元・東北大学災害科学国際研究所教授） 佐々木 長生（福島県民俗学会会長）	平成31年3月14日(木)	93

(ｲ) 考古学講座

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
縄文土器をつくろう１	考古分野学芸員	平成30年8月4日(土)	14
縄文土器をつくろう２	考古分野学芸員	平成30年8月5日(日)	14
縄文土器の野焼き	考古分野学芸員	平成30年10月7日(日)	14
会津大塚山古墳を歩こう	平澤　慎・藤原　妃敏（学芸員）	平成30年11月3日(土･祝)	19
災害を発掘する～考古学から見える会津の災害史	荒木　隆（学芸員）	平成31年3月17日(日)	75
「勾玉・ガラス玉を作ろう」	考古分野学芸員	平成31年3月23日(土)	20

(ｳ) 民俗講座

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
民俗講座特別編	石本　敏也（聖徳大学准教授）	平成30年11月17日(土)	45
おもしろ民俗学ゼミナール会津編①	大里　正樹（学芸員）	平成30年12月15日(土)	37
おもしろ民俗学ゼミナール会津編②	内山　大介（学芸員）	平成31年1月19日(土)	34
おもしろ民俗学ゼミナール会津編③	山口　拡（学芸員）	平成31年2月16日(土)	38
おもしろ民俗学ゼミナール会津編④	江川　トヨ子（学芸員）	平成31年3月3日(日)	31

(ｴ) 歴史講座

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
歴史講座　戊辰戦争こぼれ話①「西郷頼母の戦略談」	阿部　綾子(学芸員)	平成30年4月14日(土)	117
歴史講座　戊辰戦争こぼれ話②「磐城の戦いと西洋医学」	田中　伸一(学芸員)	平成30年5月12日(土)	78
歴史講座　戊辰戦争こぼれ話③「戦場のうわさ話」	栗原　祐斗(学芸員)	平成30年6月9日(土)	96
歴史講座　戊辰戦争こぼれ話④「会津の戦い」	高橋　充(学芸員)	平成30年7月14日(土)	137
歴史講座　戊辰戦争こぼれ話⑤「若松城下の戦い」	佐藤　洋一(学芸員)	平成30年8月11日(土)	85
はじめてさんの古文書講座①	阿部　綾子(学芸員)	平成31年3月2日(土)	30
はじめてさんの古文書講座②	高橋　充(学芸員)	平成31年3月9日(土)	30
はじめてさんの古文書講座③	阿部　綾子(学芸員)	平成31年3月16日(土)	30
はじめてさんの古文書講座④	栗原　祐斗(学芸員)	平成31年3月24日(日)	30

(ｵ) 自然史講座

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
野外講座「化石をさがそう」	猪瀬弘　瑛（学芸員)	平成30年10月13日(土)	29
実技講座「化石標本をつくろう」	相田　優（学芸員)	平成30年10月14日(日)	25
野外講座「鶴ヶ城の野鳥」	古川　裕司（野鳥研究家)	平成30年11月11日(日)	11

(ｶ) 保存科学講座

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
博物館の舞台裏―博物館でコレクションを保管する―	杉崎　佐保恵（学芸員)	平成30年4月21日(土)	10

(ｷ) 美術講座

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
美術講座①会津の仏教美術	塚本　麻衣子（学芸員)	平成30年5月11日(金)	49
美術講座②会津の仏教美術	塚本　麻衣子（学芸員)	平成30年6月8日(金)	49
美術講座③会津の仏教美術	塚本　麻衣子（学芸員)	平成30年7月6日(金)	40

(ｸ) 指導者向け研修

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
博物館を活用した学校教育プログラム研修会	荒木　隆（学芸員)	平成30年8月3日(金)	4

(ｹ) 実技講座

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
須賀川の絵のぼり・小旗をつくろう	大野　青峯・大野　久子（伝統技術保持者)	平成30年5月5日(土･祝)	8
「ヒロロでコースターをつくろう」会津・三島の編み組み細工	渡部　ユキ子・秦　愛子（三島町生活工芸館)	平成30年7月8日(日)	5
唐人和凧をつくろう	齋藤　誠一（伝統技術保持者)	平成30年7月28日(土)	13
縄文時代の編み物を再現しよう	本間　一恵（バスケタリー作家)	平成30年11月10日(土)	9
漆を楽しむワークショップ①　「漆絵を描こう」	会津漆器協同組合青年部	平成30年11月24日(土)	8
漆を楽しむワークショップ②「漆スプーンをつくろう」	会津漆器協同組合青年部	平成30年11月24日(土)	15

(ｺ) 実演

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
「大堀相馬焼の絵付け」	山田　慎一（いかりや商店白河工房)	平成30年7月1日(日)	32

(ｻ) 企画展関連行事（記念講演・シンポジウム・講座・展示解説会等)

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
特集展解説会「山口弥一郎の見た三陸津波」「古文書から見る災害」	震災遺産保全チーム担当学芸員	平成30年4月1日(日)	41

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
特集展解説会「震災遺産が語るコト」	震災遺産保全チーム担当学芸員	平成 30 年 4 月 7 日（土）	16
報道向内覧会（13 時 30 分～14 時） 友の会・関係者向内覧会（14 時～15 時）	内山　大介（学芸員）	平成 30 年 4 月 27 日（金）	56
企画展「匠のふるさと会津」展示解説会	内山　大介（学芸員）	平成 30 年 4 月 28 日（土）	5
企画展「匠のふるさと会津」展示解説会	内山　大介（学芸員）	平成30年4月29日（日・祝）	9
企画展「匠のふるさと会津」展示解説会	内山　大介（学芸員）	平成 30 年 5 月 6 日（日）	18
企画展「匠のふるさと会津」関連バスツアー	小澤　弘道（福島県民俗学会副会長） ・当館学芸員	平成 30 年 5 月 12 日（土）	22
企画展「匠のふるさと会津」展示解説会	内山　大介（学芸員）	平成 30 年 5 月 13 日（日）	4
企画展「匠のふるさと会津」記念講演会	宮内　貴久（お茶の水女子大学教授）	平成 30 年 5 月 20 日（日）	80
企画展「匠のふるさと会津」展示解説会	内山　大介（学芸員）	平成 30 年 5 月 26 日（土）	12
親子ものづくり木工体験	会津若松市建築業組合	平成 30 年 6 月 2 日（土）	130
企画展「匠のふるさと会津」 記念講演会「越後大工の会津への旅立ち」	中村　義隆（新潟郷土史研究会・ 新潟文化財鑑賞会顧問）	平成 30 年 6 月 16 日（土）	88
企画展「匠のふるさと会津」展示解説会	内山　大介（学芸員）	平成 30 年 6 月 24 日（日）	40
企画展「日本刀の魅力」開幕テープカット	—	平成 30 年 7 月 13 日（金）	88
展示解説会「刀剣展の見方・はじめの一歩（１）」	鴨木　年泰（東京都富士美術館）	平成 30 年 7 月 13 日（金）	102
刀剣リレートーク	渡邉　明（日本美術刀剣保存協会会 津支部長）	平成 30 年 7 月 14 日（土）	94
居合実演	福島県剣道連盟会津居合道部会	平成 30 年 7 月 15 日（日）	621
講演会「古刀再現―日本刀の心―」	藤安　将平（藤安将平鍛刀場）	平成 30 年 7 月 15 日（日）	192
体験「鎧を着て見る刀剣展」	YOROI 工房あいづ	平成 30 年 7 月 21 日（土）	31
「華麗なる島―会津出身の文化人・西川満が愛した 台湾、繋いだ日本」開幕式典	—	平成 30 年 7 月 22 日（日）	102
芸文交流台湾⇔会津プロジェクトフォーラム 「台湾と会津　西川満から現在まで」	西川　潤（早稲田大学名誉教授）・ 張良澤（真理大学・台湾）・渋川　恵 男（会津若松商工会議所会頭）	平成 30 年 7 月 22 日（日）	105
体験「鎧を着て見る刀剣展」	YOROI 工房あいづ	平成 30 年 7 月 29 日（日）	32
講演会「ふくしまの刀剣」	渡邉　明（日本美術刀剣保存協会会 津支部長）	平成 30 年 7 月 29 日（日）	75
シンポジウム「ふくしま刀剣自慢」	二上　文彦（南相馬市博物館当館学 芸員）、四家　久央（いわき市文化 財審議会委員）、吉田　陽一（二本 松市教育委員会文化課文化振興係主 査）、管野　和恵（須賀川市立博物 館当館学芸員）、内野　豊大（白河 市歴史民俗資料館学芸員）、中岡　進 （鶴ヶ城天守閣郷土博物館当館学芸 員）、平田　禎文（三春町歴史民俗 資料館当館学芸員）	平成 30 年 8 月 4 日（土）	76
居合実演	福島県剣道連盟会津居合道部会	平成 30 年 8 月 4 日（土）	429
居合実演	福島県剣道連盟会津居合道部会	平成 30 年 8 月 18 日（土）	704
展示解説会「刀剣展の見方・はじめの一歩（２）」	月山　貞伸（刀匠・月山日本刀鍛錬道場） 鴨木　年泰（東京富士美術館）	平成 30 年 8 月 19 日（日）	118
企画展「戊辰戦争 150 年」 オープニングセレモニー	—	平成 30 年 9 月 1 日（土）	53
企画展「戊辰戦争 150 年」解説会	歴史分野学芸員	平成 30 年 9 月 1 日（土）	53

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
企画展「戊辰戦争 150 年」解説会	歴史分野学芸員	平成 30 年 9 月 8 日(土)	67
企画展「戊辰戦争 150 年展」解説会	歴史分野学芸員	平成 30 年 9 月 15 日(土)	70
企画展「戊辰戦争 150 年」 記念講演会「戊辰内乱と「官軍」の創造」	宮間　純一（中央大学文学部准教授）	平成 30 年 9 月 16 日(日)	270
企画展「戊辰戦争 150 年」解説会	歴史分野学芸員	平成 30 年 9 月 22 日(土)	62
企画展「戊辰戦争 150 年」解説会	歴史分野学芸員	平成 30 年 9 月 23 日(日)	69
企画展「戊辰戦争 150 年」解説会	歴史分野学芸員	平成 30 年 9 月 24 日(月)	58
企画展「戊辰戦争 150 年展」 記念講演会「仙台藩と奥羽越列藩同盟」	水野　沙織（仙台市博物館）	平成 30 年 9 月 29 日(土)	240
企画展「戊辰戦争 150 年」解説会	歴史分野学芸員	平成 30 年 10 月 6 日(土)	71
企画展「戊辰戦争 150 年」解説会	歴史分野学芸員	平成 30 年 10 月 13 日(土)	90
企画展「戊辰戦争 150 年」 記念講演会「北越戊辰戦争と会津藩」	田邊　幹（新潟県立歴史博物館）	平成 30 年 10 月 14 日(日)	240
企画展「日本のわざと美」展示解説会	文化庁文化財調査官・文部科学技官	平成 30 年 10 月 27 日(土)	24
講演会「人間国宝とは何か？」	室瀬　和美（漆芸家・人間国宝）・ 佐々木正直（群馬県立館林美術館長）	平成 30 年 10 月 28 日(日)	80
芭蕉布の苧績み	喜如嘉の芭蕉布保存会のみなさん	平成30年11月3日(土･祝)	25
伝統工芸の技を体験１－芭蕉布の糸つくり	喜如嘉の芭蕉布保存会のみなさん	平成30年11月3日(土･祝)	4
企画展「日本のわざと美」展示解説会	文化庁文化財調査官・文部科学技官	平成 30 年 11 月 11 日(日)	48
伊勢型紙の彫り	伊勢型紙技術保存会のみなさん	平成 30 年 12 月 2 日(日)	48
伝統工芸の技を体験２－伊勢型紙で年賀状つくり	伊勢型紙技術保存会のみなさん	平成 30 年 12 月 2 日(日)	21
特集展「震災遺産を考える」展示解説会	震災遺産保全チーム担当学芸員	平成 31 年 2 月 16 日(土)	20
防災講座「楽しいそなえ」	震災遺産保全チーム担当学芸員	平成 31 年 2 月 16 日(土)	26
特集展「震災遺産を考える」展示解説会	震災遺産保全チーム担当学芸員	平成 31 年 2 月 21 日(木)	18
特集展「震災遺産を考える」展示解説会	震災遺産保全チーム担当学芸員	平成 31 年 2 月 23 日(土)	16
特集展「震災遺産を考える」展示解説会	震災遺産保全チーム担当学芸員	平成 31 年 3 月 9 日(土)	19
特集展「震災遺産を考える」展示解説会	震災遺産保全チーム担当学芸員	平成 31 年 3 月 10 日(日)	35
特集展「震災遺産を考える」展示解説会	震災遺産保全チーム担当学芸員	平成 31 年 3 月 11 日(月)	44
特集展「震災遺産を考える」展示解説会	震災遺産保全チーム担当学芸員	平成31年3月21日(木･祝)	11
ミニシンポジウム「震災を未来へ継承する」	森井　順之（文化庁文化財調査官） 佐藤　公（磐梯山噴火記念館） 杉崎　佐保惠（学芸員）	平成 31 年 3 月 23 日(土)	38
特集展「震災遺産を考える」展示解説会	震災遺産保全チーム担当学芸員	平成 31 年 3 月 30 日(土)	11

(ｼ) ミュージアムイベント

テーマ	出演・講師	期日	参加人数
玄如節と日本の民謡	玄如節顕彰会	平成 30 年 6 月 23 日(土)	100
けんぱく映画会「ハーメルン」	学芸員	平成30年7月16日(月･祝)	110
親子で探検！はくぶつかんのウラ側	学芸員	平成 30 年 8 月 14 日(火)	28
会津磐梯山市民盆踊り	会津磐梯山盆踊り保存会	平成 30 年 8 月 15 日(水)	70
ナイトミュージアム	学芸員	平成 30 年 8 月 18 日(土)	80
「Coderanni」コンサート	会津室内楽団アンサンブル 「Coderanni」	平成30年9月17日(月･祝)	241
クリスマスコンサート	SLIDE I’z（スライド　あいづ）	平成 30 年 12 月 16 日(日)	250
会津の彼岸獅子	本滝沢獅子舞保存会	平成 31 年 3 月 10 日(日)	173

(ｽ) 子育て世代対応事業

テーマ	講師	期日	参加人数
博物館でも読み聞かせ１	読み聞かせグループ	平成30年4月14日(土)	51
子供ミニミニ博物館	学芸員	平成30年4月28日(土) ～平成30年5月6日(日)	795
博物館でも読み聞かせ２	読み聞かせグループ	平成30年5月12日(土)	48
博物館でも読みきかせ３	読み聞かせグループ	平成30年6月9日(土)	20
博物館でも読みきかせ４	読み聞かせグループ	平成30年7月14日(土)	31
博物館でも読みきかせ５	読み聞かせグループ	平成30年8月11日(土)	35
子供ミニミニ博物館	学芸員	平成30年8月11日(土) ～平成30年8月19日(日)	1844
博物館でも読み聞かせ６	読み聞かせグループ	平成30年9月8日(土)	31
博物館でも読みきかせ７	読み聞かせグループ	平成30年10月13日(土)	24
子守唄コンサート	西舘　好子･西山　琴恵･逸見　良造 （NPO法人日本子守唄協会）	平成30年10月17日(水)	230
博物館でも読み聞かせ８	読み聞かせグループ	平成30年11月10日(土)	35
博物館でも読み聞かせ 会津短期大学バージョン①	会津短期大学幼児教育学科	平成30年12月22日(土)	4
博物館でも読み聞かせ 会津短期大学バージョン②	会津短期大学幼児教育学科	平成31年1月14日(月)	8

テーマ	講師	期日	参加人数
博物館でも読み聞かせ１	読み聞かせグループ	平成30年4月14日(土)	51
子供ミニミニ博物館	学芸員	平成30年4月28日(土) ～平成30年5月6日(日)	795
博物館でも読み聞かせ２	読み聞かせグループ	平成30年5月12日(土)	48
博物館でも読みきかせ３	読み聞かせグループ	平成30年6月9日(土)	20
博物館でも読みきかせ４	読み聞かせグループ	平成30年7月14日(土)	31
博物館でも読みきかせ５	読み聞かせグループ	平成30年8月11日(土)	35

(ｾ) ミュージアムエデュケーター事業

テーマ	講師	期日	参加人数
ハニワ大王のギャラリートーク（１） 「展示資料で見るふくしまの暮らし【着る】」	荒木　隆（学芸員）	平成30年4月8日(日)	13
ティータイム考古学　『考古学を読む』（１） 「紀元前後のボートピープル」	荒木　隆（学芸員）	平成30年4月22日(日)	17
ハニワ大王のギャラリートーク（２） 「展示資料で見るふくしまの暮らし【食べる】」	荒木　隆（学芸員）	平成30年5月4日(金･祝)	13
シリーズ　ふくしまの新しい古代像を考える　第１回 「東北地方から福島県が独立した！？－石城・石背国建国の背景－	荒木　隆（学芸員）	平成30年5月27日(日)	23
ハニワ大王のギャラリートーク（３） 「展示資料で見るふくしまの暮らし【住む】」	荒木　隆（学芸員）	平成30年6月10日(日)	14
ティータイム考古学　『考古学を読む』（２） 「象牙とハンコ」	荒木　隆（学芸員）	平成30年7月1日(日)	12
ハニワ大王のギャラリートーク（４） 「展示資料で見るふくしまの暮らし【乗る】」	荒木　隆（学芸員）	平成30年7月8日(日)	14
ティータイム考古学　『考古学を読む』（３） 「キモノと装身具」	荒木　隆（学芸員）	平成30年7月22日(日)	12
ハニワ大王のギャラリートーク（５） 「展示資料で見るふくしまの暮らし【学ぶ】」	荒木　隆（学芸員）	平成30年8月12日(日)	21
シリーズ　ふくしまの新しい古代像を考える　第２回 「蝦夷大反乱がふくしまに残したもの？－耶麻郡成立の背景－	荒木　隆（学芸員）	平成30年8月26日(日)	30

テーマ	講師	期日	参加人数
ハニワ大王のギャラリートーク（６） 「展示資料で見るふくしまの暮らし【生と死】」	荒木　隆（学芸員）	平成30年9月2日(日)	16
ハニワ大王のギャラリートーク（７） 「展示資料で見るふくしまの暮らし【願う】」	荒木　隆（学芸員）	平成30年10月21日(日)	16
ティータイム考古学　『考古学を読む』（４） 「わたしの茶碗・わたしの箸」	荒木　隆（学芸員）	平成30年10月28日(日)	15
ハニワ大王のギャラリートーク（８） 「展示資料で見るふくしまの暮らし【子ども】」	荒木　隆（学芸員）	平成30年11月11日(日)	13
シリーズ　ふくしまの新しい古代像を考える　第３回 「平安時代のふくしまでは貞観大地震をどう乗り越えたのか？ －貞観大地震復興政策としての寺院建立―」	荒木　隆（学芸員）	平成30年11月25日(日)	38
ハニワ大王のギャラリートーク（９） 「展示資料で見るふくしまの暮らし【道具】」	荒木　隆（学芸員）	平成30年12月9日(日)	8
ティータイム考古学　『考古学を読む』（５） 「世界最古のカードシステム」	荒木　隆（学芸員）	平成30年12月23日(日・祝)	13
ティータイム考古学　『考古学を読む』（６） 「大工道具からみた日本人」	荒木　隆（学芸員）	平成31年1月27日(日)	12
スーパー古事記　国のはじまり	荒木　隆（学芸員）	平成31年2月11日(月・祝)	43
ティータイム考古学　『考古学を読む』（７） 「道具の進歩と豊かさと」	荒木　隆（学芸員）	平成31年2月24日(日)	15

(ｿ) 共催事業

テーマ	主催	期日	参加人数
野外講座「高広山で化石をさがそう」	郡山市ふれあい科学館	平成30年5月27日(日)	34
spff サイエンス屋台村	ふくしまサイエンスぷらっとフォーム運営協議会	平成30年11月17日(土)	69
磐梯山噴火130周年記念講座 「磐梯山は生きている！！」	磐梯山噴火記念館	平成31年1月12日(土)	46

(ﾀ) 後援事業

テーマ	主催	講師・所属	期日	参加人数
「息の跡」上映会（震災関係映画上映会）	つなぐ舎	－	平成30年4月30日(月・振休)	75
平成30年度福島県民俗学会大会 （講演会・研究発表会）	福島県民俗学会	鈴木 昭英（日本宗教民俗学会顧問）・丹野 香須美（学会員）・山口 拡（学会員）	平成30年6月3日(日)	37
会津教育事務所 域内公立小中学校事務担当者会議	福島県教育委員会 （会津教育事務所）	－	平成30年6月12日(火)	102
会津漆器協同組合青年部主催講演会 「やればできるということ・髹漆人間国宝大西勲の世界」	会津漆器協同組合青年部	大西　勲（漆芸作家）	平成30年6月22日(金)	74
耶麻支部社会科部会研究会	中学校教育研修会	－	平成30年7月26日(木)	12
域内読書活動支援者育成事業 会津地区研修会	福島県教育委員会 （会津教育事務所）	－	平成30年7月31日(火)	72
歴史と夢まちづくりフォーラム	会津若松市	－	平成30年9月14日(金)	50
地球を結ぶアートプロジェクト ミクロの化石からアートへ～太古の福島を感じてみよう～	特定非営利活動法人 Wunderground	竹谷 陽二郎（元福島県立博物館学芸員）・君平（成安造形大学准教授）	平成30年9月22日(土)	9
仏都会津の魅力をさぐるセミナー① 「奈良からみる仏都会津の魅力」	会津と奈良いにしえの絆継承委員会	高次　喜勝（法相寺宗別格本山副住職）	平成30年10月4日(木)	57

テーマ	主催	講師・所属	期日	参加人数
仏都会津の魅力をさぐるセミナー② 「会津の仏像の魅力」	会津と奈良いにしえの絆継承委員会	塚本　麻衣子（学芸員）	平成30年10月10日(水)	71
少庵を語る麟閣千風会茶会講演会	千風会	熊倉　功夫 （MIHO MUSEUM 館長）	平成30年10月20日(土)	183
仏都会津の魅力をさぐるセミナー③ 「会津の仏像の魅力」	会津と奈良いにしえの絆継承委員会	志村 和子（元会津まほろば里人の会）・白岩 孝一（徳一菩薩に学ぶ会）	平成30年11月13日(火)	96
あいづわくわく学園専攻課程講座 「会津史序章（会津の古代）」	あいづわくわく学園（会津若松市高齢福祉課）	―	平成30年11月13日(火)	23
「日本遺産会津地域観光アドバイザー」認定講習会	極上の会津プロジェクト協議会	塚本　麻衣子（学芸員）	平成30年11月20日(火)	60
会津史談会文化史講座 「民具と民芸のあいだ」	会津史談会	山口　拡（学芸員）	平成30年11月22日(木)	56
第15回五色百人一首福島県大会	TOSS 五色百人一首福島県協会	―	平成30年12月1日(土)	85
会津三十三観音　会津地域観光アドバイザー認定講習会　第２回	極上の会津プロジェクト協議会	本田　勝之助（日本遺産プロデューサー）・塚本　麻衣子（学芸員）	平成31年1月22日(火)	110
フォーラム　語り継ぐために	ライフミュージアムネットワーク	―	平成31年2月3日(日)	23
「土湯温泉は海の中だった～土湯で発見されたパレオパラドキシアの世界へワープ～」	土湯温泉観光協会	木村　由莉（国立科学博物館）・松井　久美子（九州大学大学院）	平成31年2月26日(火)	50
会津民俗研究会公開講座	会津民俗研究会	酒井　浩哉（会員）・滝沢　洋之（会長）	平成31年3月1日(金)	88
3.11追悼復興祈念行事in会津 ８年前のあの日に祈りをこめて	会津地方振興局	大熊町立熊町・大野小学校、大熊中学校、福島県立大沼高等学校演劇部、会津若松市立第四中学校合唱部	平成31年3月9日(土)	72
木ロボくんを作ろう！	会津大学短期大学部幼児教育学科	葉山　亮三（会津大学短期大学部幼児教育学科講師）	平成31年3月31日(日)	23

(ﾁ) 企画展・特集展内覧会等（友の会）

テーマ	主催	講師・所属等	期日	参加人数
化石鉱物探険隊成果展解説会	友の会	化石鉱物探険隊	平成30年7月25日(水)	25
化石鉱物探険隊成果展解説会	友の会	化石鉱物探険隊	平成30年8月5日(日)	177
化石鉱物探険隊成果展解説会	友の会	化石鉱物探険隊	平成30年8月12日(日)	342
化石鉱物探険隊成果展解説会	友の会	化石鉱物探険隊	平成30年8月14日(火)	191
化石鉱物探険隊成果展解説会	友の会	化石鉱物探険隊	平成30年8月15日(水)	200
化石鉱物探険隊成果展解説会	友の会	化石鉱物探険隊	平成30年8月18日(土)	258
企画展「日本のわざと美」展内覧会	福島県立博物館	美術分野学芸員	平成30年10月26日(金)	30
福島県立博物館友の会創立30周年記念行事	友の会	星　亮一（歴史小説家）	平成30年11月4日(日)	220
友の会総会	友の会	―	平成31年3月16日(土)	52
化石鉱物探険隊成果展解説会	友の会	化石鉱物探険隊	平成30年7月25日(水)	25

⑵ 学校・文化施設との連携

県内外の学校団体や文化施設主催団体が訪れた際の学習効果をさらに高めるため学習支援プログラムを開発し本格始動した。学習支援班が電話の受付を担当し、各団体からの相談対応をしながら、目的ニーズに応じた効果的な学習プログラムをプロデュースした。

ア　展示室における学習プログラム

常設展示室における児童・生徒の学習活動が有意義なものとなるように、事前相談を充実させた。さらに発達段階や見学の目的などに応じた内容で、講堂や展示室等で具体的なレクチャーをおこなった。特に平成 30 年度は未就学児対応のプログラムも開発した。学習プログラムは、実施学校団体には大変好評であった。

(ア) 博物館見学のしおり（小・中学生用）

常設展示室の展示資料を見る際のポイントがわかりやすくなるように、設問形式で解答を書き込みながら学べるように構成した。児童・生徒は、自分のペースで見学をし、自由に考察を深めることができる。しおりは博物館ホームページからダウンロードできる。また、すべての漢字にルビがふられているので、留学生も活用している。

(イ) 学習プログラム（レクチャー・体験学習プログラム）

小学校高学年から中学生向けに作成し､常設展示を構成する６つの大テーマに沿って､展示室内の主要な資料を 12 の題材に分けて取り上げている。当館ホームページから学習の目的に応じて選択しダウンロードすることによって、有効に利用できる。また、小学校低学年向けには「展示室探検ビンゴ」で展示室を楽しみながら見学できる。

イ　団体体験学習プログラム

学校団体のニーズに応じたきめ細かい事前相談をはじめ、日常の授業と博物館の見学を効果的に結び付けられるような活動メニューなど、これまで以上に事業に役立つ内容を用意し、対応している。また、児童・生徒が博物館の資料を用いながら体験学習をすることは、多様なものの見方や考え方を育む上で有効である。事前申込制で「原始・古代のワザに挑戦（考古分野）」「化石にふれてみよう（自然分野）」「紙すきハガキづくり（民俗分野）」「昔の道具体験（民俗分野）」「度量衡の統一と農民のくらし（歴史分野）」の５つの体験学習プログラムを準備している。特に、「昔の道具体験」は小学校３年生の授業と連動した内容となっており、昨年度より実施回数、人数とも増加し、学習効果を高めている。

ウ　指導者向け研修

学校教育・生涯教育関係者を対象に博物館利用指導者研修会を実施している。団体体験学習プログラムを実際に体験してもらうことにより、当館の学習支援活動への理解を深め、学校や公民館の諸活動における活用の推進を図っている。平成 30 年度は団体活用プログラムの概要を活用実績校からみたおすすめプランを紹介した。平成 30 年８月３日(金)に４名の参加者による実施となった。

エ　学習用具・教材等の貸出

学校での授業づくりや生涯教育関連施設における活動等を支援するため、考古・歴史・民俗・自然の各分野で学習用具・教材等の貸出を行っている。

学習用具・教材等の貸出実績はなかった。

オ　ゲストティーチャー

当館学芸員がもつ専門知識や経験を館外で有効に活用してもらうため、学校等教育機関の要請に応じて現地に赴き、体験学習や講話を中心とした授業を担当している。

(ア) 平成30年度学習プログラム（レクチャー・体験学習プログラム）実施状況

月日	団体名	人数	滞在時間(分)	内容
4 月 19 日(木)	会津若松市立大戸小学校（6 年）	10	90	大戸の昔をさわってみよう（40 分）
4 月 20 日(金)	会津若松私立城西小学校（6 年）	100	90	会津の歴史（30 分）
4 月 24 日(火)	会津美里町立新鶴小学校（6 年）	37	90	会津の歴史（40 分）
4 月 24 日(火)	喜多方市立上三宮小学校（5､6 年）	12	60	会津の歴史（30 分）
4 月 25 日(水)	猪苗代町立緑小学校（6 年）	7	75	猪苗代の歴史と大塚山古墳（30 分）
4 月 26 日(木)	会津若松市立一箕小学校（6 年）	112	120	一箕地区の秘法を探せ（45 分）
4 月 26 日(木)	会津若松市立日新小学校（6 年）	65	60	会津の歴史（30 分）
4 月 26 日(木)	猪苗代町立翁島小学校（6 年）	7	120	火おこし体験、保科正之、天鏡閣、見祢の大石（35 分）
4 月 26 日(木)	北塩原村立第一中学校（1 年）	16	120	勾玉つくり体験（60 分）北塩原村立の歴史（30 分）
4 月 27 日(金)	会津美里町立宮川小学校（2 年）	85	60	部門展示室　フタバスズキリュウの解説（25 分）×3
4 月 27 日(金)	猪苗代町立千里小学校（6 年）	26	70	猪苗代の歴史と大塚山の古墳（35 分）
5 月 2 日(水)	会津若松市立湊小学校（6 年）	11	130	常設展にて縄文・弥生時代の人々の暮らし（30 分）
5 月 2 日(水)	喜多方市立山都小学校（6 年）	18	120	匠のふるさと会津　解説（30 分）

月日	団体名	人数	滞在時間(分)	内容
5月2日(水)	福島市立蓬莱中学校（1年）	99	120	福島市の歴史（30分）
5月8日(火)	会津坂下町立坂下南小学校（6年）	79	70	会津坂下町の歴史（30分）
5月9日(水)	伊達市立粟野小学校（6年）	29	90	火おこし体験（50分）
5月9日(水)	会津若松市立荒舘小学校（1･2年）	97	60	フタバスズキリュウの秘密・匠にふるさと会津の解説（40分）
5月10日(木)	家庭教育放送セミナー	10	45	匠のふるさと会津の解説（45分）
5月10日(木)	西会津町立西会津小学校（3年）	42	60	フタバスズキリュウの秘密・常設展動物を探そう（40分）
5月11日(金)	大熊町立大熊小学校（6年）	9	90	大熊町の歴史（30分）
5月18日(金)	会津若松市立第二こども園（年長）	64	60	フタバスズキリュウの秘密・昔の遊び（60分）
5月18日(金)	会津若松市立門田小学校（2年）	65	135	フタバスズキリュウの秘密・匠のふるさと会津の解説 常設展動物を探そう（120分）
5月20日(日)	昭和村公民館	5	120	匠のふるさと会津の解説（45分）
5月24日(木)	会津若松市立行仁小学校（2年）	51	90	フタバスズキリュウの秘密・常設展動物を探そう（40分）
5月25日(金)	会津若松市立城南小学校（2年）	74	120	昔の洗濯体験・フタバスズキリュウの秘密（100分）
5月25日(金)	会津美里町立本郷小学校（2年）	36	60	フタバスズキリュウの秘密（25分）×2回
5月29日(火)	会津工業高等学校建築インテリア科（3年）	42	90	匠のふるさと会津の解説（60分）
5月30日(水)	会津工業高等学校建築インテリア科（1年）	46	90	匠のふるさと会津の解説（60分）
5月30日(水)	会津工業高等学校建築インテリア科（2年）	43	90	匠のふるさと会津の解説（60分）
5月31日(木)	会津若松市立東山小学校（1年）	38	60	フタバスズキリュウの秘密・常設展動物を探そう（30分）
5月31日(木)	猪苗代町立猪苗代小学校（6年）	53	90	猪苗代の歴史（40分）
5月31日(木)	磐梯町立磐梯第二小学校（1・2年）	21	110	フタバスズキリュウの秘密・常設展動物を探そう（40分）
6月1日(金)	下郷町立江川小学校（1・2・3年）	37	60	フタバスズキリュウの秘密・大昔の人の暮らし（45分）
6月5日(火)	会津美里町立高田小学校（6年）	51	90	会津の歴史（40分）
6月6日(水)	会津若松市立第一中学校美術部	30	120	会津漆器の工程解説・企画展常設展資料のスケッチ（120分）
6月7日(木)	喜多方市　天心ケアハイツ（在宅介護支援センター）	30	60	企画展「匠のふるさと会津」解説（40分）
6月7日(木)	県立博物館屋根改修工事工法選定委員会委員	4	40	企画展「匠のふるさと会津」解説（40分）
6月9日(土)	会津若松市立城北小学校2年ＰＴＡ学年行事	100	120	常設展オリジナル問題作成 親子でといてみよう（40分）×2
6月9日(土)	福島大学生	12	60	企画展「匠のふるさと会津」（40分）バックヤード
6月12日(火)	域内公立小中学校事務担当者会議	132	150	学校利用の紹介（30分）
6月13日(水)	郡山市立田母神小学校（6年）	13		企画展「匠のふるさと会津」解説（20分）
6月14日(木)	いわき市立夏井小学校（5年）	25	90	福島の古墳時代を知る（40分） 企画展「匠のふるさと会津」解説（15分）
6月15日(金)	郡山市立行徳小学校（6年）	52	60	福島のむかし　大塚山古墳・安積疎水開拓事業について（30分）
6月16日(土)	昭和公民館	9	240	企画展講演会参加（90分） 企画展「匠のふるさと会津」解説（60分）常設展自由見学
6月16日(土)	長岡市文書資料室員	2	40	企画展「匠のふるさと会津」解説（40分）
6月17日(日)	会津共同高等職業訓練校	10	60	企画展「匠のふるさと会津」解説（50分）
6月20日(水)	郡山市立行健第二小学校（6年）	92	100	化石にふれてみよう（30分）×3回
6月20日(水)	福島市立鎌田小学校（6年）	100	75	福島市の縄文～古墳時代（30分）常設展にて→磐梯山噴火・縄文時代・第2次世界大戦について（15分）ずつ

月日	団体名	人数	滞在時間(分)	内容
6月21日(木)	会津柳津学園中学校（1年）	5	30	自然部門展示室解説（30分）
6月21日(木)	田村市立常葉小学校（6年）	24	60	常設展通し解説（30分）
6月21日(木)	田村市立瀬川小学校（6年）	14	60	船引町の歴史（30分）
6月21日(木)	田村市立船引小学校（6年）	105	60	船引町の歴史（30分）
6月22日(金)	喜多方市立駒方公民館	21	120	企画展「匠のふるさと会津」解説（60分）
6月22日(金)	石川町文化協会	40	60	企画展「匠のふるさと会津」解説（40分）
6月24日(日)	一箕公民館	19	180	会津の古墳について（30分）常設展通し解説（30分）勾玉作り（80分）
6月26日(火)	会津若松市立城北小学校（6年）	60	78	会津の歴史　講話（30分）
6月27日(水)	会津若松市立一箕小学校	38	60	大塚山古墳探検　講話（40分） 常設展見学ワンポイント解説（15分）
6月27日(水)	会津美里町立本郷中学校	3	60	常設展通し解説（30分）
6月29日(金)	天栄村立湯本小学校	12	40	常設展　天栄村の資料解説（30分）
7月4日(水)	桑折町立醸芳小学校	58	90	常設展通し解説　3班にわかれて(30分×3)
7月13日(金)	会津ザベリオ学園こども園	32	90	常設展「動物を探そう」（25分）部門展示室「フタバスズキリュウのふしぎ」（25分）体験学習室「昔のあそび」
7月21日(土)	会津坂下町立坂下東小学校5年ＰＴＡ学年行事	80	60	通し解説（30分）×2回　親子で協力常設展を見学しながら問題を解いていおこう（25分）×2回
7月26日(木)	耶麻両沼中教研社会科部会	15	90	県立博物館を利用した新しい社会のあり方　説明（60分）、総合展示室の資料の解説と見学（30分）企画展「美しき刃たち」見学
8月2日(木)	福島市　吾妻学習センター	11	60	常設展　通し解説（30分）
8月8日(水)	伊達市小学校夏休み史跡体験学習	110	75	3～6年講話「会津と戊辰戦争」（30分）　1.2年生常設展「動物探し」（30分）部門展示室「フタバスズキリュウ」解説
8月10日(金)	二本松市　あだちチャレンジ教室体験事業	34	50	常設展　通し解説（30分）
8月21日(火)	西七日町児童館	12	150	勾玉の解説と勾玉づくり（90分）　常設展見学・体験学習室「昔のあそび」体験
8月24日(金)	白河高・旭高・白河実業高校	11	60	常設展通し解説（30分）
9月5日(水)	郡山市　久留米公民館	30	60	企画展「戊辰戦争150年」解説（60分）
9月6日(木)	梁川町梁川町郷土史研究会	20	60	企画展「戊辰戦争150年」」解説（40分）
9月7日(金)	喜多方市　のびやか保育園	22	90	常設展「動物探し」（20分）部門展示室「フタバスズキリュウをみよう」（20分）
9月7日(金)	須賀川市立柏城小学校（4年）	79	70	常設展　通し解説（30分）×2回
9月7日(金)	梁川町郷土史研究会	60	20	企画展「戊辰戦争150年」解説（60分）
9月13日(木)	大阪市関西福島県人会	11	65	企画展「戊辰戦争150年」解説（30分）
9月15日(土)	喜多方市高郷公民館（小学生）	19	60	常設展　ハイライトツアー参加（30分）
9月20日(木)	大玉村立大山小学校（6年）	45	60	企画展「戊辰戦争150年」解説（30分）
9月21日(金)	いわき市立草野小学校（6年）	60	30	講話「いわきの古墳時代」（30分）
9月28日(金)	いわき市立中央台北小学校（6年）	64	60	展示室通し解説（30分）×2回
9月28日(金)	郡山支援学校	18	60	企画展「戊辰戦争150年」解説　常設展自由見学 体験学習室「昔のおもちゃ」「パズル」体験　＊生徒の実態に応じて見学や体験をしていただいた。
9月28日(金)	須賀川市　東公民館	30	120	紙すき体験（45分）×2回
9月28日(金)	須賀川市立大森小学校（6年）	16	60	常設展解説（40分）

月日	団体名	人数	滞在時間（分）	内容
10月2日(火)	宮城県東北電力　本店電友会	65	60	企画展「戊辰戦争150年」解説（30分）×2回
10月2日(火)	常磐交通観光	40	60	企画展「戊辰戦争150年」解説（30分）×2回
10月4日(木)	会津若松市　どんぐり山子ども園	90	25	企画展「白虎隊について解説（20分）
10月6日(土)	コープあいづ	20	60	企画展「戊辰戦争150年」解説(60分)
10月10日(水)	会津坂下町　中央公民館	29	60	企画展「戊辰戦争150年」解説（60分）
10月10日(水)	清水元気会（高齢者）	20	60	企画展「戊辰戦争150年」（60分）
10月11日(木)	河東第三幼稚園（年長）	23	60	部門展示室「フタバスズキリュウをみよう」（20分） 常設展「動物をさがしてみよう」（20分）
10月11日(木)	会津報徳保育園（年長）	24	90	部門展示室「フタバスズキリュウをみよう」（20分） 常設展「動物を探してみよう」（20分）
10月25日(木)	泉崎村立泉崎第二小学校（6年）	28	90	常設展通し解説（30分）
10月25日(木)	湯川村立笈川小学校（6年）	16	90	体験学習「化石にさわろう」（40分）常設展通し解説（50分）
11月6日(火)	会津若松市立永和小学校（6年）	18	90	講話「会津の偉人について」（20分）常設展通し解説(30分)
11月8日(木)	福島市新陵学習センター（高齢者）	15	90	常設展　解説（45分）
11月8日(木)	福島市立北沢又小学校（6年）	74	60	常設展通し解説（30分）×2回　企画展示室見学
11月17日(土)	茨城キリスト教大学（1年）	27	120	バックヤード案内（45分）
11月20日(火)	二本松市立二本松南小学校（6年）	52	120	常設展　通し解説（30分）×2回 企画展「日本のわざと美」解説（55分）
11月27日(火)	喜多方市立第三小学校（6年）	16	120	体験学習「勾玉つくり」（60分）
11月30日(金)	全国高等学校自動車科担当者会議（教員）	100	90	企画展「日本のわざと美」解説（35分）
12月6日(木)	経済同友会	15	80	常設展「近現代」解説（20分）
12月7日(金)	柳津町立柳津小学校（6年）	30	90	部門展示室「化石と鉱物」（15分）常設展通し解説（30分）
12月20日(木)	会津若松市立城南小学校（3年）	65	90	２組に分かれて活動～体験学習「昔の道具」（45分）×2回 部門展示室「囲炉裏まわりの道具たち」解説・体験学習室「昔のあかり」体験･「囲炉裏の生活」解説（45分）×2回
12月27日(木)	県立川口高等学校（1年）	5	120	常設展通し解説（30分）　バックヤードツアー（60分）
1月16日(水)	会津若松市立湊小学校（3年）	11	110	体験学習「昔の道具」（45分） 部門展示室「囲炉裏まわりの道具たち」解説・体験学習室「昔のあかり」体験・「囲炉裏の生活」解説（45分）
1月18日(金)	会津若松市立翁島小学校（3年）	12	70	体験学習「昔の道具」（40分） 部門展示室「囲炉裏まわりの道具たち」解説・体験学習室「昔のあかり」体験・「囲炉裏の生活」解説（30分）
1月19日(土)	日立市立大久保中学校（1年）	172	60	防災教室（30分）
1月22日(火)	福島市　桃林会ＯＢ会（高齢者）	30	50	常設展通し解説（30分）
1月23日(水)	会津若松市立東山小学校（3年）	55	90	２組に分かれて活動～体験学習「昔の道具」（45分）×2回 部門展示室「囲炉裏まわりの道具たち」解説・体験学習室「昔のあかり」体験･「囲炉裏の生活」解説（45分）×2回
1月30日(水)	会津若松市立大戸小学校	6	90	体験学習「昔の道具」（45分） 部門展示室「囲炉裏まわりの道具たち」解説・体験学習室「昔のあかり」体験・「囲炉裏の生活」解説（45分）
1月30日(水)	大熊町立熊町小学校（3年）	4	90	体験学習「昔の道具」（45分） 部門展示室「囲炉裏まわりの道具たち」解説・体験学習室「昔のあかり」体験・「囲炉裏の生活」解説（45分）

月日	団体名	人数	滞在時間 （分）	内容
1月31日(木)	会津若松市立川南小学校（3年）	19	120	体験学習「昔の道具」（45分） 部門展示室「囲炉裏まわりの道具たち」解説・体験学習室「昔のあかり」体験・「囲炉裏の生活」解説・「昔のあそび」体験（75分）
2月5日(火)	会津若松市立鶴城小学校（3年）	51	90	２組に分かれて活動～体験学習「昔の道具」（45分）×2回 部門展示室「囲炉裏まわりの道具たち」解説・体験学習室「昔のあかり」体験･「囲炉裏の生活」解説（45分）×2回
2月9日(土)	日立市立日高中学校（1年）	125	50	常設展通し解説（30分）×３回
2月13日(水)	会津若松市立河東学園小学校（3年） 1・2組	48	140	時間をずらし来館　2組に分かれて活動～ 体験学習「昔の道具」（45分）×2回 部門展示室「囲炉裏まわりの道具たち」解説・体験学習室「昔のあかり」体験･「囲炉裏の生活」解説（45分）×2回
2月14日(木)	会津若松市立河東学園小学校（3年） 3組	25	90	体験学習「昔の道具」（45分） 部門展示室「囲炉裏まわりの道具たち」解説・体験学習室「昔のあかり」体験・「囲炉裏の生活」解説（45分）
2月15日(金)	会津ザベリオ学園小学校（3年）	23	105	体験学習「昔の道具」（60分） 部門展示室「囲炉裏まわりの道具たち」解説・体験学習室「昔のあかり」体験・「囲炉裏の生活」解説（45分）
2月22日(金)	会津若松市立勤教小学校（3年）	54	120	2組に分かれて活動～体験学習「昔の道具」（60分）×2回 部門展示室「囲炉裏まわりの道具たち」解説・体験学習室「昔のあかり」体験･「囲炉裏の生活」解説（60分）×2回
2月27日(水)	会津若松市立行仁小学校（3年）	45	120	2組に分かれて活動～体験学習「昔の道具」（60分）×2回 部門展示室「囲炉裏まわりの道具たち」解説・体験学習室「昔のあかり」体験･「囲炉裏の生活」解説（60分）×2回
2月28日(金)	会津若松市立城北小学校（3年）	49	120	2組に分かれて活動～体験学習「昔の道具」（60分）×2回 部門展示室「囲炉裏まわりの道具たち」解説・体験学習室「昔のあかり」体験･「囲炉裏の生活」解説（60分）×2回
3月28日(木)	埼玉県三郷市教育委員会主催 リーダー講習会（小学校～高校）	53	120	講座「避難所でできること」（50分）　常設展通し解説（30分）×2回　特集展解説（30分）×2回

(ｲ) 平成30年度　博物館を活用した学校教育プログラム研修会

時間	内容	場所
10時～10時10分	開講式・オリエンテーション	視聴覚室
10時10分～10時30分	研修1「当館の学校団体活用プログラムの概要」	視聴覚室
10時30分～11時30分	研修2「教科書分析/発掘調査成果からの補足」	視聴覚室
11時30分～12時	研修3「展示資料の活用ポイント」	展示室
	－昼 食－	
13時～13時45分	研修4「児童対象プログラム体験」【見学導入授業：福島県の弥生時代を調べてみよう】	視聴覚室
13時55分～15時25分	研修5「体験学習メニューの実際：石包丁つくり」	実習室
15時25分～15時50分	博物館活用に関する意見交換	実習室
15時50分～16時	閉講式・修了証授与	実習室

定員30名

(ｳ) ゲストティーチャー実施一覧

月　日	講　師	分野	内　容	実施先	科目
4月19日(木)	猪瀬　弘瑛 杉崎　佐保恵 筑波　匡介 高橋　満 高橋　充	合同	震災遺産・化石等観覧支援ソフトの開発演習	会津大学	会津大学ソフトウェアスタジオ
5月10日(木)	猪瀬　弘瑛 杉崎　佐保恵 筑波　匡介 高橋　充	合同	震災遺産・化石等観覧支援ソフトの開発演習	会津大学	会津大学ソフトウェアスタジオ
5月24日(木)	猪瀬　弘瑛 高橋　充	合同	震災遺産・化石等観覧支援ソフトの開発演習	会津大学	会津大学ソフトウェアスタジオ
5月31日(木)	高橋　満 筑波　匡介 高橋　充	合同	震災遺産・化石等観覧支援ソフトの開発演習	会津大学	会津大学ソフトウェアスタジオ
6月14日(木)	猪瀬　弘瑛 高橋　充	合同	震災遺産・化石等観覧支援ソフトの開発演習	会津大学	会津大学ソフトウェアスタジオ
6月28(木)日	小林　めぐみ	美術	会津の漆器・本郷焼	会津学鳳中学校	総合
6月28日(木)	猪瀬　弘瑛 筑波　匡介 高橋　充	合同	震災遺産・化石等観覧支援ソフトの開発演習	会津大学	会津大学ソフトウェアスタジオ
7月19日(木)	猪瀬　弘瑛 高橋　充	合同	震災遺産・化石等観覧支援ソフトの開発演習	会津大学	会津大学ソフトウェアスタジオ
9月11日(火)	内山　大介 大里　正樹	民俗	博物館実習	福島大学	博物館資料論
9月26日(水)	高橋　充	歴史	ガイダンス	福島県立医科大学	芸術と文化
10月3日(水)	高橋　満	震災	モノからコトへ～震災遺産を考える	福島県立医科大学	芸術と文化
10月6日(土)	田中　伸一 筑波　匡介	震災	被災地へのフィールドワーク	会津高等学校	総合
10月10日(水)	内山　大介	民俗	医療と民俗Ⅰ妊娠と出産	福島県立医科大学	芸術と文化
10月14日(日)	大里　正樹 田中　伸一 筑波　匡介	震災	若商祭「あの日を忘れない2018」	若松商業高等学校	行事
10月24日(水)	内山　大介	民俗	医療と民俗Ⅱ死と葬送	福島県立医科大学	芸術と文化
10月31日(水)	猪瀬　弘瑛	自然	化石の宝庫・福島県Ⅰ	福島県立医科大学	芸術と文化
11月1日(木)	内山　大介	民俗	民俗資料と博物館	福島大学	博物館資料論
11月14日(水)	猪瀬　弘瑛	自然	化石の宝庫・福島県Ⅱ	福島県立医科大学	芸術と文化
11月29日(木)	相田　優	自然	博物館資料としての自然史資料	福島大学	博物館資料論
11月21日(水)	塚本　麻衣子	美術	福島の仏教美術－祈りの形－	福島県立医科大学	芸術と文化
11月28日(水)	高橋　満	考古	縄文と弥生	福島県立医科大学	芸術と文化
12月5日(水)	高橋　充	歴史	伊達政宗からの手紙	福島県立医科大学	芸術と文化

カ　職場体験

児童・生徒の進路意識の向上や職業観・勤労観の育成に寄与すべく、職場体験を受け入れている。平成30年度は3校からの要請があり、当館における業務を幅広く体験してもらった。

○職場体験受け入れ実績（児童・生徒のみ）

・会津若松市立第四中学校
（２年生：４名）　２日間
・会津若松市立第一中学校
（２年生：２名）　２日間
・三島町立三島中学校
（２年生：１名）　２日間

キ　博物館実習

学芸員資格取得のための博物館実習を実施している。

平成30年度は県内出身および県内大学に在学する学生11名を受け入れた。演習「震災遺産を考える　－東京セッションー」では、グループでテーマを決め、東京で震災や震災遺産についての説明やプレゼンテーションを実施することを想定して、各グループで発表したのち積極的な意見交換を行うことができた。

実習期間　平成30年９月４日(火)～９日(日)

⑶　生涯学習・研究支援

ア　相談コーナー

エントランスホール内に配置された無料空間。展示図録・報告書・紀要など博物館の刊行物、および博物館資料に関連した図書を配架。図書は図鑑・事典類、調べ学習への対応、見て楽しむ本の３項目を重視して選定し、入館者が自由に閲覧できる。現在の配架図書数は 2,686 冊である。

相談コーナーは、入館者の展示や資料に関する質問や相談の求めに応じて、入館者と学芸員が面談する場としても利用される。

イ　資料の特別観覧

個人や研究機関による研究活動を支援するため、博物館資料の閲覧や撮影を許可し、実施している。

分野別特別観覧件数

考古：11件874点　歴史：15件47点　美術：２件５点

民俗：８件89点　自然：１件２点　計37件1,017点

ウ　講師派遣

大学や公民館、研究団体などからの依頼に応じて、学芸員を講演会や講座に講師として派遣している。

平成30年度の派遣回数は34回であった。

(ｱ)　実習生所属大学一覧

No	大学名	人数
1	岩手大学	1
2	駒澤大学	1
3	千葉科学大学	2
4	東北芸術工科大学	1
5	新潟大学	1
6	宮城学院女子大学	1
7	八洲学園大学	1
8	山形県立米沢女子短期大学	3
	合　計	11

(ｲ)　福島県立博物館　平成30年度博物館実習日程・内容

月日	時　間	内　容	担　当	場　所
9月4日(火)	8時50分～9時	出席確認・諸連絡	学習支援班	第２会議室
	9時～9時10分	実習生紹介	学習支援班	事務室
	9時10分～9時50分	オリエンテーション	学習支援班	第２会議室
	10時～12時	事業の概要・館内施設見学	学芸課長・震災遺産保全チーム・学習支援班	視聴覚室・管理棟
	ー昼 食ー			
	13時～13時30分	博物館の資料と調査研究	資料整理・保存班	第２会議室
	13時30分～14時	博物館の広報普及活動	広報班	第２会議室
	14時～14時30分	博物館の展示	展示・企画班	第２会議室
	14時40分～16時	常設展・企画展の自由見学	学習支援班	展示室
	16時10分～17時	実習日誌の作成・提出	学習支援班	第２会議室
5日(水)	8時50分～9時	出席確認・諸連絡	学習支援班	第２会議室
	9時10分～12時	歴史資料の取り扱い	歴史分野	第２会議室
	ー昼 食ー			
	13時～15時50分	民俗資料の取り扱い	民俗分野	第１収蔵庫ほか
	16時～16時30分	図書資料の整理・登録	資料整理・保存班	図書室
	16時30分～17時	実習日誌の作成提出	学習支援班	第２会議室
6日(木)	8時50分～9時	出席確認・諸連絡	学習支援班	第２会議室
	9時10分～12時	美術資料の取り扱い	美術分野	第２会議室
	ー昼 食ー			
	13時～15時50分	考古資料の取り扱い	考古分野	実習室・第２収蔵庫
	16時～16時30分	図書資料の整理・登録	資料整理・保存班	図書室
	16時30分～17時	実習日誌の作成提出	学習支援班	第２会議室

月日	時　　間	内　　　容	担　　　当	場　　所
7日（金）	8時50分～9時	出席確認・諸連絡	学習支援班	第２会議室
	9時10分～12時	自然資料の取り扱い	自然分野	実習室
	－昼 食－			
	13時～15時	資料の保存	保存科学分野・資料班	第５収蔵庫ほか
	15時10分～16時30分	震災遺産について	震災遺産保全チーム	図書室
	16時30分～17時	実習日誌の作成提出	学習支援班	第２会議室
8日（土）	8時50分～9時	出席確認・諸連絡	学習支援班	第２会議室
	9時10分～12時	演習①震災遺産を考える企画立案	学習支援班	実習室
	－昼 食－			
	13時～16時20分	演習②震災遺産を考える企画立案	学習支援班	実習室
	16時30分～17時	実習日誌の作成・提出	学習支援班	第２会議室
9日（日）	8時50分～9時	出席確認・諸連絡	学習支援班	第２会議室
	9時10分～12時	演習③震災遺産を考える発表準備	学習支援班	実習室
	－昼 食－			
	13時～15時50分	演習④震災遺産を考える発表・意見交換	学習支援班	実習室
	16時～16時30分	実習を終えて（感想・意見交換）	学習支援班	第２会議室
	16時30分～17時	実習日誌の作成・提出	学習支援班	第２会議室

(ｳ) 講師派遣一覧

No.	月　日	講　師	分野	演　題　・　内　容 等	主　催
1	5月30日(水)	塚本　麻衣子	美術	仏像の観方と会津の仏像	喜多方市中央公民館
2	6月 5日(火)	高橋　充	歴史	会津三十三観音と御詠歌	西会津町公民館
3	6月19日(火)	荒木　隆	学習支援	博物館を活用した社会科授業の方法	福島県教育センター
4	6月22日(金)	高橋　充	歴史	戊辰戦争のいろは	会津美里町公民館
5	7月16日(月)	荒木　隆	考古	福島の古代寺院～西原廃寺を中心に～	じょうもぴあ宮畑
6	7月18日(水)	田中　伸一	歴史	社会福祉の母　瓜生岩子	福島愛育園
7	9月 6日(木)	荒木　隆	学習支援	子どもたちの学びを支える博物館活動	東北歴史博物館
8	9月18日(火)	荒木　隆	学習支援	博物館を活用した小学校社会科の進め方	福島県教育センター
9	9月19日(水)	阿部　綾子	歴史	戊辰戦争と語り	会津若松観光ビューロー
10	9月29日(土)	荒木　隆	考古	上人壇廃寺の秘密を探ろう	須賀川市教育委員会
11	10月10日(水)	塚本　麻衣子	美術	会津の仏像の魅力	会津と奈良いにしえの絆継承委員会
12	10月13日(土)	田中　敏	考古	卑弥呼の時代のふくしま	まほろん
13	10月13日(土)	荒木　隆	考古	陸奥国における石城国の役割	いわき市生涯学習課
14	10月13日(土)	塚本　麻衣子	美術	会津の仏教文化をめぐる旅（南エリア編）	会津トラベルサービス
15	10月20日(土)	塚本　麻衣子	美術	会津の仏教文化をめぐる旅（西エリア編）	会津トラベルサービス
16	10月25日(木)	荒木　隆	学習支援	博物館における読み聞かせ活動	南会津教育事務所
17	10月30日(火)	佐藤　洋一	歴史	戊辰戦争150年	猪苗代町社会福祉協議会
18	11月10日(土)	塚本　麻衣子	美術	会津の仏教文化をめぐる旅（中央エリア編）	会津トラベルサービス
19	11月13日(月)	猪瀬　弘瑛	自然	棚倉町の地理・自然	棚倉町地域創生課
20	11月14日(水)	塚本　麻衣子	美術	慧日寺薬師如来坐像と磐梯山	磐梯山ジオパーク協議会
21	11月14日(水)	小林　めぐみ	美術	支えるわざ・伝えるくらし	会津若松まちづくり株式会社
22	11月17日(土)	猪瀬　弘瑛 弦巻　優太 相田　優	自然	spff サイエンス屋台村 「アンモナイトの名前を当てよう！」	福島市こむこむ館
23	11月20日(火)	塚本　麻衣子	美術	仏像の知られざる見どころ紹介	極上の会津プロジェクト協議会
24	11月25日(日)	阿部　綾子	歴史	会津藩の戦後処理	会津若松市教育委員会
25	11月27日(火)	塚本　麻衣子	歴史	会津の三十三観音めぐりについて	あいづわくわく学園

No.	月　日	講　師	分野	演　題　・　内　容等	主　催
26	12 月 1 日(土)	荒木　隆	考古	陸奥南部における磐城郡の果たした役割	いわき市教育文化事業団
27	1 月 22 日(火)	塚本　麻衣子	美術	仏像の知られざる見どころ紹介	極上の会津プロジェクト協議会
28	2 月 17 日(日)	高橋　充	歴史	会津の観音信仰	会津若松市教育委員会
29	2 月 23 日(土)	荒木　隆	考古	北田城のルーツを探る～会津郡内の物流拠点～	湯川村教育委員会
30	2 月 23 日(土)	山口　拡	民俗	都市移住者研究の現状と課題について	国学院大學研究開発推進センター
31	2 月 26 日(火)	塚本　麻衣子 高橋　充	美術・歴史	会津の仏教文化・江戸時代の観音めぐり	極上の会津プロジェクト協議会
32	3 月 13 日(水)	阿部　綾子	歴史	大須賀清光が描いた会津	会津若松まちづくり株式会社
33	3 月 16 日(土)	塚本　麻衣子	美術	会津三十三観音堂めぐり	NPO 法人喜多方市市民活動サポートネットワーク
34	3 月 30 日(土)	塚本　麻衣子	美術	新宮熊野神社神像について	喜多方市教育委員会

⑷　博物館友の会活動への支援

当館は、福島県立博物館友の会の活動を支援するため、共催事業などの実施、行事に対する講師の派遣、サークル活動への協力、各会員に対して博物館だよりの送付、展示観覧への便宜、資料や文献の閲覧等、研究活動の支援などを行っている。

ア　友の会の概要

㈠ 発足　平成元年３月 10 日

㈡ 設立の目的

博物館活動に協力するとともに、会員が「福島県の歴史と文化・自然」についての研修を深め、会員相互の親睦をはかり、あわせて博物館活動の普及発展に寄与することを目的とする。

㈢ 総会の開催

平成 31 年３月 16 日(土)に開催した。平成 30 年度の事業・会務・会計決算等の報告と平成 31 年度の計画を協議し、承認された。また、各サークルの活動・会計の報告が行われた。

㈣ 平成 30 年度会員数

個人会員：170　家族会員：31　高校生会員：０

賛助会員：４　　合計：205

イ　平成 30 年度事業概要

㈠ 友の会創立 30 周年記念行事

平成 30 年 11 月４日(日)、講堂において、友の会創立 30 周年記念行事を開催した。

〇記念式典

式辞：芳賀　幸雄（友の会会長）

祝辞：赤坂　憲雄（博物館長）、寺木　誠伸（会津若松市教育委員会教育長）他

感謝状贈呈

〇歴史講演会

講師：星　亮一（歴史作家）

演題：真実の戊辰戦争―会津藩は朝敵にあらず―」

〇映画上映会

上映作品：「はやぶさ/HAYABUSA」

㈡ 研修旅行

春と秋に研修旅行を実施した。春は、宮城県多賀城市にある東北歴史博物館を訪れ、特別展「東大寺と東北～復興を支えた人々の祈り」観覧するとともに、仙台市にある瑞鳳殿を見学した。秋は、戊辰戦争 150 年に合わせ、「奥会津の歴史を尋ねて」というテーマで、只見町にある河井継之助記念館をはじめ、南会津地方の史跡を巡った。いずれも大変有意義な研修旅行となった。

〇春の研修旅行

研修先：東北歴史博物館　瑞鳳殿

期　日：平成 30 年５月 31 日(木)

参加者：26 名

〇秋の研修旅行

研修先：河井継之助記念館　医王寺　成法寺観音堂　南会津博物館など

期　日：平成 30 年 10 月９日(金)

参加者：27 名

㈢ 会報の発行

第 116 号・第 117 号・第 118 号と３回の会報を発行し会員に配布した。会長のご挨拶、研修旅行の報告、サークル活動の様子や「友の会創立 30 周年記念行事」の報告、さらに私のライフワークの紹介など会員の顔が見える紙面作りに努めた。

㈣ 博物館事業への協力

〇博物館展示観覧

〇友の会会員向け企画展内覧会への参加

平成 30 年４月 27 日（金）

「匠のふるさと会津」内覧会　34 名参加

平成 30 年 10 月 26 日（金）

「日本のわざと美」内覧会　30 名参加

〇博物館講座への協力

博物館の各種講座へ多くの会員が参加した。

ウ　サークル活動

化石・鉱物探検隊、古文書愛好会の２サークルが、それぞれの目的に向かって積極的に活動している。サークルごとに主体的に計画し、自立した活動となっている。

(ｱ) 化石・鉱物探検隊

化石や鉱物に興味をもつ研究サークルで、自然史に関する研鑽と会員相互の親睦を深めることを目的とし、平成11年に設立された。会員数27名。野外での巡検や化石・鉱物の採集、研修会等の活動を行っており、博物館の行事にも随時協力している。

平成30年度は次の活動を行った。

a 平成30年４月22日(日) 福島市飯坂町中野での化石採集（木の葉の化石）
b 平成30年５月13日(日) 郡山市熱海母成での鉱物採集（水晶、石英）
c 平成30年５月27日(日) 郡山市逢瀬町河内高広林道での化石採集会サポート
d 平成30年６月10日(日) 南会津町蛍鉱山での鉱物採集（ホタル石、水晶）
e 平成30年７月10日(火)～８月19日(日) 化石・鉱物探検隊20周年記念第２回成果展「野山の宝 化石鉱物展」の開催
（会場：博物館エントランスホール）
f 平成30年８月26日(日) 郡山市多田野鬼が城での鉱物採集（水晶、黄鉄鉱）
g 平成30年９月９日(日) 南会津町舘岩八総鉱山での鉱物採集（黄鉄鉱、黄銅鉱、紫石英、方鉛鉱）
h 平成30年10月13日(土) 塙町藤田砿業での化石採集（貝化石）
i 平成30年10月21日(日) 新潟県阿賀町中ノ沢での鉱物採集（輝沸石、メノウ、玉髄）
j 平成30年12月２日(日) 学習会
k 平成31年３月３日(日) 総会 研修会

(ｲ) 古文書愛好会

平成14年度に発足した古文書愛好会は随時20～25名が参加し、活動を続けてきた。メンバーは５つの班に分かれ、チームを組んで古文書の解読・考察にあたっている。テキストには当初から県指定文化財の簗田家文書(福島県立博物館寄託）を使用している。簗田家は江戸時代に若松城下の検断（町役人）を務めた家で、その文書は城下の様子を伝える良質な資料であり、解読を通して少しずつ会津藩の歴史についての知見を深めている。近年では平成26年度から明治元年の公用簿籍(戊辰戦争直後の若松城下の記録）をテキストとして学習を進めてきたが、約４年半かけて、戊辰戦争から150年の節目にあたる平成30年度の上半期で読み終え、下半期には、その成果を「簗田家文書第二集 公用簿籍 ―会津開城後の民政史料―」として発刊した（平成31年２月）。なお下半期には、新たに会津藩の江戸の産物会所にかかわる記録（「御産物取扱方御仕法書」「御国産一件 壱」）の解読に取り組み、会津藩の産物の流通について学んでいる。

平成30年度の活動人数は25名で、前年度に引き続き月１回・第２土曜日の午前中に開催し、班ごとに順番に発表を行い、毎回最後に文字・内容の検討を行った。

7 東日本大震災からの復興支援

平成23年３月11日午後２時46分、宮城県牡鹿半島沖の海底を震源としたマグニチュード9.0の大地震が発生した。震源域は岩手県沖から茨城県沖までの南北約 500km、東西約200km の広範囲に及んだ。福島県立博物館のある会津若松市は震度５強の揺れを被った。福島県立博物館では、建物の躯体そのものには被害はなかった。しかし、設備および資料に若干の被害があり展示室の安全性の確認と修繕工事のため当面のあいだ休館とした。再開したのは平成23年４月12日(火)である。

福島県域は地震とそれに伴う津波、そして東京電力福島第一原子力発電所の事故により甚大な被害を被った。当館では、震災からの復興支援を目的として、平成24年度に新たに「ふくしまの文化・自然遺産の発掘と再生プロジェクト」を立ち上げた。これは次の３つの柱からなっている。

１ ふくしまの宝の発掘と保全

市町村や文化施設および大学等と連携し、被災地域の文化財の救出と保全を図るとともに、地域の宝である文化財や自然史資料を改めて調査・収集し、その価値を明らかにすることに努める。

２ ふくしまの宝の公開と活用

救出および新たに収集した文化財およびその研究成果をさまざまな形で県民に発信し、地域の誇りをとりもどすとともに、それらを教材として、ふくしまの未来を担う子供たちの育成を図る。

３ ふくしまの再生と活性化

文化施設や地域の文化団体、市民グループと連携し、文化資源を活用した地域おこし、文化的事業の開催など、文化の力を用いて地域の再生と活性化を図る。

このコンセプトに基づいて復興支援の事業を展開している。平成30年度は次の事業を実施した。

⑴ 文化財・自然資料レスキュー

ア 平成30年度の活動

(ｱ) レスキュー作業の体制

前年度から継続して「福島県被災文化財等救援本部」（以下「救援本部、当館は副代表・幹事・事務局」に参画して活動した。幹事会１回。

(ｲ) 被災地域の資料への対応

震災後から受け入れてきた資料について、整理作業などを継続し、条件が整ったものについては返還した（一部返還１件）。

避難区域の再編・解除や復旧・復興のための事業が進む中で、要請があった場合に調査等を行った。平成30年度は、大熊町教育委員会の依頼によって、自然分野の学芸員が大熊町オオクマイルカ化石選出地の現地調査を行った。

(ｳ) 救出された資料の展示公開

a 当館テーマ展「ふるさとの考古資料７【楢葉町歴史資料館】移動展」（～平成30年５月20日（日））

b　当館テーマ展「けんぱくの宝2018－漆工芸品名品選」（平成30年12月22日(土)～平成31年2月3日(日)）

(ｴ) 研修会・研究会への参加

被災資料の保全に関する講演会やシンポジウムなどに参加した。当館が事務局となっている福島県博物館連絡協議会では、平成31年1月18日（金）、19日（土）に「双葉町の現状視察と福島の文化財をめぐるディスカッション―福島の被災地が抱える文化財の課題―」（いわき市・双葉町）で行った。

(ｵ) 報告書作成の準備

当館における震災後の活動・成果等をまとめ、報告書原稿の準備を進めたが、救援本部としての報告書作成は行われなかった。

イ　今後の課題

(ｱ) 受け入れてきた文化財・自然資料への対応（継続）

(ｲ) 旧警戒区域からの文化財・自然資料の搬出・保全（継続）

a　個人所有資料の保全

b　救出された文化財・自然資料の収蔵・公開施設についての検討

(ｳ) 救出された文化財・自然資料の展示公開（継続）

(ｴ) 今後の災害に備えたしくみづくりや準備

当館での被災文化財等の受け入れ状況　（平成30年度末現在）

受入年度		所有者	資料概要	点数	要因	整理状況	現状
平成23	1	旧相馬女子高校	土器片等	195点	旧校舎収蔵施設の損壊	済み	採集
	2	いわき市の個人	古文書・祭礼道具等	13件（1,509点）	地震による蔵の損壊	未了	受託・平成28・29・30一部返還
	3	南相馬市の個人	野馬追甲冑等	12件（16点）	原発事故避難により管理不能	不要	返還済み
	4	南相馬市の個人	文書	1点	原発事故避難により管理不能	不要	返還済み
	5	双葉町教育委員会	古文書	253点	原発事故避難により管理不能	不要	受託
	6	南相馬市の神社	棟札・像・文書等	22点	津波による神社の損壊	済み	一時預かり
	7	須賀川市の神社	絵馬	109点	地震による神社の損壊	済み	受託・一部返還
	8	須賀川市の個人	雛人形・五月人形等	4点	地震による建家の損壊	済み	受贈
	9	双葉町教育委員会	刀剣・火縄銃	7点	原発事故避難により管理不能	不要	受託
	10	郡山市の個人	近代史料・書籍等	961点	地震による蔵の損壊	済み	返還済み
	11	双葉町の個人（教育委員会寄託）	太刀	1点	原発事故避難により管理不能	不要	受託
			十三仏画	1点		不要	
	12	浪江町の寺院	両界種子曼荼羅	1点	原発事故避難により管理不能	不要	受託
	13	福島市の個人	雛人形・古写真等	17件（22点）	地震による建家の損壊	済み	受贈・受託
	14	伊達市の個人	土器・石器・図書・地図	3件（1,647点）	地震による蔵の損壊	済み	受贈
	15	南相馬市の寺院	膳椀漆器	48件（79点）	原発事故避難により管理不能	未了	受託
	16	会津工業高校	陶磁器	8点	地震による損壊	不要	返還済み
	17	南相馬市鹿島歴史民俗資料館	植物化石標本	62件（66点）	地震による収蔵施設の損壊	済み	返還済み
平成24	18	浪江町の個人	書跡	2点	原発事故避難により管理不能	不要	受託
	19	富岡町	16ミリフィルム	1点	原発事故避難により管理不能	不要	受託
	20	南相馬市の個人	化石標本	約400点	地震による収蔵施設の損壊	済み	受託
	21	大熊町教育委員会	考古資料（落合B遺跡）	4,943点	原発事故避難により管理不能	済み	受託
			考古資料（棚和子遺跡）	10箱		済み	
			和鏡	1点		済み	

受入年度		所有者	資料概要	点数	要因	整理状況	現状
平成25	22	浪江町教育委員会	棚塩地区公民館地図	1点	地震・津波による建物損壊	不要	返還済み
	23	葛尾村の寺院	仏像・仏画・経典等	5件(604点)	原発事故避難により管理不能	未了	受託
	24	双葉町教育委員会	清戸迫横穴壁画模写	1点	原発事故避難により管理不能	不要	受託
	25	双葉町教育委員会	フタバクジラ化石他	27件	原発事故避難により管理不能	未了	受託
平成28	26	浪江町の個人	大型民具	21点	地震による建物損壊、解体予定	済み	受贈
	27	南相馬市小高区	石仏	5点	津波被害による処分予定	済み	採集

⑵ ふくしま応援ミュージアムイベント

従来実施してきたミュージアムイベントを、「ふくしま応援ミュージアムイベント」と名付け、被災された方々への励ましや、福島県を応援する意図をもったイベントを企画し実施した。

ア　玄如節と日本の民謡

(ｱ) 日時　平成30年6月23日(土) 13時30分～15時

(ｲ) 会場　　福島県立博物館　エントランスホール

(ｳ) 参加者数　100人

(ｴ) 共催・出演　玄如節顕彰会

(ｵ) 内容

玄如節は、即興の掛け合いで唄うのを基本とする会津の民謡の源流でもある。今回のイベントでは、会津や東北を中心として民謡を歌と踊りをまじえて披露し、最後に玄如節で締めくくった。

イ　けんぱく映画会「ハーメルン」

(ｱ) 日時　平成30年7月16日(月・祝)13時30分～15時

(ｲ) 会場　　福島県立博物館　講堂

(ｳ) 参加者数　110人

(ｴ) 内容

毎年恒例の映画会を講堂で開催した。映画「ハーメルン」の主人公、野田学芸員は、福島県立博物館の考古学の学芸員という設定。昭和村喰丸小学校など県内でロケ撮影して制作され、福島県立博物館で撮影したバックヤードのシーンもある。

ウ　親子で探検！はくぶつかんのウラ側

(ｱ) 日時　平成30年8月14日(火)

1回目　11時～12時　2回目　14時～15時

(ｲ) 会場　福島県立博物館　バックヤード

(ｳ) 参加者数　28人

(ｴ) 内容

普段は入ることができない博物館の裏側を親子でふれあいながら文化財を守り伝える博物館のウラ側を体感していただくツアーを実施し、参加した家族に夏休みの一日を楽しく過ごしていただいた。

エ　会津磐梯山・市民盆踊り

(ｱ) 日時　平成30年8月15日(水) 19時～20時30分

※博物館閉館後

(ｲ) 会場　　福島県立博物館　前庭

(ｳ) 参加者数　70人

(ｴ) 共催　　会津磐梯山盆踊り保存会

(ｵ) 内容

博物館前庭に櫓を組み、会津磐梯山の歌に合わせて自由参加での盆踊り大会を開催した。踊りを通して、先の戦争やこの度の大震災でやむなく生命を奪われてしまわれた方々に、あらためて追悼と感謝の祈りを捧げた。

オ　夏休みナイトミュージアム

(ｱ) 日時　平成30年8月18日(土)17時30分～18時30分

※博物館閉館後

(ｲ) 会場　福島県立博物館　常設展示室　企画展示室

(ｳ) 参加者数　80人

(ｴ) 講師　学芸員

(ｵ) 内容

いつもと違う雰囲気の真っ暗闇な展示室の中を、懐中電灯の光を頼りに見学する「ナイトミュージアム」は、例年人気の高いイベントである。平成30年度は企画展「美しき刃たちー東京富士美術館と福島の名刀ー」の中も探検した。

カ　「Coderanni」コンサート

(ｱ) 日時　平成30年9月17日(月・祝)13時30分～15時

(ｲ) 会場　　福島県立博物館　講堂

(ｳ) 参加者数　241人

(ｴ) 出演　会津室内楽団「ｱﾝｻﾝﾌﾞﾙ・Coderanni」の皆様

(ｵ) 内容

会津地域の室内楽普及を目的として、平成23年7月に音楽教育学研究者の峯岸創によって設立された楽団による演奏。第1部「戊辰150年に寄せて」第2部「音楽教育の黎明」第3部「秋の詩」と3部構成で行われた。特に、秋の企画展「戊辰戦争150年」開幕に合わせた第1部の吟詠「白虎隊」は大変迫力があり、音楽から歴史を感じさせてくれるものであった。

キ　クリスマスコンサート

(ｱ) 日時　平成30年12月16日(日)13時30分～15時

(ｲ) 会場　福島県立博物館　エントランスホール

(ｳ) 参加者数　250人

(ｴ) 出演　「SLIDE　I’z（スライド　あいづ）」

江見　悠希、石井　陸登、塚原　千翔氏、

川上　康平

(ｵ) 内容

毎年恒例となっている12月のミュージアムイベントクリスマスコンサート。多くのお客様に気軽に来館していただき、音楽を楽しんでいただくとともに、博物館に親しんでいただく機会とするために実施しており、毎回好評を博している。今回は会津の若者で結成された「SLIDE　I’z（スライド　あいづ）」による、トロンボーンアンサンブルを披露し、ジングルベルやきよしこの夜などのクリスマスソングを含めて９曲演奏していただいた。演奏後は、トロンボーンやパーカッションなどの楽器演奏体験ができる時間を設け、参加者に楽しんでいただいた。

ク　会津の彼岸獅子

(ｱ) 日時　平成31年３月10日(日)13時30分～14時30分

(ｲ) 会場　福島県立博物館　エントランスホール

(ｳ) 参加者数　173人

(ｴ) 出演　本滝沢獅子舞保存会の皆様

(ｵ) 内容

三匹の獅子が踊る三匹獅子舞は福島県内に広く分布しているが、会津若松市周辺では春の彼岸に踊られる「彼岸獅子」として親しまれている。通常は無病息災、五穀豊穣を祈って地区ごとに舞われるが、地区外の方々にも「会津の文化」として親しんでいただくために、彼岸に先駆けて館内での実演を開催した。また、当該団体は後継者育成のために中学生を踊り手として活動しており、当イベントは次世代への伝統芸能の継承を助ける場としても機能し始めている。

８　次世代ミュージアム機能

第２期中期目標で目標設定している次世代ミュージアム機能に関して、東日本大震災による震災の共有と継承、福島県における新たな文化事業の創出と定着を達成するため、２件のプロジェクト活動を行った。

⑴　ライフミュージアムネットワーク

ア　事業趣旨

福島県立博物館は、平成23年の東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故後、文化庁の支援を受けた「はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト」「ふくしま震災遺産保全プロジェクト」の事務局を務め、さまざまな文化芸術による復興支援事業を実施してきた。その過程で浮かび上がって来た課題は、福島、東北、被災地に限らず、日本各地に共通するものであり、解決方法を導き出すべく、広く共有されるべきものだった。

それらの課題は、【いのち】【暮らし】に集約される。これらは各地の博物館・美術館・資料館・記念館を含むミュージアムの活動の核となっているものであり、ミュージアムに限らず、様々な団体、機関も大切にしていることである。

東日本大震災後、新たに浮上してきたミュージアムの使命。それは【いのち（ライフ）】と【暮らし（ライフ）】に再び誠実に向き合うことと捉え、同じ志を共有するネットワークを強化・拡大することでミュージアムの社会的使命を拡張することを目指してライフミュージアムネットワーク実行委員会を設立、活動を行った。

イ　組織

(ｱ) 主催　ライフミュージアムネットワーク実行委員会

(ｲ) 構成団体　南相馬市博物館
はじまりの美術館
三島町生活工芸館
一般社団法人ふくしま連携復興センター
原爆の図丸木美術館
福島県立博物館

(ｳ) 委員長　赤坂　憲雄（福島県立博物館長）

(ｴ) 事務局　福島県立博物館

ウ　実施期間

(ｱ) 実施期間　平成30年７月２日～平成31年３月31日

(ｲ) プロジェクト活動期間
平成30年８月10日～平成31年３月31日

エ　助成

平成30年度文化庁地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業

オ　事業内容

リサーチ、オープンディスカッション、フォーラムを実施し、記録集（ライフミュージアムネットワーク活動記録集『福島で「いのち」と「くらし」を考える』、1,500部）を作成した。

⑵　ふくしま震災遺産保全プロジェクト

平成23年３月11日の東北地方太平洋沖地震とそれにともなう津波・原発事故は、福島県内に甚大な被害を及ぼした。未だに多くの方々が避難生活を余儀なくされ、一方で復興や除染工事等により地域の景観は大きく変わりつつある。当館では平成26年度から28年度まで文化庁芸術振興費補助金の採択を受けて、県内の資料館や研究会とともに実行委員会を組織し「ふくしま震災遺産保全プロジェクト」を推進してきた。大震災を契機に起こった様々な出来事を歴史として共有し未来へ継承するため、震災を物語る資料を「震災遺産」と位置付けて、その保全や県内外での展覧会・シンポジウム等のアウトリーチ活動を行った。平成29年度からは当館の事業として、引き続き「震災遺産」の保全や発信を行っている。

ア　震災遺産保全チームの組織

前年度まで活動母体として組織してきた実行委員会は解散したが、博物館内では引き続き「震災遺産保全チーム」として分野横断的なプロジェクトチームを編成し、震災遺産の保全活動を進めている。平成30年度は民俗２名・考古１名・歴史４名（災害史１名を含む）・保存科学１名・自然１名、美術１名の学芸員が参画し、計10名で活動を行った。当館の事業として行う最初の年度であったため、博物館事業として今後進めていくに当たっての活動理念や組織編成、活動方針やその将来像などについてチーム内で協議した。

イ　震災遺産の調査・保全

前年に引き続き県内における震災遺産の調査や資料収集を進めた。

ウ　普及事業の実施

ゲストティーチャーとして会津大学のソフトウェアスタジオの授業に協力した。当館からは、震災遺産観覧支援ソフトウェアの作成を提案して、会津大学の学生がソフトウェア開発を作成する過程で、指導した。開発したソフトを特集展で公開した。

第15節　福島県自然の家

1　概要

⑴　沿革

昭和47年県内初の県立少年自然の家として、また、東北でも３番目の宿泊研修用の先導的施設として「福島県少年自然の家」（以下「自然の家」という。）を開設。

昭和 50 年海浜型の青少年社会教育施設として「福島県海浜青年の家」（以下「青年の家」という。）を開設。同年発足した「財団法人福島県海浜青年の家」が管理運営を行うこととなる。

昭和 56 年県立少年自然の家２施設目となる「福島県会津少年自然の家」を開設。これに伴い、「自然の家」の名称を「福島県郡山少年自然の家」に改める。

平成８年「福島県いわき海浜自然の家」を開設。これに伴い、「青年の家」の名称を「福島県相馬海浜自然の家」に改める。運営財団の名称を「財団法人福島県海浜自然の家」に変更し、海浜型２施設の管理運営を行うこととなる。

平成10年福島県教育庁の直営であった「福島県郡山少年自然の家」及び「福島県会津少年自然の家」の名称を「福島県郡山自然の家」及び「福島県会津自然の家」と改める。これにより財団の名称を「財団法人福島県自然の家」に変更し、県内４施設の管理運営を行うこととなる。

平成18年度から指定管理者制度を導入し、平成20年度までの３年間「財団法人福島県自然の家」が指定管理者となり４施設の管理運営を行うこととなる。

指定管理者であった財団が平成 20 年度末をもって解散したため､平成21年度から４施設とも県の直営による管理運営となる。

平成22年度に開催した指定管理者選定検討会において「福島県いわき海浜自然の家」が「財団法人いわき市教育文化事業団」に指定管理することとなる。なお、他３施設については検討会の条件を満たす団体がいないため直営による運営が継続されることとなる。

平成23年３月11日に発生した東日本大震災により、「福島県会津自然の家」は同年７月２日まで「福島県郡山自然の家」は同年８月28日まで避難所として運営を行う。また「福島県いわき海浜自然の家」の指定管理は震災の影響により平成23年11月１日からの開始となる。なお「福島県相馬海浜自然の家」は地震・津波の甚大な被害を受け平成 24 年３月31日をもって公所廃止となる。

平成25年度に開催した指定管理者選定検討会において「福島県いわき海浜自然の家」について平成26年度から平成30年度まで「財団法人いわき市教育文化事業団（平成26年度より公益財団法人に移行）」に指定管理することとなる。

平成30年度に開催した指定管理者選定検討会において「福島県郡山自然の家」について、令和元年度から令和５年度まで「学校法人国際総合学園」に、「福島県いわき海浜自然の家」について、令和元年度から令和５年度まで「公益財団法人いわき市教育文化事業団」に指定管理することとなる。

⑵　所在地

ア　福島県郡山自然の家
福島県郡山市逢瀬町多田野字中丸山46
〒963－0213　ＴＥＬ 024－957－2111
ＦＡＸ 024－957－2112
ＵＲＬ https://www.koriyama-nc.fcs.ed.jp/

イ　福島県会津自然の家
福島県河沼郡会津坂下町大字八日沢字西東山4495－１
〒969－6504　ＴＥＬ 0242－83－2480
ＦＡＸ 0242－83－2481
ＵＲＬ https://www.aizu-nc.fcs.ed.jp/

ウ　福島県いわき海浜自然の家
福島県いわき市久之浜町田之網字向山53
〒979－0335　ＴＥＬ 0246－32－7700
ＦＡＸ 0246－32－7730
ＵＲＬ https://www.iwaki-nc.fcs.ed.jp/

2　教育目標及び基本的視点

⑴　教育目標

恵まれた自然環境の中で、野外学習や集団宿泊活動など様々な活動を通して主体的に対応できる人々の育成を目指す生涯学習の推進のため、次の目標を設定する。

ア　自然の恩恵にふれ、自然に親しむ心や敬虔の念を育てる。

イ　集団宿泊活動を通して規律・協同・友愛及び奉仕の精神を養う。

ウ　自然体験活動を通して自ら実践し､創造する態度を育てる。

⑵　基本的視点

豊かな自然体験を楽しめる施設として、その機能を十分に発揮するために、施設・設備の整備や運営方法の確立・改善に努め、利用者が充実した活動を展開できるよう、次の基本的視点に基づきそれぞれの施設の運営にあたる。

ア　所員の英知と創意を結集し、施設の充実・整備を図り活気と魅力ある施設の運営に努める。

イ　利用者の多様なニーズや利用目的に応じた柔軟な運営を行うよう努める。

ウ　立地条件を生かした特色ある企画事業を展開するとともに、学校や地域に生きる活動種目やその指導方法の研究開発に努める。

エ　民間の指導者の協力や高校生・大学生等にボランティアとして参加していただけるように努める。
オ　現代的課題の解決に対応する事業を推進し、その情報の発信に努める。

第16節　福島県郡山自然の家

1　概要

⑴　沿革

郡山自然の家は、昭和47年に「福島県少年自然の家」という名称で設立され、小・中学校の宿泊体験学習の場として開所して以来45年が経過し、平成30年12月には、延べ利用者数が170万人に達した。

本施設は、郡山駅より西へ約11km、郡山南インターより車で約８分という交通の便に恵まれ、しかも豊かな自然環境に囲まれている都市近郊型の自然の家であり、心身共に健全な青少年と心豊かな社会人を育成することを目的とした教育施設である。

平成20年度まで11年間、県内４つの自然の家を運営してきた財団法人福島県自然の家が解散し、平成21年度から県直営としての運営形態に変わり９年目を終了した。

利用者は、これまで主体であった小・中学生のみならず、園児、高校生、一般社会人、家族など利用者層が多種多様になってきている。恵まれた自然環境の中で、「みどり・であい・感動」をキャッチフレーズに、野外活動や集団宿泊活動を通して、「自然に親しむ心や畏敬の念」「規律・協同・友愛・奉仕の精神」「自ら実践し、創造する態度」の育成を目指し、様々な活動を展開するとともに、生涯学習の拠点として、広く県民に利用していただけるような施設を目指し、施設の改築・改修や本館の段差を解消するなど障がい者にもやさしい施設づくりを進めてきた。

また、園児から高齢者までの幅広い年齢層に対応し、多くの人に利用していただけるよう、多種多様な企画事業の展開や、特色あるプログラムの開発に努めてきた。

さらに、放射線の影響を心配する利用者の声に応えるため、毎月エリア内の放射線量を測定してホームページに載せたり、クラフト活動で使用する木材等については、放射線量の低い地域から採集したり、「みどりの宅配便」を利用して全国から取り寄せたりした。また、放射線量が比較的高い場所のこまめな除草や表土の除去、活動コース付近の落ち葉等の清掃を実施し放射線量の低減化に努めた。

年間の利用状況は、震災前の９割程度まで回復し、利用団体数499団体、延べ利用者数35,265人となった。

⑵　職員組織

職　　名	人員
所長	1
次長	1
主査	1
専門員	1
主任社会教育主事	1
社会教育主事	2
計	7

⑶　平成30年度重点目標と成果

「復興加速の年」と位置づけ、利用者数を震災前の水準まで戻すために次の点に力を入れて取り組んだ。

ア　利用団体への効果的な支援の充実

(ｱ) 団体が主体的に活動できるようにするために、学校利用・社会教育団体利用ともに、利用団体の指導者との連携を密にしてきた。学校利用については、４月と７月に「学校利用指導者研修会」を実施し、フィールドワークやニュースポーツなどの実技研修の他、施設の概要説明や活動計画の立案に対しての指導・援助を行った。また、事前打合せや実地踏査・下見等を奨励し、各利用団体が主体的に活動できるように支援した。

(ｲ) 社会教育団体の利用については、各団体代表者との連絡を密にしながら、施設見学や活動計画の調整など、各団体の利用目的に応じた活動が展開できるよう努めた。

(ｳ) 利用団体の指導者及び利用者の声をアンケート等により集約・分析して、職員の対応や準備物、食事等の改善に努めるとともに、利用者の立場に立った施設の運営に努めた。

イ　特色ある企画事業の運営

(ｱ) 季節感を生かした魅力ある企画事業を計画するとともに、外部講師やボランティアを積極的に活用したり、地域や関係機関との連携を図ったりすることができた。

(ｲ) 前年度の反省や評価を踏まえ内容や方法等に工夫・改善を加え、参加者の満足度を高める運営に努めた。

(ｳ) 利用者増を図るために新規の企画事業を立案し、幅広い年代に応じた特色ある企画事業を実施することができた。

ウ　広報の充実と利用促進

(ｱ) 多くの団体に利用してもらえるよう、利用拡大に向けて、積極的に広報活動を行ってきた。学校利用の拡大については、各種企画事業の案内をその都度電子メールで送付するなど、より多くの学校に利用していただけるようＰＲ活動を行った。また、未来キッズ生き活き事業については、中通り地区の全小学校・全児童に案内を配付し募集を図った。

(ｲ) 企画事業案内や事業実施後の企画事業のあしあとをホームページに掲載するなど、ホームページの改善・充実に努めた。また、毎月エリア内13か所の放射線量を

ホームページに掲載し､利用者が安心して利用できるよう配慮した。

(ｳ) 企画事業では、報道機関を通した周知活動や広報活動を積極的に行い、利用拡大に努めた。また、新聞社やタウン誌に企画事業に関する記事の掲載の依頼をすることで、多くの方の参加につなげることができた。

(ｴ) 利用促進を図るため、平成25年度から家族を対象とした会員登録制度を立ち上げ､名称を本所のマスコットキャラクターにちなんで「サザッピークラブ」とした。登録した会員には会員証を発行して入所手続きの簡略化を図ったり､企画事業の案内を送付したりして利用促進につなげた。また、利用回数に応じて、特製のシールやキーホルダーを贈呈した。133家族、459名が会員となっている。

エ　安全管理と保健安全指導の徹底

(ｱ) 「事故はどこでもいつでも起こり得る」という認識に立って、所員の安全意識の向上を図り、施設設備の日常点検及び定期点検の実施はもちろんのこと､利用者に対しても働きかけ、積極的に安全対策を行ってきた。

　また、特に次の点に力を入れてきた。

- 各団体の活動前のコース点検や遊具点検の徹底
- 食中毒防止のための、手洗い･アルコール消毒の徹底
- 食物アレルギー対応のための、利用団体との連絡及び食堂との連携
- スズメバチ対策のための、捕虫装置の設置と点検
- 松食い虫による倒木防止のための計画的な伐採

(ｲ) 防災に関しては食堂等の委託業者にも参加してもらい、消火訓練や火災が起きたことを想定した避難訓練を実施するとともに、日常の点検を怠ることのないようにした。

　さらに､不審者の侵入防止を図るためのマニュアルを作成して職員研修により理解を深めた｡常に来所者に声をかけ、車止めや施設の施錠に万全を期すなどして、安全管理に努めてきた。

オ　施設・設備の整備

(ｱ) 利用者が快適に利用できるように､現在の施設環境のもとでできることは何かを考えながら､ハード面とソフト面の両面から改善を行ってきた。

　また、安全対策として、利用者が利用する総合活動館やアスレチックなどの遊具全般の点検と併せて必要な補修整備に努めてきた。

(ｲ) 館内については、季節ごとの掲示に心がけたり､利用者から届いた写真や手紙を工夫して掲示したりするなど、変化のある計画的な掲示に努めた。

2　施設・設備の概要

(1)　所在地

〒963－0213

郡山市逢瀬町多田野字中丸山46番地

(2)　宿泊定員

ア　本　館166名（14部屋）

イ　ロッジ126名（９棟）

ウ　テント120名（20張）

(3)　敷地面積

237,587．59㎡

(4)　建物面積

延床面積　3,806.08㎡

- 本館（管理棟・宿泊室・研修室・浴室）
- 体育館、総合活動館、野外活動センター、東西炊飯場、ロッジ等

(5)　設備備品等

ア　野外活動設備

- みどりの広場アスレチック
- フィールドアドベンチャーコース
- アーチェリー場(24的)
- ナイトハイクコース(３コース)
- スコアオリエンテーリングポスト(20)
- フィールドワークコース（赤、青ﾛﾝｸﾞ・ｼｮｰﾄ)
- スタンプラリー(20)
- 営火場(４)

イ　その他

- 野外炊飯用具
- インラインスケート
- フリスビーゴルフ
- フロッカー
- キンボール
- ペタンク
- マウンテンバイク
- グランドゴルフ
- ターゲットバードゴルフ
- そり
- 各種クラフト用具
- 伝承遊びセット
- ピアノ
- 双眼鏡
- 液晶プロジェクター
- インターネット接続大型液晶テレビ等
- ジェットヒーター
- ブルーヒーター

3　企画事業

(1)　研修会事業

ア　学校利用指導者研修会（第１回、第２回）

(ｱ) 期日・対象校及び参加者数

ａ 第１回

期　日　　平成30年４月18日(水)

対象校　　５月～８月まで利用の学校

参加者　　47名

b 第２回

期　日　　平成 30 年７月 27 日(金)

対象校　　８月～10 月まで利用の学校

参加者　　49 名

(ｲ) 研修内容（第１回、第２回とも同じ内容）

・施設案内

・実技研修（アスレチック、フィールドアドベンチャー、スコアＯＬ、室内アーチェリー、ニュースポーツなど）

・全体会

・施設の利用の仕方等

・活動プログラムの調整（所バス利用調整を含む）

⑵ 利用拡大事業

ア　サクラ・カタクリ週間

期　日　平成 30 年４月１日(日)～22 日(日)

対象者　どなたでも

参加者　980 名

イ　オープニングセレモニー

期　日　平成 30 年４月 17 日(火)

参加者　郡山市立多田野小学校（堀口分校含）４、５年生と先生方など 59 名

内　容　児童代表あいさつ、テープカット、自由活動

ウ　さくらウオーク

期　日　平成 30 年４月 14 日(土)

対象者　どなたでも

参加者　106 名

活動内容　・自然の家を出発し、約５㎞・10 ㎞のウォーキング

・みどりの広場アスレチック

・総合活動館開放

エ　未来キッズ生き活き事業

(ｱ) 期日・対象者及び参加者数

・期　日　平成 30 年４月 21 日(土)

対象者　特別支援学校・学級在籍の子どもたちとその家族

参加者　22 名

・期　日　平成 30 年４月 22 日(日)

対象者　幼児・小学生とその家族

参加者　72 名

・期　日　平成 30 年５月 12 日(土)

対象者　特別支援学校・学級在籍の子どもたちとその家族

参加者　10 名

・期　日　平成 30 年５月 13 日(日)

対象者　幼児・小学生とその家族

参加者　31 名

・期　日　平成 30 年５月 19 日（土)

対象者　特別支援学校・学級在籍の子どもたちとその家族

参加者　13 名

・期　日　平成 30 年５月 20 日(日)

対象者　幼児・小学生とその家族

参加者　87 名

・期　日　平成 30 年６月 24 日(日)

対象者　県北・県中・県南地区の子どもたちを含めたどなたでも

参加者　1,200 名

・期　日　平成 30 年８月８日(日)

対象者　県南・県中地区の子どもたち

参加者　119 名

・期　日　平成 30 年８月 19 日(日)

対象者　県北地区の子どもたち

参加者　106 名

・期　日　平成 30 年 11 月 17 日(土)

対象者　特別支援学校・学級在籍の子どもたちとその家族

参加者　50 名

・期　日　平成 30 年 11 月 18 日(日)

対象者　幼児・小学生とその家族

参加者　82 名

・期　日　平成 30 年 12 月８日(土)

対象者　特別支援学校・学級在籍の子どもたちとその家族

参加者　18 名

・期　日　平成 30 年 12 月９日(日)

対象者　幼児・小学生とその家族

参加者　24 名

・期　日　平成 31 年１月５日(土)

対象者　特別支援学校・学級在籍の子どもたちとその家族

参加者　31 名

・期　日　平成 31 年１月６日(日)

対象者　幼児・小学生とその家族

参加者　32 名

・期　日　平成 31 年２月 23 日(土)

対象者　特別支援学校・学級在籍の子どもたちとその家族

参加者　12 名

・期　日　平成 31 年２月 24 日(日)

対象者　幼児・小学生とその家族

参加者　20 名

・期　日　平成 31 年３月２日(土)

対象者　特別支援学校・学級在籍の子どもたちとその家族

参加者　12 名

・期　日　平成 31 年３月３日(日)

対象者　幼児・小学生とその家族

参加者　18 名

・期　日　平成31年３月16日(土)
対象者　特別支援学校・学級在籍の子どもたちとその家族
参加者　21名
・期　日　平成31年３月17日(日)
対象者　幼児・小学生とその家族
参加者　46名

(ｲ) 活動内容

アーチェリー、インラインスケート、スタンプラリー、フィールドアドベンチャー、活動館、みどりの広場アスレチック、おうせ茶屋（出店／昼食）

オ　親子でチャレンジ
期　日　平成30年６月１日(日)
対象者　親子または祖父母と孫
参加者　37名
活動内容　スコアＯＬ、フィールドビンゴ（小学４～６年生）野外炊飯（カレーづくり）

カ　夢冒険キャンプ
期　日　平成30年８月２日(水)～４日(金)
対象者　小学４～６年生
参加者　37名
活動内容　キャンプ生活を通して自然との共存を図る

キ　第16回郡山自然の家オープンデー
(未来キッズ生き活き事業)
期　日　平成30年６月24日(日)
対象者　どなたでも
参加者　1,200名
活動内容
・オープニングセレモニー（鬼五郎・幡五郎太鼓による和太鼓演奏）
・各種プログラム体験（アーチェリー、インラインスケート、缶バッジ製作、活動館開放など）
・イベント参加（ザリガニ釣り、似顔絵コーナー）
・公園の駅「おうせ茶屋」、郡山きのこファーム出店
・ステージ発表（吹奏楽部、他４団体）

ク　親子五色沼ハイキング
期　日　平成30年10月21日(日)
対象者　家族または祖父母と孫
参加者　33名
活動内容　五色沼周辺のトレッキング

ケ　手ぶらで、いも煮会
期　日　平成30年10月28日(日)
対象者　家族またはグループ
参加者　62名
活動内容　野外炊飯（いも煮会）、みどりの広場アスレチック体験、活動館開放

コ　蓬田岳登山
期　日　平成30年11月４日(日)
対象者　小学生を含む親子
参加者　11名
活動内容　蓬田岳登山

サ　スナッグゴルフ教室
期　日　平成30年12月１日(土)
対象者　小学生を含む親子
参加者　58名
活動内容　スナッグゴルフ教室（基礎基本・ゲーム）

シ　親子でハッピークリスマス＆ハッピーニューイヤー
期　日　平成30年12月２日(日)
対象者　どなたでも
参加者　50名
活動内容　クリスマスリースづくり、門松づくり（外部講師による）

ス　親子スケート教室
期　日　平成31年２月３日(日)
対象者　親子または家族
参加者　29名
活動内容　講師の指導による基本的な動き、自由滑走

セ　わくわく！ファミリー冬のつどい
期　日　平成31年２月16日(土)～17日(日)
対象者　小・中学生を含む家族
参加者　31名
活動内容　猪苗代スキー場でのスキー体験、そり滑り

ソ　サザッピークラブ感謝デー
期　日　平成31年３月10日(日)
対象者　サザッピークラブ会員親子
参加者　34名
活動内容　いわき海浜自然の家クラフト体験、いわきら・ら・ミュウ内見学・体験

タ　みどりの広場アスレチック＆活動館開放します
期　日　前期　平成30年４月21日(土)
平成30年５月12日(土)、26日(土)
後期　平成30年11月17日(土)
平成30年12月８日(土)
平成31年１月５日(土)
平成31年２月23日(土)
平成31年３月２日(土)、16日(土)
対象者　特別支援学校、学級の幼児及び小学生とその家族
参加者　189名
期　日　前期　平成30年４月22日(日)
平成30年５月13日(日)、27日(日)
後期　平成30年11月18日(日)
平成30年12月９日(日)
平成31年１月６日(日)
平成31年２月24日(日)
平成31年３月３日(日)、17日(日)
対象者　幼児及び小学生とその家族
参加者　412名
活動内容　みどりの広場アスレチック(10基)、活動館開放

チ　キッズフェスタ 2018in 郡山
期　日　平成 30 年 10 月 13 日(土)～14 日(日)
参加者　6,084 名
活動内容　施設内外の活動やプログラム各種団体等を迎え様々なアトラクションを提供

ツ　特別企画　自然の家でからだを動かそう
期　日　平成 30 年 11 月 13 日(火)～平成 31 年 3 月 15 日(金)までの平日、9 時～16 時
参加者　28 園、785 名
活動内容　活動館やアスレチックを利用した運動
屋外での雪遊び、そり滑り

⑶　協力事業

ア　逢瀬公園さくらまつり
期　日　平成 30 年 4 月 22 日(日)
参加者　147 名
活動内容　クラフト体験（缶バッジ)

イ　春のオープンデー（いわき海浜自然の家主催)
期　日　平成 30 年 5 月 20 日(日)
参加者　502 名（缶バッジ来場者)
活動内容　クラフト体験（缶バッジ)

ウ　春のオープンデー（会津自然の家主催)
期　日　平成 30 年 5 月 27 日(日)
参加者　230 名（プラ板来場者)
活動内容　クラフト体験（プラ板キーホルダー)

エ　安積山登山
（安積アルプス出逢いプロジェクト実行委員会主催)
期　日　平成 30 年 5 月 27 日(日)
対象者　どなたでも
参加者　320 名
活動内容　ユラックス熱海入口→大将旗山→御霊櫃峠→高篠山森林公園までの縦走トレッキング（総距離約 16 ㎞)

オ　ノルディックウオーキング大会
（県ノルディックウオーキング協会主催)
期　日　平成 30 年 6 月 3 日(日)
参加者　14 名
活動内容　10 ㎞コース　浄土松公園→八畳座敷→冒険の丘→本所（トイレ休憩）～きのこ岩コースの所員による警備

カ　いなわしろフェスティバル春
（国立磐梯青少年交流の家主催)
期　日　平成 30 年 6 月 17 日(日)
参加者　320 名

キ　ミュージックライブ
（安積アルプス出逢いプロジェクト実行委員会主催)
期　日　平成 30 年 9 月 16 日(日)
参加者　180 名
活動内容　クラフト体験（缶バッジ)

ク　逢瀬公園秋の感謝祭（福島県総合緑化センター主催)
期　日　平成 30 年 10 月 6 日(日)
参加者　258 名（缶バッジ来場者)
活動内容　クラフト体験（缶バッジ)

ケ　第 30 回浄土松公園まつり
（浄土松公園まつり実行委員会主催)
期　日　平成 30 年 10 月 7 日(日)
参加者　258 名（缶バッジ来場者)
活動内容　クラフト体験（缶バッジ)

コ　第 42 回子どもの祭典
（須賀川市明るいまちづくりの会連絡協議会主催)
期　日　平成 30 年 10 月 7 日(日)
参加者　1,500 名（缶バッジ来場者)
活動内容　クラフト体験（缶バッジ)

サ　会津の冬を満喫！ウィンターフェスティバル
（会津自然の家主催)
期　日　平成 31 年 1 月 19 日(土)～20 日(日)
参加者　63 名
活動内容　スキー、スノーシュー、そり滑り、会津の民話

第 17 節　福島県会津自然の家

１　概要

福島県会津自然の家は、恵まれた自然環境の中で、自然に親しむ活動や集団宿泊生活、野外活動を体験することにより心豊かで心身ともに健全な県民を育成することを目的とした生涯学習施設である。

昭和 56 年４月に開所し、平成 30 年度末で 38 年になり、開所以来多くの方々にご利用いただいているところである。

平成 30 年度の利用者数は、46,366 人で、昨年度を 1,579 人上回った。これは、「未来キッズ生き活き事業」の実施をはじめ、様々な企画事業の工夫や、企業や大学など、新たな利用者層への利用促進に努めてきたことによるものと考えられる。

また、５つの重点目標を掲げ、その達成に努めるとともに、誰もが利用しやすい魅力的な施設をめざして運営の改善を図り、時代や利用者のニーズに対応した生涯学習施設の役割に積極的に取り組んできた。

⑴　職員組織

職　　名	人員
所長	1
次長	1
主事	1
専門員	1
主任社会教育主事	1
社会教育主事	3
体験活動指導員	3
嘱託運転手	1
計	12

⑵ 平成 30 年度重点目標と成果

年間利用者数４万人以上の成果目標を達成するために、次の点に力を入れて取り組んできた。

【　】の数値は職員による自己評価の平均値

ア　事故の絶無を期する安全管理と保健安全指導を徹底します。【3.60】

(ｱ) 日常（事前､事中､事後）及び定期の安全･確認の徹底【3.86】

定期安全点検だけでなく､労務員も含めた全所員による日常点検を徹底し、事故防止に努めることができた。

(ｲ) 利用者への適時的確な指導助言【3.67】

気象条件等､様々な状況の変化に対応し､所員の連携を図りながら、助言に努めることができた。

(ｳ) 傷病、感染症（インフルエンザ､感染性胃腸炎等）防止【3.71】

食堂業者との連携も密にし､疾病や感染症防止に努めることができた。

(ｴ) 施設の整備、修繕【3.00】

日常点検を大切にし､危険箇所を発見したらすぐに整備、修繕を行った。

イ　「好感度」の高い施設を目指す親切な接遇に努めます。【3.62】

(ｱ) 笑顔と元気なあいさつ、親切・ていねいな接遇【3.71】

団体対応だけではなく､来客や電話対応など､相手の立場に立った対応に努め､好感度の高い施設を目指すことができた。

(ｲ) 利用者一人一人の立場に立った支援及び利用目的や目標達成のための支援【3.67】

利用者のねらい達成のために､必ず団体に担当所員がつき、積極的に支援を行った。

(ｳ) 各団体の自立的活動による、目標達成の支援【3.33】

社会教育団体の利用数増加に伴い､自立的な活動が可能となるよう補助及び支援を行った。

(ｴ) 適切な会計事務の執行、服務規律の厳正な保持【3.83】

会計事務にかかる研修を受講したり､服務倫理委員会の定期的に開催したりして、会計事務の適正化を図った。

(ｵ) 施設内・フィールド内ごみゼロ及び整理整頓【3.57】

所員だけでなく､委託業者とも連携し、清潔な所内外の環境づくりに努めることができた。

ウ　教育目標を達成する研修プログラムを充実します。【3.60】

(ｱ) 里山、堤及び周辺環境の活用、四季を通して体験できる野外活動の充実【3.67】

研修委員会を中心に新たなプログラム開発を行い､各団体のニーズに合った活動ができるように配慮した。

(ｲ) 利用者の層に応じた､健康増進や体力づくりのための活動プログラムの提供【3.67】

新たに活動プログラム集を作成し､学校団体から社会教育団体まで幅広い団体のニーズ合ったプログラムを提供することができた。

(ｳ) ボランティアの確保及び活用の充実【3.27】

ボランティアセミナーを複数回実施し､ボランティアの確保とともに、参加者のスキルアップに努めた。

(ｴ) 職員一人一人の絶えざる研鑽と修養【3.60】

お互いのプログラム指導を見合う場を設けたり､研修の場を設けたりして、所員全体のスキルアップに努めた。

エ　生涯学習施設の拠点として、独創的で多様な企画事業と研修会を充実します。【3.40】

(ｱ) 自然体験活動の促進及び歴史･文化に係る事業の工夫【3.57】

会津坂下町と連携した高寺山登山や束松峠ウォーキング大会などの企画事業を通して､地元の歴史に触れる場を設定した。

(ｲ) 社会や利用者のニーズに応え、前年踏襲にとらわれない事業の企画立案【3.21】

年６回の未来キッズ生き活き事業において様々なプログラムを提供するとともに､利用者のニーズに応えらえるよう創造的な事業の企画立案に努めた(あったかふれあいまつり・楽習宿など）。

(ｳ) Ｒ－ＰＤＣＡサイクルの確実な実施【3.21】

Ｒ－ＰＤＣＡサイクルを確実に実施することにより､反省点を活かして､次の事業などの計画立案を進めることができた。

(ｴ) 地域及び生涯学習施設（自然の家､公民館､美術館､博物館､図書館等）との連携【3.57】

磐梯青少年交流の家や地元の公民館との連携事業を実施するなど、相互に高めあえる場の設定をした。

オ　利用者数、利用者層を拡大する効果的で多様な広報活動を充実します。【3.30】

(ｱ) ホームページの充実及び適時的確な更新【3.22】

タイムリーな話題を時期を逃さず､ホームページにアップできるよう、担当を中心に全所員で更新に努めた。

(ｲ) 情報発信の工夫【3.00】

新たな利用者層にアプローチするために､フェイスブックを活用し、利用促進につなげることができた。

(ｳ) 誘客活動の工夫【3.33】

学校、公民館など教育施設だけではなく、企業訪問を行い、利用者の拡大につなげることができた。

(ｴ) 記録の蓄積及びデータの確実な分析【3.57】

利用者アンケートや食堂アンケートなどの利用者の声を、確実に集計、分析し、改善につなげることができた。

２　施設・設備の概要

⑴　所在地

河沼郡会津坂下町大字八日沢字西東山 4495 番１

⑵ 宿泊定員

ア 本 館 26 室 292 名(うち１室障がい者用)

イ ロッジ 10 棟 150 名

ウ テント 10 張 60 名

⑶ 敷地面積

249,848.98 ㎡

⑷ 建物面積

ア 延床面積 5,893.8 ㎡

(ｱ) 管理研修棟（鉄筋造２階建）

(ｲ) 宿泊棟（鉄筋造２階建）

(ｳ) プレイホール（鉄筋造）

(ｴ) アセンブリホール（鉄筋造）

(ｵ) 機械棟（鉄筋造３階建）

(ｶ) ロッジ（木造平屋建）

(ｷ) 野外活動管理センター（鉄筋造）

(ｸ) 炊飯場(鉄筋造)

(ｹ) 薪置場(コンクリートブロック造)

(ｺ) 車庫(鉄筋造)

(ｻ) 野外便所(鉄筋造)

⑸ 運動広場面積

8,500 ㎡

⑹ 設備備品等

ア フィールドアスレチック

イ 野外活動用具、野外炊飯用具、運動用具

ウ 双眼鏡、天体望遠鏡、テレビ、ＶＴＲ

エ 液晶プロジェクター、ＣＤカセットプレーヤー

オ ピアノ、オルガン

カ 伝承遊びセット

キ クラフト用具

ク 各種オリエンテーリング用具

ケ アルペンスキー

コ 歩くスキー（クロスカントリースキー）

サ そり

シ スノーシュー

ス 営火場（４か所）

セ 諸活動コース

ソ その他

３ 利用状況

⑴ 利用可能対象者

ア 学校教育団体（幼稚園、小学校、中学校、特別支援学校、高校、大学、高等専門学校等）の構成員及びその指導者

イ 社会教育団体（公民館、子ども会、保育所、スポーツ少年団体、老人会、勤労青少年団体等）の構成員及びその指導者

ウ 教育長が適当と認めた者

エ その他、家族などの一般人

⑵ 平成 30 年度の利用団体数

ア 625 団体

イ 実利用者数 36,546 人

ウ 延利用者数 46,366 人

⑶ 子どもたちへ体験活動機会提供

ア 「未来キッズ生き活き事業」（６回）

イ 企画事業の実施（14 事業）

４ 企画事業

⑴ 研修会事業

ア 学校団体指導者事前研修会

(ｱ) 目的

a 本所の設立の趣旨、教育目標、方針、利用のねらい及び運営方法を理解させる。

b 児童生徒が安全に生活し充実した活動が行えるよう屋内外の施設環境を確認するとともに、各種プログラムのねらいや配慮事項を理解させ、効果的な活動計画が作成できるようにさせる。

c 集団宿泊生活が円滑かつ効果的に進められるよう同じ時期に宿泊する他の学校団体との活動及び役割分担等について調整を図らせる。

(ｲ) 期日、対象、参加者数

a 第１回：平成 30 年４月 18 日(水)
５月 10 日(木)～６月 16 日(土)に利用する学校の教職員 42 名参加

b 第２回：平成 30 年４月 19 日(木)
６月 19 日(火)～７月 18 日(水)に利用する学校の教職員 47 名参加

c 第３回：平成 30 年４月 25 日(水)
８月 29 日(水)～10 月 26 日(金)に利用する学校の教職員　名参加

(ｳ) 研修内容

a 利用の仕方及び利用日までの手続き準備物の確認

b 活動計画の作成及び同時期利用団体との調整

c プログラム及び活動内容、指導方法の理解

d 施設及び避難経路の確認

イ 社会教育団体指導者事前研修会

(ｱ) 目的

a 本所の設立の趣旨、教育目標、方針、利用のねらい及び運営方法を理解させる。

b 社会教育活動が安全に充実したものになるよう屋内外の施設環境を確認するとともに、各種プログラムのねらいや配慮事項を理解させ、効果的な活動計画が作成できるようにさせる。

c 集団宿泊生活が円滑かつ効果的に進められるよう、同じ時期に宿泊する他の社会教育団体との活動及び役割分担等について調整を図らせる。

(ｲ) 期日、対象、参加者数

a 平成 30 年６月 17 日(日)

b 平成 30 年７月 21 日(土)～８月 26 日(日)に利用する社会教育団体の指導者
23 団体 30 名参加

(ｳ) 研修内容

a 利用の仕方及び利用日までの手続き準備物の確認

b 活動計画の作成及び同時期利用団体との調整

c プログラム及び活動内容、指導方法の理解

d 施設及び避難経路の確認

ウ　ボランティアのつどい

(ｱ) 目的

a ボランティアに関する講話や実践例などを聞く機会とし、ボランティアの意識高揚を図る。

b ボランティアメンバーの交流の場を設け、情報交換などを通してボランティアとしての意欲を高める。

c プログラム体験の機会を設け、各種オープンデー等に協力する際に必要な体験活動に関わるスキルを身につけることができるようにする。

(ｲ) 期日、対象、参加者数

a 第１回：平成 30 年４月 22 日(日) 14 名参加

b 第２回：平成 30 年 12 月 19 日(日) ６名参加

(ｳ) 研修内容

a ボランティア概論

b 野外クッキング研修

c 本所プログラム研修

⑵ 教育研究事業

ア　高寺山歴史勉強会

(ｱ) 目的

a 高寺山山開き前日に歴史勉強会を開催し、いにしえのロマンと豊かな自然を有する高寺山及び周辺の歴史や文化を学び、興味を持って高寺山山開きに参加させるようにする。

(ｲ) 期日、対象、参加者数

a 平成 30 年４月７日(土) 41 名参加

b 一般対象

(ｳ) 活動内容

a 歴史勉強会

イ　ザ・マーズキャンプ

(ｱ) 目的

a 15 年ぶりの火星大接近の時期に星空や野鳥を鑑賞しながら、宇宙のロマンや自然に触れるとともに、会津自然の家や仲間とのふれあいを通して、心身のリフレッシュや体力増進を図る。

b 本所ならではのプログラムを実際に体験することで利用促進につなげる。

(ｲ) 期日、対象、参加者数

a 平成 30 年７月 21 日(土)～22 日(日) 1 泊 2 日

b 県内の小学校４～６年生　39 名参加

(ｳ) 活動内容

a 交流活動

b 野外炊飯

c 班別活動（ワークショップ・木工クラフト）

d 星空観賞会

e バードウオッチング

ウ　通学キャンプ

(ｱ) 目的

a 本所での集団生活や様々な体験活動を通して、子どもたちの自律的な生活態度やよりよい人間関係を形成するための社会性を育成する。

b 中学校進学前に、他校との交流を図ることにより中学校進学の不安を少しでも解消できるようにする。

(ｲ) 期日、対象、参加者数

a 平成 30 年 11 月６日(火)～９日(金)
３泊４日　40 名参加

b 会津坂下町の小学校５～６年生

(ｳ) 活動内容

a 交流活動

b 学習（宿題・読書）

c 屋外活動

エ　冬休み楽習宿

(ｱ) 目的

a 児童に冬季休業中の学習課題等に効果的に取り組む場を設定する。

b 自主性や創造性を育みながら、学習の仕方や基本的な生活習慣を身に付けさせる。

c 児童のふれあいや東京大学生ボランティアとのふれあいの場を設定し、参加者相互の交流を図る。

(ｲ) 期日、対象、参加者数

a 平成 30 年 12 月 25 日(火)～27 日(木)
２泊３日　94 名参加

b 県内の小学校４～６年生

(ｳ) 活動内容

a お楽しみ交流会

b 学習（国語、社会、算数、理科）

c 体力づくり

d 東大生との情報交換会

⑶ 利用促進事業

ア　第 14 回高寺山山開き（会津坂下町との共催）

(ｱ) 目的

a いにしえのロマンと豊かな自然を有する高寺山の山開きを行い、登山者の安全を願うとともに、町の教育観光資源を広く内外に広報し、地域振興に資する。

b 参加者同士が共に汗を流し登山することより、健康づくりと温かい心の交流の機会を提供する。

(ｲ) 期日、対象、参加者数

a 平成 30 年４月８日(日) 150 名参加

b 一般対象

(ｳ) 活動内容

a 山開き式典

b 高寺山登山

c お楽しみ抽選会、豚汁サービス

イ　春のオープンデー(未来キッズ生き活き事業との併催)

(ｱ) 目的

a 自然の家オープンデーを実施することにより､県民に会津自然の家内外の環境やプログラムについて公開する。

b 子どもたちに､心身ともにリラックスできる環境とプログラムを体験する機会を提供し明るく楽しい活動をさせる。

(ｲ) 期日、対象、参加者数

a 平成 30 年５月 27 日(日) 442 名参加

b 県内の幼児、小・中学生とその家族対象

c ボランティア 14 名

(ｳ) 活動内容

a プログラム体験コーナー（無料）

カヌー、アスレチック、森遊び、火おこし体験、ミニ樹木ＯＬ、ＵＦＯゴルフ、クラフト、段ボール迷路

ウ　お月見コンサート 2018

(ｱ) 目的

a 「月見」にふさわしい音楽や民話の語りを聴き、世代を越え、共に秋の夜長を楽しむ。

(ｲ) 期日、対象、参加者数、出演者数

a 平成 30 年９月 29 日(土) 160 名参加

b 一般対象

c ピアノ演奏、ゴスペル、民話の出演者 40 名

(ｳ) 活動内容

a 音楽コンサート

b ゴスペルライブ

c 会津の民話

エ　あったかふれあいまつり

（未来キッズ生き活き事業との併催）

(ｱ) 目的

a 野外活動プログラムや各種体験コーナーなどの自然や人とのふれあいを通して、心身のリフレッシュや体力増進を図る。

b 県民に施設及び周辺の環境を開放し、活動プログラムを体験することができる場を提供することにより、自然体験機能及び生涯学習機能を兼ね備えた本所への理解を深めさせ、今後の集客につなげる。

c 各団体と連携を図ることにより､体験活動の充実を図り、生涯学習の拠点として自然の家に対する理解を深める。

(ｲ) 期日、対象、参加者数

a 平成 30 年 10 月 14 日(日) 489 名参加

b 県内の幼児、小・中学生とその家族対象

(ｳ) 活動内容

a 協力外部団体（おもしろ理科教室、木練がっこう、ツリーイング、秘密基地づくり、水辺の生き物観察、あったかマルシェ、読み聞かせ、会津民話)

b 本所プログラム（森遊び、カヌー、アスレチック、段ボール迷路、どこどこＯＬ、スタンプラリー)

オ　東松峠ウォーキング大会 2018

(ｱ) 目的

a 「旧越後街道」は、古くから会津若松と新潟県新発田市を結ぶ重要な街道であり､文化庁が選定する｢歴史の道百選」に選定されており、地域の歴史的文化遺産である「東松峠」の再確認と継承・維持と保護の一環とする。

b 東松峠ウォーキング大会に､地区外から参加を集うことにより、交流・地域の活性化を図る。

(ｲ) 期日、対象、参加者数

a 平成 30 年 10 月１日(土) 130 名参加

b 一般対象

(ｳ) 活動内容

＜コース＞

高寺コミュニティーセンター→天屋・本名→三本松→旧道→里檀→東松洞門→峠の茶屋跡→新道→三本松→天屋の阿弥陀様（希望者）→高寺コミュニティーセンター　※片門薬師堂（希望者）

カ　新そばにチャレンジ

(ｱ) 目的

そば打ち体験を通して、郷土の食生活、食の大切さを理解し、参加者同士の交流を深める。

(ｲ) 期日、対象、参加者数

a 第１回：平成 30 年 11 月 17 日(土)
67 名参加、講師２名
第２回：平成 30 年 11 月 18 日(日)
66 名参加、講師２名

b 一般対象

(ｳ) 活動内容

a そば打ち実演

b そば打ち体験

c そば茹で実演

d 実食

キ　手作り森のクリスマス

(ｱ) 目的

a クリスマスケーキ、クラフトづくりを通して、楽しみながらケーキを作ったり、自然素材を工夫したりすることにより、家族やグループ間の交流、親睦を深める。

b 手作りの良さや自然素材の温かみを味わってもらうとともに、本所プログラムや施設についての理解を図り、今後の利用促進につなげる。

(ｲ) 期日、対象、参加者数

a 第１回：平成 30 年 12 月 15 日(土)
43 名参加、講師１名
第２回：平成 30 年 12 月 16 日(日)
54 名参加、講師１名

b 県内の小・中学生とその家族対象

(ｳ) 活動内容

a クリスマスケーキ作り

(a) 講師の実演

(b) 生地づくり、ロールの仕方、デコレート

b クリスマスクラフト作成(フォトフレーム)

c 試食

ク ウィンターフェスティバル

(ｱ) 目的

会津自然の家での宿泊、雪国ならではの冬を楽しむ活動などを通して、会津の冬や伝統文化のすばらしさを体験するともに、参加者相互の交流を深めさせる。

(ｲ) 期日、対象、参加者数

a 平成 31 年１月 19 日(土)～20 日(日)
　１泊２日　137 名参加

b 県内の小・中学生とその家族対象

(ｳ) 活動内容

a １日目：雪遊び（そり・チューブすべり）、アイスクリーム作り、スノーシュー体験、雪灯籠作り

b ２日目：猪苗代スキー場（アルペンスキー）

ケ クラフトキッズフェア

(ｱ) 目的

a 親子で工夫し､楽しみながらクラフト作成を行うことにより、子どもの発想力や創造力を高めたり、親子の絆を深めたりする。

b クラフト作成の場を提供することにより､本所のプログラムについて理解を深める機会とする。

(ｲ) 期日、対象、参加者数

a 平成 31 年３月３日(日)　219 名参加

b 県内の幼児、小・中学生とその家族対象

c ボランティア８名

(ｳ) 活動内容

a もっくんクラフト

b 木の実アート

c ぶんぶんごま

d カラーキャンドル

e 空気砲

f 飛行リング

⑷ その他の企画事業

ア 未来キッズ生き活き事業

(ｱ) 目的、対象

県内の子どもたちとその家族を自然の家へ招待し、プレイリーダーの協力も得ながら、一日を通して、自然の家でのプログラムに基づき、心身の健康や運動不足解消や体力増進となる取組を実施する。

会津地方の１２歳以下の子どもたちとその家族を対象とする。

(ｲ) 名称、期日、参加者数

a 春のオープンデー・・・・・・・・・・・前述
　平成 30 年５月 27 日（日）

b 会津自然の家里山開放デー①
　平成 30 年６月 10 日（日）　157 名参加

c 会津自然の家里山開放デー②
　平成 30 年７月 22 日（日）　343 名参加

d 会津自然の家里山開放デー③
　平成 30 年９月２日（日）　142 名参加

e あったかふれあいまつり・・・・・・・前述
　平成 30 年 10 月 14 日（日）

f そりすべり団体開放　※事前予約団体
　平成 31 年１月８日(火)～２月 24 日(日)
　　１月　16 団体　703 名
　　２月　21 団体　940 名　計 37 団体　1643 名

g そりすべり家族開放
　第１回：平成 31 年１月 27 日（日）202 名参加
　第２回：平成 31 年２月　３日（日）185 名参加
　第３回：平成 31 年２月 10 日（日）265 名参加
　第４回：平成 31 年２月 17 日（日）　96 名参加

(ｳ) 活動内容

フィールドアスレチック、森遊び、ＵＦＯゴルフ、草すべり、各種オリエンテーリング、そりすべり、スノーチューブ、エアボード

第 18 節　福島県いわき海浜自然の家

１　概要

福島県いわき海浜自然の家は、海と山の豊かな自然環境の中で様々な活動や集団宿泊体験を通して、心身ともに健全な青少年を育成することを目的とした社会教育施設として平成８年７月に開所した。

開所以来、学校の利用はもとより、スポーツ少年団、子ども会などの社会教育団体や家族などのあらゆる年齢層に利用されてきた。しかし、平成 23 年３月 11 日の東日本大震災により休所を余儀なくされ､同年 11 月１日から財団法人いわき市教育文化事業団を指定管理者として一部再開した。以降、利用者が安心して利用できる環境を創出するため、活動エリアの放射線量測定及びデータの公開を行うとともに、放射線量低減措置を講じている。

平成 23 年度には本館周辺、平成 24 年度にはつどいの広場やいこいの広場及び第５営火場周辺の芝生張替等による放射線量低減措置、平成 25 年度にはトリムランドの除染作業、野営場入り口付近の崩落現場の復旧工事を実施した。平成 26 年度には野営場の表土入替作業や営火場のレンガ交換などの除染作業を行い、安全安心な活動エリアの拡大・復旧に努めた。なお、復旧工事等により平成 25 年度まで使用できなかったロッジ・野外炊飯場等については、除染作業終了後の平成 26 年７月より使用を再開した。山林部の一部についても平成 29 年３月に除染を行ったが、一部の放射線量がいわき市の基準値まで低下していないこと、また、使用休止中に傷んだ遊歩道や各種遊具などの再整備が必要であることから、フィールドアスレチックや冒険の森などの山での活動プログラムの再開はできていない。

海浜活動については、四倉海岸の海水浴再開に合わせて平成25年度から砂の芸術、磯遊び、魚釣りのプログラムを再開した。平成28年度から川での活動として再開したいかだ乗り、カヤック乗りは、四倉海岸の復旧工事が終了した平成30年度から四倉漁港に活動場所を戻し、合わせてボディボードを再開した。

平成30年度の利用状況は、536団体、延べ利用者数45,020人であった。利用者数については、震災前の平成22年度（546団体 66,611人）に比して67%、このうち、学校教育団体の利用は、187団体延べ17,213人（平成22年度は342団体、延べ50,576人）と、団体数では54%、延べ人数では34%である。しかしながら、学校教育団体の利用者数は回復傾向が認められ、平成29年度に比べて3,039人の増となった。また、社会教育団体の利用数についても311団体と、平成25年度以降から連続で300団体を超え、総利用者数も３年連続で４万人超となった。平成30年12月26日に、開所以来の利用者130万人を達成した。

⑴ 平成30年度重点目標と成果

震災によって、これまでの自然体験活動が制限される中、少しでも多くの利用者が、新たな発見や感動、満足感・充実感を味わうことにより、本来の活動目的が達成されるよう引き続き次の目標に取り組んだ。

ア　本施設の設置目的の明確化とその周知及び利用促進を図る。

(ｱ) 自然体験活動が制限される中で教育施設として、青少年健全育成を目的とした利用のあり方などを考えながら受け入れを実施。山林部での活動内容が制限されていることから、野外活動やクラフト活動に新たなプログラムを加え、体験活動の充実を図った。

(ｲ) オープンデーやクラフトのつどいなどの企画事業を充実させ、利用の促進・広報につなげることができた。

(ｳ) 小・中学校等への利用促進のための積極的な情報提供、ＰＲ活動に努めるとともに、生涯学習施設としての役割に鑑み、教育文化施設や公民館への広報活動を行い、史跡・文化財めぐり、ニュースポーツなどを実施。さらには、公民館等との連携事業を展開するなど、新たな利用者開拓を行った。

イ　利用者のニーズに対応した施設運営に努める。

(ｱ) 幼児から高齢者まで、多様なニーズに対応した幅の広いプログラムの開発とクラフト活動の充実に努めた。

(ｲ) 企画事業を通してアンケート調査を実施し、利用者のニーズについての調査・研究を行い、ニーズに応じた支援を実施した。また、利用者の自主性・主体性を助長できるよう、支援方法の検討・改善に努めた。

ウ　事故の未然防止、危機管理体制の充実に努める。

(ｱ) 受付やオリエンテーション、活動支援において安全のための適切な助言や指導を行った。

(ｲ) 学校・社会教育団体ともに事前研修会を実施し、安全で有効かつ適切な施設の活用について周知徹底するとともに、利用団体の指導者に対して適切な助言を行い安全教育の充実を図った。

(ｳ) 東日本大震災を教訓として、事故発生時の緊急対応及び連絡体制を明確にするとともに、情報の共有化を徹底し危機管理体制の充実に努めた。

無線アンテナ設備の設置による海浜活動時等の情報通信網の整備や自然災害等での避難方法のマニュアル化など、利用者の安全と被害防止に努めた。

(ｴ) トリムランドの利用前に所員が点検を行うとともに、年１回の公園施設製品安全管理士による点検を行い、安全管理に努めた。

(ｵ) 施設全体と活動エリアである海岸、さらに現在使用休止中の山林部についても放射線量の測定を定期的に実施して公表した。

(ｶ) 所内にハチトラップを設置してスズメバチ対策を行った。また、所外での活動に備えて平成29年度に引き続き２台のＡＥＤをレンタルして安全対策の充実を図った。

エ　定期的な業務内容の点検と改善に努める。

(ｱ) 計画的かつ定期的な評価により、改善点の明確化を図り、密度の高い施設運営に努めた。

(ｲ) 多面的かつ多角的な視点から、業務遂行の在り方について検討し、開かれた施設運営に努めた。

(ｳ) 利用者へのアンケート結果を参考に、業務遂行の在り方を検討し、利用者の目線に立った支援や管理運営に努めた。

オ　地域との連携を深め、生涯学習実践の場として機能する施設運営に努める。

(ｱ) 環境ボランティアによる所内美化活動を通年で実施したほか、海浜活動を実施する舟戸海岸・四倉漁港の清掃活動を年１回行い、地域との連携を密接にするとともに地域に根ざした施設づくりに努めた。

(ｲ) 支援ボランティアが企画事業の一端を自主運営するなど、ボランティア活動の場の充実に努めた。

(ｳ) 公民館、支所、消防署、交番、教育文化施設等のほか、地域の各種団体など、関係機関との連携強化に努めた。

(ｴ) 地域の連携、協力を得て様々な企画事業を開催した。

⑵ 職員組織

職　　名	人員
所長	1
専門指導員兼次長	1
総括主査	1
副主任指導員	1
指導員	3
教育指導専門員	1
体験活動指導員	5
運転手	2
事務補助員	2
計	17

２　施設・設備の概要

⑴　所在地

いわき市久之浜町田之網字向山 53

⑵　宿泊定員

ア　本館定員　　　300 名（和室 28 室）
イ　ロッジ定員　　160 名（10 棟）
ウ　テント定員　　100 名（25 張）

⑶　敷地面積

350,171 ㎡

⑷　建物面積

6,696.97 ㎡

ア　中心施設
本　館（宿泊室、オリエンテーションホール、研修室、野外学習室、事務室、食堂、浴室等）
体育館

イ　野外施設
管理棟、ロッジ、便所等

⑸　野外活動施設面積

ア　つどいの広場　　7,000 ㎡
イ　多目的広場　　　8,890 ㎡
ウ　自然観察園　　　4,050 ㎡
エ　みんなの広場　　4,700 ㎡

⑹　設備備品等

ア　体育館
（バレーボールコート２面、バスケットボールコート１面(バスケットボールリング､ミニバスケットボールリング)、バドミントンコート２面、卓球台３台、ピアノ１台キンボール 他）

イ　野営場
（野外炊飯場、キャンプ用品一式、冷蔵庫　他）

ウ　野外活動設備
（フィールドアスレチックコース、冒険の森歩道、トリムランド、営火場５か所、各種オリエンテーリングコース、ナイトハイキングコース、ウォークラリーコース、ロープコース、マウンテンバイクコース　他）

エ　多目的広場
（ソフトボール、マウンテンバイクコース、サッカーゴール　他）

オ　その他
（視聴覚機器、無線機、天体望遠鏡、双眼鏡、七宝焼窯、マウンテンバイク、釣り用具一式、海浜用具一式、マイクロバス　他）

３　利用状況

⑴　平成 30 年度利用者数

延べ利用者数　45,020 人

内訳	学校教育団体	187 団体	17,213 人
	社会教育団体	311 団体	23,415 人
	ファミリー	9 団体	118 人
	企画事業		4,274 人

４　企画事業

⑴　研修会事業

ア　学校団体指導者事前研修会

(ｱ) 目的
本所の利用にあたって、自主的、主体的な活動を展開するため、施設見学や実技研修を行い、研修計画の立案やその実施についての理解を深める。また、学校間で調整を図り、宿泊体験活動が円滑に実施できるようにする。

(ｲ) 期日・対象及び参加者数
・期日　第１回平成 30 年４月 25 日(水)～26 日(木)
　　　　第２回平成 30 年５月 30 日(水)～31 日(木)
・対象　平成 30 年度利用の学校団体
・参加者数（延べ人数）
第１回 53 名　第２回 60 名

(ｳ) 研修内容
・施設紹介と利用の仕方について
・活動プログラムの紹介
・活動計画書の作成・調整

イ　社会教育団体指導者事前研修会(活動プログラム研修会)

(ｱ) 目的
施設見学や実技研修を通して、自主的、主体的な活動の進め方や研修計画の立案や実施についての理解を深め、活動が円滑に実施できるようにする。

(ｲ) 期日・対象及び参加者数
・期日　平成 30 年５月 18 日(金)
・対象　平成 30 年７月１日以降の利用団体及び参加希望団体
・参加者数　33 名

(ｳ) 研修内容
・施設紹介と利用の仕方について
・本所プログラム活動の紹介
・海浜活動(磯遊び)

ウ　ボランティア養成講座

(ｱ) 目的
自然体験活動を支援する上で、必要な知識と技術を習得するとともに、本所のボランティアとしての活動方法を学ぶ。

(ｲ) 期日・対象及び参加者数
・期日　平成 30 年５月 13 日(日)　参加者数　13 名
　　　　平成 30 年７月 15 日(日)　参加者数　10 名
　　　　平成 30 年９月 16 日(日)　参加者数　16 名
　　　　平成 30 年 12 月 16 日(日)　参加者数　16 名
・対象　高校生、大学生、一般

(ｳ) 内容
実施予定の自然体験活動・企画事業支援についての研修を行った。

⑵　利用促進事業

ア　春のオープンデー　(未来キッズ生き活き事業)
連携：会津自然の家、郡山自然の家

(ｱ) 目的

施設を地域の人々に広く開放し、本所への理解を深め、地域の中での自然の家の役割を認識し、多くの方々の協力及び参加を得ながら地域づくりやまちづくりに貢献する。さらに、ボランティアスタッフとのつながりを深め、生涯学習活動や施設運営の充実を図る。

(ｲ) 期日・対象及び参加者数

・期日　平成30年５月20日(日)
・対象　一般
・参加者数　835名

(ｳ) 内容

グラウンドゴルフ、マウンテンバイクなどのスポーツ体験で身体を動かし、缶バッジ作り、キーホルダー作りなどのクラフト体験を楽しんだ。また、餅つき体験や野外炊飯（カレー）、パトカー・消防車輌展示、鳴き砂展示、海浜レストラン、海浜風呂などでも楽しんだ。

イ　遊ぼう！初夏の海で

(ｱ) 目的

自然に親しみ､海での釣りや磯遊びを楽しみながら、協力して活動することで家族の絆を深める。

(ｲ) 期日・対象及び参加者数

・期日　平成30年６月17日(日)
・対象　小学生とその家族
・参加者数　40名

(ｳ) 内容

堤防や磯場でさまざまな魚を釣り、水生生物を観察する磯遊びなどを楽しみながら海への理解を深めた。

ウ　アウトドアクッキング

(ｱ) 目的

野外のかまどを使うことにより火の取扱いや料理する楽しさを学ぶ。併せて、本所への理解、利用促進を図る。

(ｲ) 期日・対象及び参加者数

・期日　平成30年11月18日(日)
・対象　小学生とその家族
・参加者数　40名

(ｳ) 内容

自然の中で協力しながら、ダッチオーブンを使った煮込みハンバーグ、直火でのスイートポテト作りを行い、野外炊飯の楽しさや共同作業の大切を学んだ。

エ　スポーツフェスティバル（未来キッズ生き活き事業）

(ｱ) 目的

身体を動かす大切さを知り、幼児・児童には体力向上、成人には健康維持を促進し、県民の健康的に生活するための意識向上を図る。

(ｲ) 期日・対象及び参加者数

・期日　平成30年10月14日(日)
・対象　一般
・参加者数　304名

(ｳ) 内容

マウンテンバイク、ノルディックウォーキング、ヨガ体験、HIP HOP ジャズダンス体験などを楽しみ、目的や体力に合わせて身体を動かした。

オ　秋のオープンデー（未来キッズ生き活き事業）

連携：会津自然の家、郡山自然の家

(ｱ) 目的

施設を地域の人々に広く開放し、本所への理解を深め、地域の中での自然の家の役割を認識し、多くの方々の協力及び参加を得ながら地域づくりやまちづくりに貢献する。さらに、ボランティアスタッフとのつながりを深め、生涯学習活動や施設運営の充実を図る。

(ｲ) 期日・対象及び参加者数

・期日　平成30年10月28日(日)
・対象　一般
・参加者数　1,257名

(ｳ) 内容

ディスクゴルフなどのスポーツ体験やアスレチックで身体を動かし、貝殻ストラップ作りや飛ぶ輪っか作りなどのクラフト体験を楽しんだ。また、高校生によるフラダンスや地元団体による太鼓の鑑賞、パトカー・消防車輌展示、鳴き砂展示、芋煮汁振る舞い、海浜レストラン、海浜風呂などでも楽しんだ。

カ　ふれあいオータムキャンプ

(ｱ) 目的

自然のすばらしさや人とふれあう喜びを体得し、協調性・社会性を身につけ、自立心を養う。

(ｲ) 期日・対象及び参加者数

・期日　平成30年11月10日(土)～11日(日)
・対象　小学生
・参加者数　33名

(ｳ) 内容

交流ゲームや背戸峨廊でのハイキング、採取した落ち葉を使ったクラフト、宝探しゲーム、野外炊飯（なみえ焼きそば、円盤餃子）などを行い参加者同士の親睦を深めた。

キ　親子のつどい

(ｱ) 目的

親子での共同作業を通して、家族の絆を深めるとともに、他の家族との交流の促進を図る。

地域の人々やボランティアへ活動の場を提供し、交流の推進を図る。

(ｲ) 期日・対象及び参加者数

・期日　平成30年12月１日(土)～２日(日)
・対象　幼児から小学生とその家族
・参加者数　10名

(ｳ) 内容

家族でクラフト体験(クリスマスリース､オーナメント作り)、野外炊飯(ビーフシチュー、クリームスパゲッティ､バームクーヘン)､交流ゲームなどを楽しんだ。

ク　冬を楽しもう！～スキー教室～

(ｱ) 目的

雪で遊ぶことが少ないいわきの親子を対象に、県内の風土の豊かさを感じ、冬の自然体験活動の楽しさを学ぶ。

(ｲ) 期日・対象及び参加者数

・期日　平成 31 年１月 13 日(日)

・対象　小学生とその家族

・参加者数　35 名

(ｳ) 内容

猪苗代スキー場でスキーやそり遊びなどのウィンタースポーツを体験した。

ケ　クラフトのつどい

(ｱ) 目的

創作活動の場を提供し、ものづくりの楽しみや生涯学習の振興に寄与することを目的とする。併せて、本所への理解、利用促進を図る。

(ｲ) 期日・対象及び参加者数

・期日　平成 31 年２月 17 日(日)

・対象　幼児から中学生とその家族

・参加者数　181 名

(ｳ) 内容

缶バッジ、レジンキーホルダー、焼き板、草木染め（藍染め）、貝殻ストラップ作りなどを楽しんだりトリムランドで身体を動かしたりした。

コ　森の音楽会

(ｱ) 目的

地域の文化活動の推進と本所の利用促進を図る。

(ｲ) 期日・対象及び参加者数

・期日　平成 31 年３月 10 日(日)

・対象　一般

・参加者数　184 名

(ｳ) 内容

ディナーバイキング料理と平商業高等学校吹奏楽部の演奏を楽しんだ。

(3)　その他の企画事業

ア　未来キッズ生き活き事業　主催:福島県教育委員会

(ｱ) 目的

身体を動かすプログラムを提供し、県民の体力向上の促進を目的とする。

(ｲ) 期日・対象及び参加者数

・期日　平成 30 年 11 月 18 日(日)　参加者数 343 名
　　　　平成 31 年１月 20 日(日)　参加者数 159 名
　　　　平成 31 年２月 10 日(日)　参加者数 144 名

・対象　幼児から小学生とその家族

(ｳ) 内容

所内のアスレチックで身体を動かしたり、野外ゲームやラダーゲッター、凧あげなどを楽しんだ。

イ　ウィンターフェスティバル！　主催:会津自然の家

(ｱ) 目的

会津の冬や伝統文化のすばらしさを体験するとともに、参加者相互の交流を深める。

(ｲ) 期日・対象及び参加者数

・期日　平成 31 年１月 19 日(土)～20 日(日)

・対象　小・中学生とその保護者

・参加者数　33 名（当所からの参加者）

(ｳ) 内容

会津自然の家に宿泊し、スキーやスノーチューブ作り、雪灯ろう作りなどの冬の自然体験活動を満喫した。

(4)　連携事業

ア　公民館等連携講座（全５件）

(ｱ) 目的

いわき市立公民館、教育文化施設などと連携し、史跡見学・歴史講座、ニュースポーツ体験などを通じて、社会教育団体等の利用促進を図った。

(ｲ) 期間・対象及び参加者数

・期日　平成30年４月１日(日)～平成31年３月31日(日)

・対象　成人

・参加者数　301 名

(ｳ) 内容

史跡見学・歴史講座のほか、ストラックアウトなどのニュースポーツを体験した。

イ　出前講座（全７件）

(ｱ) 目的

自然の家の活動内容の紹介と学校及び社会教育団体等への利用促進を図るために、また、生涯学習支援をするため出前講座を行う。

(ｲ) 期間・対象及び参加者数

・期日　平成30年４月１日(日)～平成31年３月31日(日)

・参加者数　2,018 名

(ｳ) 内容

いわき市内の公民館などで、主に児童・生徒を対象としたクラフトの出前講座を実施。

(5)　その他

ア　タイ青少年日本語研修(タイ王国カインドエンジェル)

(ｱ) 期日　平成 31 年３月 18 日(月)～４月 18 日(木)

(ｲ) 内容

タイ青少年 16 名が、32 日間にわたり日本語学習と観光施設見学、茶道などを体験し、国際交流、日本文化への理解を深めた。